病気・人間・社会

Disease, Human, Society

担当教員名 法木 左近 、道信 良子									
科目区分 共通関目 選択	連科	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	1 年生
開講期 後期	単位	拉数 2		オフィ	スアワー	授業 ます	終了後、電子メ [.]	ールで質問	を受け付け
メールアドレス	法木:	snoriki 0	大尾に	@fpu. ac	. jp 道信:	michir	nor の末尾に@fp	u. ac. jp	
授業概要	ーバル ついて	な環境に 理解を深る	おける優 めるとと	建康の課 ∶もに、タ	題について考	察する 間全体	(化とのかかわり る。後半 10 回は はについて理解す る。	法木が担当	し、病気に
到達目標	2. グ 3. 遺 4. 脳 5. 障	ローバルを 伝性疾患、 血管障害を 害や国際	な環境に 先天男 や神経変 生活機能	こおける(建常、性: 変性疾患 能分類に	健康の課題に 分化疾患、NI と社会につい ついても理解	:ついで PT に できる			
				授業記	十画・内容				

(第1回~第5回 道信良子)

第1回 健康と文化

第2回 病気と治療

第3回 医療の体系

第4回 環境と健康

第5回 グローバル化と健康・ウェルビーイング

(第6回~第15回 法木左近)

第6回 成長と発達、先天異常の分類、出生前診断

第 7回 染色体異常、性分化疾患、性の決定とジェンダー

第8回 性・年齢別に見た主な死因の構成割合、健康格差

第9回 糖尿病、フットケア

第10回 脳卒中、脳出血、クモ膜下出血

第11回 脳梗塞、動脈硬化、血栓と塞栓

第12回 高血圧、大動脈解離

第13回 認知症、認知症支援の歴史

第 14 回 神経変性疾患

第15回 老年医学、国際生活機能分類

遠隔授業となった場合、Zoomなどによるオンライン授業で対応する。

キーワード	文化、環境、グローバル化、ウェルビーイング、疾病、健康、病理、先天異常、生活習慣 病、脳血管障害、国際生活機能分類
教科書	対、脳血管障害、国際工冶機能が規 道信良子編著『いのちはどう生まれ、育つのか』岩波書店 2015 年 880 円
参考書	必要に応じて教員が講義時に指示する。

評価方法・評価基準	評価方法: 第1~5回(道信) 個別課題レポート(40%) 第6~15回(法木) 試験(60%) 評価基準: (道信) 課題の理解、論旨の一貫性、主張の明確さ (法木) 60点以上 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。
関連科目	医学概論
履修要件	
必要な事前・事後学修	必要に応じて教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 病理専門医であり病理診断や病理解剖などの実務経験をもつ教員が、病気を人間、社会と 関連づけて概説する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

. /_ | __ __ _ = _

居住福祉論								
Housing and Living Science								
担当教員名 内山	担当教員名 内山 秀樹							
科目区分 共通関連科 目 選択 授業方法 講義 授業の実施方法 対面授業 対象学年 福祉: 1 ⁴ 看護: 2 年								
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	授業終了後適宜対応					
メールアドレス	pt-huchiyama-g@g. fpu. a							
授業概要	少子高齢社会における社会的弱者のすまいと暮らしのあり方について居住福祉を切り口に現状、課題、対応策について講述する。生活を支える基盤としての住居の役割、歴史、 伝統的木造住宅の特性、バリアの改善手法や制度、高齢者に優しく快適で安全安心な住環境について、その基礎知識、改善方策についてグループワークも含めて学ぶ。							
到達目標	福祉・看護・保健領域の専門家として、また「賢い」市民として必要な、福祉的視点からのすまいの住環境整備に関する基本的な知識を身に付けることができる。具体的には以下のとおりである。 ①心豊かな安心安全な生活をおくるための住まいのあり方に関する住民学的知識							
		授業計画・内容						
第 1 回 オリエン	テーション-居住福祉論 σ)学びの概要 課題 1	: わが家のバリアチ	ェック				
第2回 すまいの	役割-気候風土とすまい、	社会的環境とすまい						
第3回 社会的弱	者とすまい一住まいに潜む	お危険、在宅福祉とす	まい					
第4回 なぜ日本の	のすまいはバリアが多い?	ー日本の伝統的住宅	の変遷と特性					
第5回 プレゼン	課題1:我が家のバリア	チェック報告						
第6回 在宅福祉	第6回 在宅福祉と住宅のバリアフリーの意義-ころばぬ先の杖と知恵							
第7回 福祉住環	境整備の手法-移動空間、	水回り等						
第8回 福祉住環	境整備の進め方(動画によ	くる理解)						
第9回 福祉住環境整備の事例研究1 課題2:改修計画の個人提案								

- 第10回 福祉住環境整備支援のしくみとその実際一介護保険制度等の流れ
- 第11回 福祉住環境整備の事例研究2:グループワーク
- 第12回 福祉住環境整備の事例研究3:グループ提案(課題3)の取りまとめ
- 第13回 福祉住環境整備の事例研究4:グループ提案のプレゼンテーション
- 第14回 福祉のまちづくり-安心して暮らし続けられるまちづくり
- 第15回 講義のまとめと期末レポートの課題4の説明

遠隔授業となった場合は、オンライン(zoom)で講義を実施する。

キーワード	社会的弱者、バリアフリー、住宅改修、介護保険制度、高齢者住居、福祉のまちづくり、 コレクティブハウジング、グループホーム
教科書	毎回資料を配布
参考書	毎回資料を配布
評価方法・評価基準	成績評価は、以下の4つの課題と毎回のふりかえりシートの記述内容で評価する。 課題1:20点(間取り図のわかりやすさ、チェック内容等)、課題2:20点(文章構成力、 論理性等)、課題3:20点(将来予測力、課題解決度、間取り表現力等)、課題4:期末レ

	ポート:30点(文章構成力、論理性、文章ルール等)、ふり返りシート:10点(受講姿勢) この他適宜動画を鑑賞してレポートを2つ課す予定で、これも成績評価の対象とする。
関連科目	福祉のまちづくり論、医療福祉工学、高齢者福祉論、障害者福祉論、地域・在宅看護学
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	可能な限り次回講義の資料を事前に配布するので、毎回 1 ~ 2 時間程度の事前、事後学習 をした上で臨む事。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 民間コンサルタントで22年間、住宅政策や福祉のまちづくりのコンサルティングに携わっていた経験をふまえ、高齢者にとって優しく快適で安全・安心な福祉住環境整備の方策について講述する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	授業は、基本的にパワーポイントによるスライド投影で行う。写真、図表等によりビジュアル化する。授業終了後、質問、意見、感想等についてふり返りシートを毎回提出してもらい、必要な事項についてその次の回に回答、双方向型授業のツールとする。準備学習については教員が講義時に指示する。

福祉のまちづくり論

Community Development

担当教員名 佐里	予治								
科目区分 共通関									
目(看護福祉)	授	業方法 講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	1年	
選択			-		1				
開講期 後期	単位数	女 2	オフィ	スアワー	水曜	日5限			
メールアドレス	sano162i	末尾に「@」	اع (fpu. a	c. jp」をつけ ⁻	てくた	さい。			
	生活課題	を解決するため	めの地域	福祉活動を介	した	まちづくりについ	いて論述しま	す。小地域	
	(自治会、学区)単位での個別支援と地域支援およびシステム構築のそれぞれの活動を念								
授業概要	頭に、公(市町村)と民(自治会、社会福祉協議会、法人、NPO、民生委員)の一体的な								
	まちづくりを解説します。福祉のまちづくりによる地域住民・高齢者福祉・児童福祉・障								
	害者福祉	害者福祉分野の諸問題や課題の解決策や予防策を事例を通して考察します。							
	福祉のま	ちづくりに必	要な社会	福祉の基本的	な考	え方や歴史が理角	解できる。		
	我が国に	おける福祉ま	ちづくり	の歴史的経緯	を理解	解できる。			
	社会福祉	計画(行政、)	民間)か	らみる福祉の	まち	づくりを理解でき	きる。		
立小辛 C 1種	福祉のまちづくりによる地域生活課題を解決するための個別支援・地域支援・システム構								
到達目標	築について把握できる。								
	福祉のまちづくりにおけるシステム構築を通して地域生活課題の解決や予防について理								
	解できる	0							
	(本授業	は DP1, 5 に対/	むしてい	る)					
			授業調	計画・内容				_	

授業計画・内容

- 第1・2回 福祉のまちづくりに必要な社会福祉学の基本的な考え方と生活課題の把握
- 第3・4回 社会福祉学の歴史的考察(欧州)と福祉のまちづくりの歴史(日本)
- 第5・6回 社会福祉計画(行政計画;市町村、民間計画;社協)から考察する福祉のまちづくり
- 第7・8回 地域コミュニティ型組織(隣組、自治会)を軸に構築する福祉のまちづくり(早期発見-早期つ なぎー早期相談ー早期サービス確保→見守り・支え合い・助け合い)
- 第9・10回 福祉のまちづくりによる高齢者福祉課題(認知症、寝たきり)の解決策と予防策
- 第11・12回 福祉のまちづくりによる児童福祉課題(不登校、発達障害、虐待)の解決策と予防策
- 第13・14回 福祉のまちづくりによる障害者福祉課題(精神障害)の解決策と予防策
- 第15回 福祉のまちづくりの今後の課題

遠隔授業となった場合には、Zoom でのオンライン授業と GC での資料配布、授業後の質問/解答記入を基本と する。

キーワード	地域共生社会 地域福祉 社会資源 まちづくり well-being
教科書	資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法・評価基準	授業への参加態度(20%)、定期試験(知識を問う穴埋め問題50問×2=100、60 点以上合格)(80%)
関連科目	地域福祉論、高齢者福祉論、児童福祉論、障害者福祉論

履修要件	
必要な事前・事後学修	福祉の諸課題を各自で調べて授業に臨むこと (60分)
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 高齢者福祉施設、子ども家庭相談員
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

医療福祉工学

Medical Welfare

担当教員名 石	田圭二、酒井涼、熊谷のそ	medical wellare					
科目区分 共通閉目 選択	関連科 授業方法 講義	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 2年			
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	メールにてしてくた	後にしていただくか、 ごさい。(メールでの対 いることが考えられま			
メールアドレス	石田: pt-ishida-ot2 pt-kuma2@g.fpu.ac.jp	@g. fpu. ac. jp 酒	井 : pt-r-sakai2@g.	fpu. ac. jp 熊 谷 :			
授業概要	本講義では, 医療分野お開発思想、機器の評価なて理解していく。						
本講義を通じて、医用福祉工学の概要を理解し医療福祉分野で十分活用できるために、現在までに開発され設備や器具の目的およびメリット・デメリットを説明できるような能力の獲得を目指す。 (本授業は、看護学科 DP1、DP5 に、社会福祉学科 DP1、DP4 に対応している。)							
		授業計画 · 内容 					
授業は以下の内容は	に沿って講義を行 う 。進行	f度合いによって授業	内容を適宜変更する。				
第1回 医用	福祉工学総論			石田			
第2回 オー	ファンプロダクツとユニバ	ベーサルデザイン		石田			
第3回 福祉	工学①(自助具製作)			酒井			
第4回 福祉	工学②(自助具製作)			酒井			
第5回 福祉	工学③(起居・移動に関わ	る福祉機器)		熊谷			
第6回 福祉	工学④(食事、排泄、入浴	3、更衣に関わる福祉	機器)	熊谷			
第7回 福祉	工学⑤(洗濯、掃除、調理	埋などに関わる福祉機	器)	熊谷			
第8回 福祉	工学⑥(余暇活動、就学、	就労などに関わる福	祉機器) 1	複谷			
第9回 医用	工学①(生体計測技術: モ·	ーションキャプチャー	-)	石田			
第 10 回 医用	月工学②(治療支援技術:上	:肢訓練ロボット、VR	訓練)	石田			
第 11 回 医用	月工学③(生体機能代行補」	助技術:義肢・装具)		酒井			
第 12 回 医用	月工学④(治療機器・医用i	画像処理と診断)		酒井			
第 13 回 支援	後機器の開発①			石田			
第 14 回 支援	後機器の開発②(グループ	ワーク)		石田			
第 15 回 支援	後機器の臨床評価			石田			
※遠隔授業となった場合は,Google Meet で対応する。							
キーワード	人間工学、運動力学、バー	イオメカニクス、生体	上情報工学 上情報工学				
教科書	なし 適宜、資料を配布する						
参考書	なし						

評価方法・評価基準 レポート(100%)にて評価を行う

関連科目	なし
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	レポートに関連するユニバーサルデザインの調査
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり ・非能動型新規上肢リハビリ訓練ロボット及びその各種リハビリ手法との融合に関する研究 ・「楽な立ち上がり」訓練を支援する新型介助機器の開発とその臨床評価 ・超弾性合金を活用した装着型手指リハビリテーション機器の開発およびその臨床評価
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 介護理論・介護技術
その他	なし

臨床栄養学•生化学

Clinical Nutrition - biochemistry

	offinious natification brooks and the							
担当教員名 村上茂、牧野 みゆき(非)								
科目区分 専門 如	必修 授業ス	方法 講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 前期	単位数	1 :	オフィ	スアワー	月曜	日4限目 (N460))	
メールアドレス	murakami@fp	ou. ac. jp						
授業概要	学の生理・生 の食生活、 後半の講義	主化学的な基礎 高齢者や病気(た に罹患し : 牧野)	ヽて説明する した患者の臨	。その 床栄	肖化、吸収、体内 りうえで、生活習 養管理の問題を 敢と調理の基本を	習慣病予防・ 取り上げる。	改善のため
到達目標	 食物摂取 生活習慣 づいて理解 栄養素を 	病予防の食生活 し、それを説明 効率よく摂取す	収、栄養活、病態 活、病態 明できる する食品	§素としての 態(疾患)に る。 品学を学習し	応じた 、調理	. 排泄までの過程 −栄養管理を生理 型により栄養機能 対応している)	■・生化学的	な機能に基
			授業計	一画・内容				

講義(担当:村上)

第1回 栄養素と機能

第2回消化・吸収

第3回栄養素(糖)

第 4回 栄養素 (脂質)

第 5 回 栄養素 (蛋白質)

第6回 栄養素 (ビタミン)

第 7回 栄養素 (ミネラル、機能性非栄養成分等、その他)

第 8 回 生活習慣病等の栄養管理

第 9 回 栄養状態・各種病態の評価と栄養管理 I

第10回 栄養状態・各種病態の評価と栄養管理Ⅱ

講義・演習(担当:牧野)

第11回 主菜食品の特徴

第12回 副菜・主食食品の特徴

第13回 調理の基本と臨床調理

第14回 臨床調理の実際(治療食の基礎)

第15回 臨床調理の実際(栄養素の調整方法)

注)遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業、オンデマンド授業等

キーワード	栄養、生理、生活習慣病、臨床、調理
教科書	基礎栄養学(第 5 版)2020. 化学同人
参考書	新臨床栄養学(第2版)2012. 医学書院
評価方法・評価基準	1. 講義(村上:60 点):①期末試験(筆記)80% ②授業態度等20% 2. 講義・演習(牧野:40 点): 小テストにより評価する。

	※上記 1, 2 の合計点が 60 点以上を合格とする。
関連科目	解剖生理学、病態生理学、臨床病態学
履修要件	
必要な事前・事後学修	事後学修:関連科目と合わせて理解を深める。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業において、機能性食品や医薬品の研究開発・製品化に携わった経験のある教員が、実 務経験も織り交ぜながら授業を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 栄養学(食品学を含む。)
その他	

臨床薬理学

Clinical Pharmacology

担当教員名 村上 茂 、伊藤 崇志 、渡邊 享平 、米田 誠					
科目区分 専門 必	必修 授業方法 講義	授業の実施方法	対面授業	対象学年 2年	
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー 講義	の後		
メールアドレス	murakami@fpu.ac.jp, ti	to@fpu.ac.jp, kyohei@u-	-fukui.ac.jp, m	yoneda@fpu. ac. jp	
授業概要	体に吸収された後、どの	働く作用(薬理作用)を分ように代謝され体外に排えらに、病院薬剤業務、薬に	世されるか(薬物	の体内動態) について	
到達目標	たがって、薬を使用する される。また、薬の服用 や副作用についても理解 ように作用するか(薬理	もたらす物質として、医療 医療従事者は、薬の使用が について患者への適切なり を必要とする。臨床薬理等 作用)や、服用した薬の何 めに基礎知識の習得を目	5法や保管方法に 助言や指導が求め 学では、主要な疾 本内動態(薬物動	ついての知識が必要と られるため、薬の作用 患患を中心に、薬がどの 態学)について講義を	
		授業計画 • 内容			

- 第 1 回 薬理学総論(薬理学概要)
- 第2回 薬物動態学
- 第 3 回 末梢神経系作用薬
- 第 4回 薬による健康被害
- 第 5 回 中枢神経系作用薬
- 第 6 回 循環器系作用薬
- 第 7 回 血液系作用薬
- 第 8 回 呼吸器系作用薬
- 第 9 回 消化器系作用薬
- 第 10 回 内分泌·代謝系作用薬
- 第11回 抗腫瘍薬
- 第12回 抗炎症薬
- 第13回 病院薬剤業務
- 第14回 薬の投与と副反応
- 第15回 抗感染症薬

第1回、第3回、第5回~第12回、第15回:村上; 第2回:伊藤崇; 第4回:米田; 第13回~第14

回:渡邊

遠隔授業の場合、Zoomによるオンライン授業とする。資料配布と課題提示はGoogle Classroomを使用する。

キーワード	薬理学・薬物動態学・薬理作用・有害作用・安全性
教科書	「薬理学」系統看護学講座(医学書院)
参考書	小山岩雄著「超入門 新薬理学」(照林社)、「臨床薬理学」(MC メディカ出版)
評価方法・評価基準	小テスト、定期試験成績、レポート等で総合的に評価する。合格基準は 60 点以上(100 点 満点)とする。

	対面で期末試験が実施できない場合は、評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 製薬企業で医療用医薬品の研究開発経験を持つ教員や病院薬剤業務を担当する教員が、実 務経験も生かし、臨床薬理学について講義を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する

微生物・免疫学										
Microbiology and Immunology										
担当教員名 米田 誠 、定 清直(非) 、千原 一泰(非) 、竹内 健司(非)										
科目区分				法 講義	1 -			対面授業	対象学年	2年
開講期 前 メールア				<u>2</u> eda ※アト				でも歓迎(米田	N412)	
授業概		看護(竹内) 感染(こ必要 ⁷ 。 走の歴	な微生物学 史についても	(医動物:	· 学・免疫学で る (米田)。	を含む)の基本的知識を		
到達目	目標	し、infec	それらの ction o		ま、予防 se とし ⁻	を習得する。 ての基礎的能	。また	関連する免疫異常 、感染症医療の 習得する。		
					授業	計画·内容				
第1回	感染症学	総論、	人類(の感染症との)闘い(:	米田)				
第2回	序論①	人体を	を取りを	巻く微生物	(定)					
第3回	序論②	人体の	の防衛	ンステム(定	₹)					
第4回	細菌学総	論①	感染約	圣路、検査法	、法令	、抗菌薬、氵	肖毒と	滅菌(千原)		
第5回	細菌学総	論2	構造、	遺伝、毒素	、 グラ	ム染色(千月	亰)			
第6回	主な病原	細菌(① グラ	ラム陰性桿菌	1 (千原))				
第7回	主な病原	細菌の	② グラ	ラム陽性球菌	「グラ	ム陰性球菌、	グラ	ム陽性桿菌、結構	亥菌ほか(ヨ	
第8回	真菌学	総論、	おもな	は病原真菌	(千原)				
第9回	医動物学	総記	命、主な	は病原医動物	7(千原))				
第10回	免疫学①	自然	然免疫	と獲得免疫	(竹内)					
第11回	免疫学②	移	直と輸口	血、アレルキ	一(竹内])				
第12回	ウイルス	.とプロ	ノオン	(竹内)						
第13回	主な病原	「ウイノ	レス①	インフルコ	ンザウ	イルスと HI	V (竹r	内)		
第14回	主な病原	「ウイノ	レス②	ヒトヘルヘ	パスウイ	ルスなど(ク	竹内)			
第15回	ワクチン	で予	方できる	る病気(竹内	3)					

キーワード	感染症、病原体、感染経路、宿主、予防、膠原病、自己免疫、院内感染
教科書	「病原体・感染・免疫(第3版)」(南山堂)。ワークブック配布。
参考書	「ナーシンググラフィカ臨床微生物・医動物学」(メディカ出版)、 「看護のための臨床病態学(第5版)」(南山堂)
評価方法・評価基準	筆記試験およびレポート等で評価する(合格基準:60点以上/100点満点)。 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ~Ⅳ
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 医師として感染症診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。

施行規則に定める	養護に関する科目
科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」
その他	

病態生理学

Pathophysiology

担当教員名 法木 左近					
科目区分 専門 必	必修 授業方法	講義	授業の実施方法	対面授業	対象学年 2年
開講期 後期	単位数 1	オフィ	スアワー 月曜	日4限 看護福	祉学部棟 N459 室
メールアドレス	snoriki の末尾	に@fpu. ac. jp を・	付けて下さい		
授業概要	因(病因)やぞ		変化(症状)など		だけでなく、病気の原 ならない。本授業では、
到達目標	2.疾患や病態 3.目で見える 4.遺伝疾患、	を記述する上で 変化(症状)の	に、使用されてい 、必要な用語をも 背景で起こってい 、腫瘍について説	ちいることができ ることを考えるこ	きる。
授業計画・内容					

第 1 回:病理学とは?先天異常とは?遺伝疾患の種類にはどのようなものがあるか?優性遺伝とは? 劣性遺伝とは?遺伝子の変異で優性遺伝となったり劣性遺伝となったりするのはなぜか?

第 2 回: 多因子遺伝とは?染色体異常にはどのようなものがあるか?性の分化異常にはどのようなものがあるか?胚芽病・胎芽病・胎児病とは?

第 3 回:代謝障害:壊死とは?萎縮とは?変性とは?脂質代謝障害の疾患について

第 4 回:蛋白質代謝障害の疾患について;ネフローゼとは?尿毒症とは?糖質代謝障害と疾患について;糖

尿病とは?その他の代謝異常の疾患について; 黄疸とは?

第 5 回:循環障害;充血・うっ血・虚血・血栓・塞栓・出血・梗塞・DIC・浮腫などの用語の意味は?心不全とは?その原因は? 右心不全と左心不全との違いは?

第 6 回:血栓と塞栓の違いは?粥状硬化症とは?

第 7 回:炎症とは?その原因は?炎症の部位ではどのようなことが起こっているのか?

第 8 回:肉芽種と肉芽組織との違いは?炎症の全身に及ぼす影響にはどのようなものがあるか?

第 9 回:免疫とは?体は異物と自分とをどのように区別しているのか?

第10回:免疫不全・アレルギー・自己免疫疾患について。

第11回:感染症の種類と病態

第12回:腫瘍とは?良性腫瘍と悪性腫瘍との違いは?癌と肉腫との違いは?癌の種類にはどのようなものが

あるか?癌の悪性度はどのようにきまるのか?予後とは?そもそも癌はなぜ発生するのか?

第13回:癌の自然史。腫瘍のダブリングタイム(倍加時間)を考えてみる。

第14回:癌の拡がり方にはどのような様式があるか?ウィルヒョウ転移とは?クルケンベルグ腫瘍とは?癌の診断はどのようになされているのか?ヒトは癌でなぜ死ぬのか?

第15回:まとめ

※遠隔授業となった場合、zoomによるオンライン授業を行う。

キーワード	病態生理 病理学総論 疾患概念 医学用語 遺伝疾患、炎症、循環障害、腫瘍
教科書	プリントを配布する。プリントは全部で約90頁程度となる。

	-
参考書	参考書は講義中に紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法: 試験 (80%) とレポート (20%) を実施し、総合的に判定する。 評価基準: 試験とレポートの点数を 100 点満点として、60 点以上。 対面で筆記試験ができなくなった場合、評価はレポートにより、総合的に行う。
関連科目	解剖生理学 I · 解剖生理学 II → 病態生理学→ 臨床病態学·病院実習
履修要件	病態について理解するには、正常の解剖学・組織学が理解されていなければならない。
必要な事前・事後学修	準備学習については、講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 病理専門医であり病理診断や病理解剖などの実務経験をもつ教員が、病態生理学の理解を 深めるために炎症や腫瘍などについて講義以外に顕微鏡実習も実施する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学 I

Clinical Pathophysiology I

担当教員名 米田	田誠				
科目区分 専門 必	必修 授業方法	去講義	授業の実施方法	対面授業	対象学年 1年
開講期 前期	単位数 1	オフ	ィスアワー いっ	つでも歓迎(N412))
メールアドレス	米田: myoneda	a ※アドレスσ	末尾に@fpu.ac.jp		
授業概要	て、各種内科		り立ちを中心に、疫		得することを目的とし 治療・予後ならびに看
到達目標	さんが持つ異 のために必要	常状態を迅速か	つ的確に把握して過 患に関する基礎的知	動切な看護を展開し	fさんに接し、その患者 しなければならない。そ 本系的に理解する。
授業計画 ■ 内突					

授業計画・内容

- 第 1回 医学・医療の歴史、診察法、検査法、治療概論、医療倫理
- 第2回 呼吸器疾患の症候、検査、治療(1)
- 第3回 呼吸器疾患の症候、検査、治療(2)
- 第 4回 肺炎、肺結核、喘息、サルコイドーシス、COPD、職業性肺疾患
- 第 5 回 気管支拡張症、肺癌、肺梗塞、肺水腫、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、自然気胸
- 第6回 中間まとめ
- 第 7 回 循環器疾患の症候、検査、治療
- 第 8 回 心不全、不整脈
- 第 9 回 狭心症、心筋梗塞
- 第10回 心筋症、心筋炎、心内膜炎、心弁膜症、先天性心疾患
- 第11回 高血圧、動脈硬化、大動脈炎症候群、解離性大動脈瘤、末梢動脈疾患
- 第12回 中間まとめ
- 第13回 腎・尿路疾患の症候、検査、治療
- 第14回 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、各種腎炎、腎不全、透析、泌尿器系疾患
- 第15回 総括

キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護
教科書	「看護のための臨床病態学(第5版)」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。
参考書	
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上/100点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、微生物・免疫学
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅱ

Clinical Pathophysiology II

担当教員名 米田 誠									
科目区分 専門 🦸	必修 授美	業方法 講義	i.	授業の実施	方法 対	対面授業	対象学年	1年	
開講期 後期	単位数	; 1	オフィ	スアワー	いつで	·も歓迎(N412)	0		
メールアドレス	米田: myd	oneda ※ア	ドレスの末	∈尾に@fpu.ac	. јр				
授業概要	て、各種に		態や成り	立ちを中心に		機序を把握・修 ・症状・診断・			
到達目標	さんが持っ のために	つ異常状態を	を迅速かつ よ各種疾患	的確に把握し に関する基礎	て適切	、看護師は患者 な看護を展開し と臨床病態を体	なければな	らない。そ	
	将業計画 - 内窓								

- 第 1 回 消化器疾患の症候、検査、治療
- 第2回 食道炎、アカラジア、マロリーワイス症候群、食道癌、胃炎、消化性潰瘍、胃癌
- 第3回 潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌、腸閉塞
- 第 4 回 食中毒、腸管感染症、尿路感染症
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 肝・胆・膵疾患の症候、検査、治療
- 第7回 ウイルス性肝炎
- 第 8 回 肝硬変、肝癌、胆石、膵炎、膵癌
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 代謝・栄養異常症の症候、検査、治療(1)
- 第11回 代謝・栄養異常症の症候、検査、治療(2)
- 第12回 糖尿病、脂質異常症、肥満、痛風、メタボリック症候群
- 第 13 回 内分泌疾患の症候、検査、治療、下垂体機能低下症、尿崩症、ADH 不適合分泌症候群
- 第14回 橋本病、バセドウ病、副甲状腺機能異常、クッシング病、褐色細胞腫、アジソン病
- 第15回 総括

キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護
教科書	「看護のための臨床病態学」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。
参考書	「病原体・感染・免疫」(南山堂)
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上/100点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、微生物・免疫学
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり

	医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅲ

Clinical Pathophysiology III

担当教員名 米日	田誠								
科目区分 専門	必修	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 前期	単	位数 1		オフィ	スアワー	いつ	でも歓迎(N412))。	
メールアドレス	米田	: myoneda	※アド	レスの末	に尾に@fpu.ao	с. јр			
授業概要	て、行		患の本態	や成り	立ちを中心に		態機序を把握・修 学・症状・診断・		
到達目標	さんが	が持つ異常	伏態を迂 可欠な名	引速かつ 発度表	的確に把握し に関する基礎	て適	で、看護師は患者 切な看護を展開し 識と臨床病態を体	なければな	よらない。そ
				120 44 =	上雨 . 中郊		•	•	

授業計画 · 内容

- 第1回 血液性疾患の症候、検査、治療
- 第2回 鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血
- 第3回 急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、DIC、ITP、血友病
- 第4回 中間まとめ
- 第5回 膠原病の症候、検査、治療
- 第6回 関節リウマチ、全身性エリトマトーデス
- 第7回 多発性筋炎・皮膚筋炎、全身性強皮症、混合性結合織炎
- 第8回 血管炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症
- 第9回 成人スティル病、抗リン脂質症候群、アミロイド―シス、薬物アレルギー、アナフィラキシー
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 感染症の症候、検査、治療
- 第12回 性感染症 (STD)、エイズ (AIDS)、麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹
- 第13回 伝染性単核球症、インフルエンザ、原虫感染症、レトロウイルス感染症
- 第14回 ポリオ、日本脳炎、インフルエンザ脳症、プリオン病
- 第15回 院内感染・総括

キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護
教科書	「看護のための臨床病態学(第5版)」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。
参考書	「病原体・感染・免疫(第3版)」(南山堂)
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上/100点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、微生物・免疫学
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり

	医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅳ

Clinical Pathophysiology IV

担当教員名 米	田誠								
科目区分 専門	必修	受業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 後期	単位	ž数 1		オフィ	スアワー	いつ	でも歓迎(N412))。	
メールアドレス	米田:	myoneda	※アド	レスの末	尾に@fpu.ac	э. јр			
授業概要	て、各		息の本態	まや成り3	立ちを中心に		態機序を把握・修 ዸ・症状・診断・		
到達目標	さんが	持つ異常物	犬態を迂 可欠な名	記速かつは 発種疾患に	的確に把握し に関する基礎	て適切	ご、看護師は患者 別な看護を展開し 戦と臨床病態を体	なければな	らない。そ
	•			四举:	+面。内突				

- 授業計画・内容
- 第1回 脳・神経・筋疾患の解剖・生理、症候、検査、治療(1)
- 第2回 脳・神経・筋疾患の症候、検査、治療(2)
- 第3回 脳梗塞、TIA、クモ膜下出血、慢性硬膜下血種
- 第4回 てんかん、片頭痛、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー
- 第5回 ALS、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群
- 第6回 髄膜炎・脳炎、ヘルペス脳炎、スピロヘータ・寄生虫感染症
- 第7回 遺伝看護学(基礎)
- 第8回 遺伝カウンセリング(事例検討)
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 運動器の解剖・生理、症候、検査、治療
- 第11回 運動器の外傷・骨折、脊椎・脊髄疾患
- 第12回 上下肢の疾患、末梢神経麻痺
- 第13回 眼と耳鼻咽喉の解剖・生理、症候、症候、検査、治療、疾患
- 第14回 皮膚の解剖・生理、症候、症候、検査、治療、疾患
- 第15回 総括

キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護
教科書	「看護のための臨床病態学(第5版)」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。
参考書	「病原体・感染・免疫(第3版)」(南山堂)、 「ナーシング・グラフィカ病態生理学」(メディカ出版)
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上/100点満点とする。なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、微生物・免疫学
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

精神保健

Mental Health Introduction

担当教員名 長名	小 川谷	眞子 、栗	田智未	(非)					
科目区分 専門 4	必修	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	1年
開講期 前期	単	i位数 1		オフィ	スアワー		川:講義終了後码 日 10 時~16 時	研究室(N303	3) 栗田:
メールアドレス	長谷月	JII : hasegaw	a@fpu.	. ас. јр	栗田:	kurit	ta@u-fukui.ac.j	р	
授業概要		職に必要な# とする。	青神保優	建に関す	る基礎知識を	学習	し、各専門領域の	学習につなり	げることを
到達目標	(2) (3) (4)	ストレスと 社会におけ	その反 る精神 メンタ	応につい 保健の現 ルヘルス	の維持・増	る。 およひ	「対策について理 品用することがで		
			•	授業語	十画・内容				

- 第 1回 精神保健とは一精神の健康(長谷川)
- 第2回 精神の機能1-自我機能-(栗田)
- 第3回 精神の機能2-防衛機制-(栗田)
- 第 4回 精神の危機とその反応 1ーストレスとストレス反応 (栗田)
- 第 5回 精神の危機とその反応 2-危機理論- (栗田)
- 第6回 ライフサイクルと精神健康①-乳幼児期、学童期における精神保健(長谷川)
- 第 7回 ライフサイクルと精神健康②-思春期・青年期、成人期、老年期における精神保健(長谷川)
- 第 8 回 学校および家庭における精神保健(長谷川)
- 第 9 回 職場における精神保健(長谷川)
- 第10回 支援する専門職と精神保健(長谷川)
- 第11回 自殺対策の現状と取り組み(長谷川)
- 第12回 精神保健に関する問題のグループワーク1(長谷川)
- 第13回 精神保健に関する問題のグループワーク2(長谷川)
- 第14回 グループワーク発表・討論1(長谷川・栗田)
- 第15回 グループワーク発表・討論2(長谷川・栗田)
- ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業を行う

キーワード	精神健康、精神発達、自我機能、防衛機制、ストレス、危機と危機介入、自殺対策
教科書	武井 麻子ら著,精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 , 医学書院, 2021
参考書	・村井俊哉他著,メンタルヘルスを学ぶ 精神医学・内科学・心理学の視点から,ミネルヴァ書房,2015. ・吉川武彦,竹島正著,精神保健マニュアル第4版,南山堂.
評価方法・評価基準	授業への取り組み態度(発言・質問の有無等)・個人課題・グループワーク課題・グループワーク発表(40点)および期末試験(60点)を合計し評価する。

	※遠隔の場合、期末試験をレポートに変更する。
関連科目	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
必安は宇則・宇俊子隊	報道されているメンタルヘルスに関連する記事等に関心を寄せること。
中教祭除のも7巻号	実務経験あり
実務経験のある教員 による授業内容	看護師業務およびカウンセリング業務を経験した教員が精神保健に関する基本的な知識に
1-04 0 3241 1 1	ついて講義・演習する。
施行規則に定める	養護に関する科目
科目区分又は事項等	精神保健
その他	対人援助職に必要な知識であることは当然として、自己の精神健康の維持・増進に役立て
	ること。

看護学概論

Introduction to Nursing

担当教員名 笠井 恭子						
科目区分 専門 必	必修 授業方法	講義	授業の実施方	法 対面授業	対象学年 1年	
開講期 前期	単位数 1	オフィ	スアワー 防	値時(メールにて事	前に日時調整)	
メールアドレス	kasai@fpu. ac. j	0				
授業概要	ールの看護論 から、看護 る	の定義、看護の行	役割、人間と環		始者であるナイチンゲ の法則について学習す	
到達目標	関係、健康の法 則等につい 2. 看護を実践 ることができる	て理解できる	めの思考能力を		能、人間と環境の相互 護の役割について考え	
授業計画・内容						

第1回 看護の歴史的変遷/医療安全の現状

第2回 看護のメタパラダイム (人間 環境 健康 看護)

第3回 ナイチンゲールの功績

第4回 「看護覚え書」 序章 グループワーク

第5回 「看護覚え書」 各論 グループワーク

第6回 「看護覚え書」 各論 発表 1~5G/ディスカッション/まとめ

第7回 「看護覚え書」 各論 発表 6~10G/ディスカッション/まとめ

第8回 看護の定義、看護の役割・機能

※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。

キーワード	看護の歴史 看護のメタパラダイム ナイチンゲール 看護の定義 看護の役割・機能					
教科書	・系統看護学講座専門分野 I基礎看護学 [1] 看護学概論:茂野香おる,医学書院 ・看護覚え書:フロレンス・ナイチンゲール,現代社					
参考書	授業時に紹介する					
評価方法・評価基準	評価方法:レポート(50%)看護覚え書の各章の学びについてまとめる。レポートは以下の 評価基準に沿って評価 する。 発表資料・プレゼンテーション(50%) 評価基準:①課題の的確な把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。					
関連科目	看護理論 健康生活支援演習 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジカ					

	ルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	事前学習:事前に配布する資料および教科書に目をとおし予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員がナイチンゲール看護論を基盤として看護のメタパラダイムや看 護の定義、役割・機能について授業を展開する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む)
その他	特になし

看護理論

	Nursing Theory								
担当教員名 笠井 恭子 、東 知宏 、上木 礼子									
科目区分 專	事門	必修	授業方法	講義	1	受業の実施	方法	対面授業	対象学年 1年
開講期 後期			位数 2			アワー	随時	(メールにて事	
メールアド	レス							ドレスの末尾に	
授業概勢	1. 主要な看護理論にふれ、それらを基に看護のメタパラダイムについて考究する 2. 複雑かつ困難な看護現象に対して、看護理論を活用することによってその現象を明確 にし質の高い 看護実践ができる能力を養う								
到達目植	栗	2. 主	E要な看護 護理論と	理論の特徴(看護実践の領 と DP3 に対	こつい 密接な 対応し	て説明でき つながりか	る	う類について説 ることができる	明できる
<i>tt</i> r 4 □	≠ =#+	m=A l , L	✓ = #+m=/		× * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	M - N145			
			/看護理論						
第2回				ンの看護理語					
第3回				グループ「					
第4回		ダーソン	,			カッション			
第5回	オレ					スカッショ 〕	ン/ま	とめ	
第6回	キン	グ、オー	-ランド	グルー	プワー	ク			
第7回	キン	·		発表。	/ディ	スカッショ	ン/マ	きとめ	
第8回	オー	ランド		発表。	/ディ	スカッショ	ン/マ	きとめ	
第9回	ロイ	. レイ <i>=</i>	こンガー	グルー	プロー	ク			
第10回	ロイ	· • · -	- 2 /3			~ ィスカッシ	ョン/	ま とめ	
	-	ニンガー	_			、 スカッショ:			
第12回				グルー					
	·	•		• • •		·			
第13回	ベナ	_		発表	/ディ	スカッショ	ン/ま	きとめ	
第14回	ワト	ソン		発表	/ディ	ィスカッシ	ョン/	まとめ	
第15回 看護理論と看護実践のつながり									
第1~2回/第6~8回/第15回 笠井									
第3~5回/	第3~5回/第12~14回 東								
第9~11回 上木									
※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。									
キーワー	ド	看護理	論 看護実	践 看護の	メタノ	パラダイム			

看護理論改訂第3版 看護理論21の理解と実践への応用:筒井真優美編,南江堂

教科書

参考書	授業時に紹介する
	評価方法:レポート(100%)で評価しグループワークおよび発表の取り組みを評価に加え
	る
	第 1~2、6~8、15 回: キング、オーランドの看護理論、理論と実践のつな
	がりの理解度 (40%)
評価方法・評価基準	第 3~5、12~14 回: ヘンダーソン、オレム、ベナー、ワトソンの看護理論
	の理解度(40%)
	第 9~11 回:ロイ、レイニンガーの看護理論の理解度(20%)
	評価基準:①課題の的確な把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性
	※遠隔授業時の場合も、
	看護学概論 健康生活支援演習 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジ
関連科目	カルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II
履修要件	特になし
1812×11	141-6-6
必要な事前・事後学修	事前学習:事前に配布する資料および教科書に目をとおし予備知識を持って授業に臨む
	実務経験あり
実務経験のある教員 による授業内容	看護師経験を有する教員が主要な看護理論の特徴ならびに質の高い看護実践に向けて看護
による技术内容	理論を活用する意義について授業を展開する
施行規則に定める	養護に関する科目
科目区分又は事項等	看護学(臨床実習及び救急処置を含む)
その他	特になし

基礎看護技術							
Fundamental Nursing Skills							
知宏 、上木 礼子、大島	十佳 、笠井恭子						
必修 授業方法 講義 演習	および 授業の実施	方法 対面授業	対象学年 1年				
単位数 2	オフィスアワー		416)、大島(N306)、笠 対応				
			1				
を向上させるために欠か	いせない日常生活の援	助に関する看護技術	(環境調整、活動・休息				
1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる 4. 対象に合わせた看護援助を考ることができる 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける							
	授業計画・内容						
支術概論:講義 (東)							
第2回 基礎看護技術概論:演習 オリエンテーション/感染予防(東・上木・大島・笠井)							
第3回 活動・休息援助:講義 活動の援助(上木)							
第4回 活動・休息援助:演習 同上(上木・東・大島・笠井)							
第5回 活動・休息援助:講義 睡眠・休息の援助(上木)							
弘扬功,神我《呼吹》外心	!の援助(上木)						
	Tune Sum	Fundamental Nursing S 知宏 、上木 礼子、大島 千佳 、笠井恭子 授業方法 講義および 授業の実施。 単位数 2	## Fundamental Nursing Skills				

第7回 環境調整:講義 ベッド周囲の環境整備(上木)

第8回 環境調整:演習 同上(上木・東・大島・笠井)

第9回 環境調整:講義 病床の環境整備(上木)

第10回 環境調整:演習 同上(上木・東・大島・笠井)

第11・12回 環境調整:応用演習(上木・東・大島・笠井)

第13回 清潔・衣生活援助:講義 清潔の援助(足浴)(東)

第14回 清潔・衣生活援助:演習 同上(東・上木・大島・笠井)

第15回 清潔・衣生活援助:講義 清潔の援助(洗髪)(東)

第16回 清潔・衣生活援助:演習 同上(東・上木・大島・笠井)

第17回 清潔・衣生活援助:講義 清潔の援助(清拭)(東)

第18回 清潔・衣生活援助:演習 同上(東・上木・大島・笠井)

第19回 清潔・衣生活援助:講義 衣生活の援助(上木)

第20回 清潔・衣生活援助:演習 同上(上木・東・大島・笠井)

第21回 食事援助:講義 (東)

第22回 食事援助:演習 同上(東・上木・大島・笠井)

第23回 食事援助:講義 口腔ケア(東)

第24回 食事援助:演習 同上(東・上木・大島・笠井)

第25回 バイタルサインの観察:講義 体温・脈拍・呼吸(大島)

第26回 バイタルサインの観察:演習 同上(大島・東・上木・笠井)

第27回 バイタルサインの観察:講義 血圧・意識(大島)

第28回 バイタルサインの観察:演習 同上(大島・東・上木・笠井)

第29・30回 バイタルサインの観察:応用演習(大島・東・上木・笠井)

※具体的な授業計画は、「第1回基礎看護技術概論」の際に別途説明する。

※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業を行う。

キーワード	日常生活援助技術、環境調整技術、活動・休息援助技術、清潔・衣生活援助技術、食事援助技術 助技術 バイタルサインの観察技術
	ハイダルザインの観奈技術
教科書	・茂野香おる他著:系統看護学講座専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I , 医学書院. ・任和子他著:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II , 医学書院. ・香川芳子編:七訂 食品80キロカロリーガイドブック,東京栄養大学出版部.
参考書	看護が見える① 基礎看護技術、メディックメディア その他、授業の中で紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法:期末試験(60%)、単元毎の課題(10%)、単元毎の小テスト(20%)、実技テスト(10%)により評価する。遠隔授業の場合は評価比率を調整して評価する。 評価基準:到達目標1.3.4.を期末試験・課題・小テストの評価基準とする。到達目標2.3.を実技テストの評価基準とする。到達目標5.は、課題提出状況、無断欠席の有無、無断遅刻の有無、演習時の身だしなみで評価する。
関連科目	健康生活支援演習 臨床看護技術 看護学概論 看護理論 看護過程展開論 フィジカル アセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II
履修要件	
必要な事前・事後学修	授業に先立ち資料を提示する。予習を行った上で授業に参加すること (90分)。 授業後は課題に取り組み、授業の復習を行うこと (90分)。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護実践に必要な基礎的な知識および技術に関する講義・演 習行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 栄養学(食品学を含む。)
その他	

臨床看護技術

Clinical Nursing Skills

担当教員名 東 知宏 、上木 礼子 、大島 千佳 、笠井恭子						
科目区分 専門 必修 授業方法 演習 授業の実施方法 対面授業 対象学年 1年						
開講期 後期	単位数 2オフィスアワー東 (N302) 上木 (N416) 大島 (N306) 笠 井 (N414) 授業後対応します					
メールアドレス	東 azuma@ 上木 reikou17@ 大島 oshima@ 笠井 kasai@ (@以降は fpu. ac. jp)					
授業概要	看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指す。対象の生活の質や日常生活活動を向上させるために欠かせない日常生活の援助に関する看護技術(排泄援助)および感染予防の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、検査時の看護、症状・生体機能管理技術、与薬の技術を学習する。					
1. 感染予防に必要な知識と技術を修得できる。 2. 排泄の援助に必要な知識と技術を修得できる。 3. 呼吸・体温異常時の各種療法および褥瘡を含む創傷管理の援助の方法が修得できる。 4. 各種検査の目的・方法、検査時の看護師の役割、必要な援助の方法が習得できる。 5. 薬物療法の意義・目的を理解し、必要な援助の方法を習得するとともに、安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる。 (本演習は DP2 および DP3 に対応している。)						
将 举 計画。内 宓						

授業計画・内容

- 第1回 排泄援助(自然排泄の介助)(上木)
- 第2回 排泄援助(導尿・排便を促す援助・ストーマケア)(上木)
- 第3回 排泄援助演習 (便尿器の与え方・おむつ交換) (上木・東・大島・笠井)
- 第4回 排泄援助演習 (浣腸・陰部洗浄) (上木・東・大島・笠井)
- 第5回 感染予防(感染予防策)(東)
- 第6回 感染予防(滅菌と消毒)(東)
- 第7回 感染予防演習 (ガウンテクニック) (東・上木・大島・笠井)
- 第8回 感染予防演習 (無菌操作) (東・上木・大島・笠井)
- 第9回 排泄援助演習(導尿・男性器)(上木・大島・東・笠井)
- 第10回 排泄援助演習(導尿・女性器)(上木・大島・東・笠井)
- 第11回 実技テスト (無菌操作) (東・大島・上木・笠井)
- 第12回 実技テスト(導尿)(上木・大島・東・笠井)
- 第13回 呼吸・循環・体温異常時の看護(酸素療法・排痰ケア・人工呼吸療法)(上木)
- 第 14 回 呼吸・循環・体温異常時の看護(体温調整・末梢循環促進ケア・創傷管理)(上木)
- 第 15 回 呼吸・循環・体温異常時の看護演習(酸素療法・吸引)(上木・東・大島・笠井)
- 第 16 回 呼吸・循環・体温異常時の看護演習(罨法・包帯法)(上木・東・大島・笠井)
- 第17回 検査と看護(検査方法とその目的)(東)
- 第18回 検査と看護(検査における看護師の役割)(東)
- 第19回 検査と看護演習(尿試験紙検査)(東・大島・上木・笠井)
- 第20回 検査と看護演習(採血)(東・大島・上木・笠井)
- 第21回 呼吸・循環・体温異常時の看護(ロールプレイ)(東・上木)

- 第22回 検査と看護(ロールプレイ)(東・上木)
- 第23回 与薬と看護(与薬の基礎知識)(大島)
- 第24回 与薬と看護(与薬における医療安全)(大島)
- 第25回 与薬と看護(与薬の実際①:経口与薬・口腔内与薬・点眼・経皮的与薬・直腸内与薬)(大島)
- 第26回 与薬と看護(与薬の実際②:注射)(大島)
- 第27回 与薬と看護演習(皮下注射・筋肉注射)(大島・東・上木・笠井)
- 第28回 与薬と看護演習 (静脈内注射) (大島・東・上木・笠井)
- 第29回 実技テスト(採血)(東・大島・上木・笠井)
- 第30回 実技テスト (皮下注射 (大島・東・上木・笠井)
- ※遠隔授業となった場合には、ZOOMによるオンライン授業およびオンデマンド演習とする

キーワード	感染予防の技術、排泄援助の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、症状・生体 機能管理技術、与薬の技術
教科書	・茂野香おる他著:系統看護学講座専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I , 医学書院・任和子他著:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II , 医学書院
参考書	授業の中で紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法 期末試験(60%)、小テスト(20%)、課題(10%)、実技テスト(10%)により評価する。遠隔 授業の場合は評価比率を調整して評価する。 評価基準 感染予防に関する知識と技術を期末試験と小テストで評価する。排泄の援助に必要な知識 と技術を期末試験と小テスト、実技テストで評価する。呼吸・体温異常時の援助、創傷管 理の援助への理解を期末試験、小テストで評価する。検査に対する知識と技術を期末試験、 小テスト、課題、実技テストで評価する。薬物療法に対する知識と技術を期末試験、小テスト、実技テストで評価す
関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、看護過程展開論、 フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、基礎看護技術を履修していること。
必要な事前・事後学修	授業に先立ち資料を提示する。予習を行った上で授業に参加すること (90分)。 授業後は課題に取り組み、授業の復習を行うこと (90分)。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護実践に必要な基礎的な知識および技術に関する講義・演習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

毛锥 湿 和 屈 眼 🕹

看護過程展開論							
Nursing Process							
担当教員名 東	知宏 、笠井 恭子						
科目区分 専門 』	科目区分 専門 必修 授業方法 講義 授業の実施方法 対面授業 対象学年 2						
開講期前期	単位数 1	オフィスアワー す		414) 授業後対応しま			
メールアドレス	1	kasai@ (@の後ろにfpu					
授業概要	について学習する。問題	供するための看護計画を 題解決過程やクリティカ 法の学習を通して、論理的	ルシンキング、看護	診断といった、看護過			
到達目標	・看護過程の展開についまり、問題解決過程、クリー ・看護診断について理解 ・看護過程を用いて事任 (本授業はDP2 および	ティカルシンキングにつ 解できる。 列を展開できる。	いて理解できる。				
		授業計画・内容					
第1回 看護過程	とは(看護過程の構成要素	素)(東)					
第2回 看護過程	とは(問題解決過程・クリ	Jティカルシンキング)	(東)				
第3回 看護診断る	とは/看護診断のプロセス	(笠井)					
第4回 看護診断の種類と表現方法(笠井)							
第5回 看護過程の実践:情報収集(東)							
第6回 看護過程の	第6回 看護過程の実践:アセスメント(東)						
第7回 看護過程の実践:看護計画の立案(東)							
第8回 看護過程の	の実践:看護計画の実施	・評価・修正(東)					
************************************		/桂扣原生 ラレマル	I \ /±\				

第9回 看護課程による事例展開1事例目(情報収集・アセスメント)(東)

第10回 看護過程による事例展開1事例目(計画立案・評価・修正)(東)

第11回 看護課程による事例展開1事例目(評価・修正)(東)

第12回 看護課程による事例展開2事例目(情報収集・アセスメント)(東)

第13回 看護過程による事例展開2事例目(計画立案・評価・修正)(東)

第14回 看護課程による事例展開2事例目(評価・修正)(東)

第15回 まとめ(東)

キーワード	看護過程 問題解決過程 クリティカルシンキング 看護診断
教科書	茂野香おる他著:系統看護学講座専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I, 医学書院 T. ヘザー・ハードマン他著: NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021—2023, 医学書院
参考書	授業の中で紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法 小テスト(20%)、レポート(80%)により評価する。遠隔授業の場合も同じ方法で評価する。 評価基準 看護過程の展開についての理解を小テストを用いて評価する。問題解決過程、クリティカ ルシンキングへの理解を課題を用いて評価する。看護診断への理解度をレポートにより評 価する。看護過程を用いて事例を展開する能力をレポートにより評価する。

関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、 フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、 基礎看護学実習 I を履修していること。
必要な事前・事後学修	事前学習:講義に先立ち資料を提示する。予習を行い、準備を整えて授業に参加すること。 (90分) 事後学修:講義の進行にあわせて課題を提示する。期限内に課題を提出すること。(90分)
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護過程の展開に必要な基礎的な知識および考え方に関する 講義・指導を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

フィジカルアセスメント

Physical Assessment

担当教員名 大島 千佳 、東 知宏 、上木 礼子 、山内 豊明(非)							
科目区分 専門 必	必修 授業方法	演習	授業の実施方法	去 対面授業	対象学年 2年		
開講期 前期	単位数 1	オフィ	7 rij— i	島(N306)、東(N3 (学外): 授業後対	302)、上木(N416)、山 村応		
メールアドレス	大島:oshima 耳	夏:azuma 上木:	reikou17 ※末尾	:/⊏@fpu. ac. jp			
授業概要	スメントの意義	や具体的方法(こ		ミネーション) を	であるフィジカルアセ 学習し、対象者を包括的		
到達目標	2. フィジカル 3. 身体の系統 釈する方法を理 4. フィジカル	アセスメントに 的で客観的な評 解する。	必要な基礎的知識 面から得られた原 必要とされる診察				
授業計画・内容							

第1回 概論:講義 ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションとは(山内)

- 第2回 概論:講義 フィジカルアセスメントに必要な技術(山内)
- 第3回 呼吸器系のアセスメント:講義(東)
- 第4回 循環器系のアセスメント:講義(大島)
- 第5回 呼吸器系のフィジカルアセスメント:演習(東)
- 第6回 循環器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)
- 第7回 消化器系のアセスメント:講義(大島)
- 第8回 消化器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)
- 第9回 感覚器系のアセスメント:講義(大島)
- 第10回 感覚器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)
- 第11回 運動器系のアセスメント:講義(大島)
- 第12回 運動器系のフィジカルアセスメント:演習(大島・上木)
- 第13回 中枢神経系のアセスメント:講義(大島)
- 第14回 中枢神経系のフィジカルアセスメント:演習(大島)
- 第 15 回 まとめ: 事例を用いたフィジカルアセスメントまとめ(大島)
- ※具体的な授業計画は、「第1回概論」の際に別途説明する。
- ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業を行う。

キーワード	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護過程
教科書	・山内豊明著:フィジカルアセスメントガイドブック—目と手と耳でここまでわかる,第2版 医学書院. ・茂野香おる他著:系統看護学講座専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I , 医学書院.
参考書	・医療情報科学研究所編:フィジカルアセスメントがみえる、メディックメディア. ・藤崎郁著:フィジカルアセスメント完全ガイド第2版、学研メディカル秀潤社.

	評価方法: 期末試験(80%)、単元毎の課題(10%)、単元毎の小テスト(10%)で評価する。
評価方法・評価基準	遠隔授業の場合は評価比率を調整して評価する。
	評価基準:到達目標を期末試験・課題・小テストの評価基準とする。
	解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、健康生活支援演習、看護学
関連科目	概論、看護理論、
	基礎看護技術、臨床看護技術、看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、
復修安計	基礎看護学実習Ιを履修していること。
必要な事前・事後学修	教科書、動画、配布資料を用い、事前学習をした上で授業に臨むことを前提とする。その
必安は争削・争復子修	ほかの事前学習は必要時提示する。
	実務経験あり
実務経験のある教員 による授業内容	看護師経験を有する教員、医師経験を有する教員が、フィジカルアセスメントに必要な知
による技术内容	識と技術について講義・演習する。
施行規則に定める	
科目区分又は事項等	
その他	

健康生活支援演習

Healthy living Support Seminar

担当教員名 上木 礼子									
科目区分 専門 🖟	必修	授業方法	講義	演習	授業の実施	方法	対面授業	対象学年	1年
開講期 前期	単	位数 1		オフィ	スアワー	•	(N416 研究室): 日時調整)	随時(メー	ル等にて事
メールアドレス	上木	:reikou17-	2 ×7	アドレス(の末尾に@g.	fpu. a	ıc. jp をつけてく	ださい	
授業概要	する人		つりをと	おして、	、生活環境や		ン技術を学習する バかかえる生活・		
到達目標	2. ± 3. ± 4. □	也域住民と 也域住民の	関わるこ 生活環境 イをとお	ことがで 竟や生活 おして看	きる ・健康上の問 護コミュニケ	題に	ションに関する知 ついて理解できる ヨンの基礎力を高	3	
授業計画・内容									

本授業は全 15 回実施します。第 1 回と 2 回はクラスメンバーの交流を図るとともに、身体をつかったレッスンを通して自身の声や体の使い方を意識してもらいます。第 3 回と 4 回は医療者に求められるコミュニケーション技術、グループワークなどに必要なアサーティブなコミュニケーションを学びます。第 5 回から 10 回までは、地元永平寺町の高齢者グループとの交流会を中心に地域住民の暮らしと健康問題について考えます。第 11 回から 15 回までは模擬患者を対象に看護師のロールプレイをしながら、看護のコミュニケーションを学びます。

- (1)健康生活支援演習オリエンテーション(プログラム、到達目標、グループワークの進め方)
- (2) 演劇ワークショップ(コミュニケーションのための身体・声を意識するワーク)前川嘉宏先生
- (3) コミュニケーション論(医療者に求められるコミュニケーション技術)
- (4) アサーティブコミュニケーション(相手を生かし、自分を生かすコミュニケーション技術)
- (5) 地域住民との交流会 オリエンテーション
- (6) 地域住民との交流会 準備グループワーク
- (7)地域住民との交流会 ※クラスを前半グループと後半グループに分けて実施する
- (8) 交流会の成果発表にむけた GW
- (9) 交流会の成果発表にむけた GW
- (10) 成果発表会
- (11) 成果発表会/まとめ
- (12) 看護コミュニケーション(看護師ロールプレイングの説明)
- (13) 看護師ロールプレイングの GW (シナリオ作成・練習)
- (14) 模擬患者を対象にした看護師ロールプレイング/デブリーフィング
- (15) 模擬患者を対象にした看護師ロールプレイング/デブリーフィング
- ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。

キーワード コミュニケーション 地域住民との交流 ロールプレイ 模擬患者

教科 書	・茂野香おる他著:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論,医学書院. ・茂野香おる他著:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I ,医学書 院.
参考書	授業時の中で紹介する
評価方法・評価基準	評価方法:レポートと受講態度により総合的に判定する 評価基準:受講態度(グループワーク・交流会・発表会の取り組み)(30%)、レポート(70%) [1.課題を的確にとらえて展開しているか、2.論旨が一貫しているか、3.自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、4.資料の構成が適切でわかりやすいか] ※遠隔授業時も同じ、
関連科目	看護学概論 看護理論 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジカルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前に配布する資料および教科書に目をとおし予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が対人関係を構築するための知識・技術について授業を展開する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

基礎看護学実習 I

Nursing Practicum I : Fundamental Nursing

担当教員名 上木 礼子 、東 知宏 、大島 千佳						
科目区分 専門 必	必修 授業方法 実	習 授業の実施	方法 対面授業	対象学年 1年		
開講期 後期	単位数 1	オフィスアワー		東(N302研究室) 大島 時:メール等にて事前に		
メールアドレス	上木 reikou17-2 東 ください)	īazuma 大島 oshima ((※アドレスの末尾に@	g.fpu.ac.jp をつけて		
授業概要	術が実際の看護場面	いて、担当看護師と行動 でどのように適用されて 護の役割・機能を学ぶ。				
到達目標	2. 看護の対象・看護 3. 日常生活の援助を を高めることができ 4. 既習の看護理論と 察できる。	看護の実際を照らし合わ 地実習で学ぶために必要	かわりを通して対象へ oせ、看護の果たすべき	そ役割・機能について考		
授業計画・内容						

授業計画・内容

実習施設:福井県立病院

実習期間:2月末~3月上旬 集中実習(4日間)

実習方法:1病棟に3~4名の学生を配置し、担当看護師の指導のもと実習を展開する

遠隔実習になった場合は ZOOM によるオンライン実習とする

【病院実習】

・病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション、病院内見学

・担当看護師と行動をともにし指導を受けながら、上記の実習目標を達成する

【学内・在宅実習】

・実習のまとめ(グループワーク、グループ発表)

記録の提出

キーワード	臨地実習 病院の機能 入院環境 看護の役割と機能
教科書	関連科目で使用している教科書
参考書	関連科目で使用している参考書
評価方法・評価基準	評価方法:実習内容(40%)、実習態度(10%)、記録物(50%)から評価する。遠隔実習となった場合には評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する。 評価基準:病院機能・療養環境を理解し、看護の対象・看護の実際を正確に把握する能力を記録物から評価する。対象とかかわり対象への感性および表現技術を向上させる能力を実習内容から評価する。看護理論と看護の実際から看護の果たすべき役割・機能について

	考察する能力を記録物および実習内容から評価する。看護学生として臨地実習で学ぶため				
	に必要な態度が身についているかどうかを				
88年47日	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、看護過程展開論、フィジカルアセ				
関連科目	スメント、健康生活支援演習、基礎看護学実習 II 、看護倫理学				
是发来从	・看護学概論、基礎看護技術、健康生活支援演習を修得していること				
履修要件	・看護理論、臨床看護後術を履修していること				
必要な事前・事後学修					
	実務経験あり				
実務経験のある教員	看護師の資格を有する教員の指導の下、看護に必要な基礎的な看護実践能力を身につける				
による授業内容	ための実習を行う				
施行規則に定める	養護に関する科目				
科目区分又は事項等	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)				
	当成了、中間の大日本の一次心を担じている。				
その他	実習の日時、内容、諸注意については、別途実習要項を配布し説明する				

基礎看護学実習Ⅱ

Nursing Practicum II: Fundamental Nursing

担当教員名 東 知宏 、上木 礼子 、大島 千佳 、笠井 恭子					
科目区分 専門 必	必修 授業方法 実習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 2年		
開講期 前期	単位数 2 オフィ	東 (N302) 上木 (N416 (N414) 随時対応し			
メールアドレス	東 azuma@ 上木 reikou17@ 大	に島 oshima@ 笠井 kasai@ (@じ	以降は fpu. ac. jp)		
授業概要	対象の個別に即した看護を認識 するための基本的能力を修得す	もし、計画的に看護を実践、評価する ⁻ る。	という看護過程を展開		
到達目標	・対象および対象をとりまく人できる。 ・自分の意図や気持ちを適切に ・対象に起こりうる危険を予測	し整えることができる。 護者としての自己認識を高めること	,、対象の立場から評価		
授業計画・内容					

実習施設:福井県立病院、福井赤十字病院、福井循環器病院

実習期間:8月中旬~9月上旬 集中実習(10日間)

実習方法:1病棟につき4名程度の学生配置とし、学生1対患者1の受け持ち実習を展開する

遠隔実習となった場合には、ZOOMによるオンライン実習とする

【病院実習】

・初期:病棟オリエンテーション、自己紹介、情報収集、担当看護師とケアに参加する

・中期:可能な看護の実践、看護アセスメントおよびアセスメントに基づく看護計画を立案する

・終期:看護を実践しながら看護過程を展開する

【学内・在宅実習】

・ 実習のまとめ、記録の提出

キーワード	臨地実習 療養環境 看護の役割と機能 看護過程展開の技術
教科書	関連科目で使用している教科書
参考書	関連科目で使用している参考書
評価方法・評価基準	評価方法:実習内容(40%)、実習態度(10%)、記録物(50%)から評価する。遠隔実習となった場合には評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する。 評価基準:対象の事実を正確に把握する能力を記録物から評価する。対象および対象をとりまく人々に優先すべき看護を考え、実施する能力を実習内容と記録物から評価する。自分の意図や気持ちを適切に伝達できる能力を実習内容から評価する。対象に起こりうる危険を予測し整えることができる能力を実習内容から評価する。実習体験の評価を通した看護者としての自己認識を記録物および実習

関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、 看護過程展開論、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習 I
履修要件	・看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、基礎看護学 実習 I を修得していること ・看護過程展開論、フィジカルアセスメントを履修していること
必要な事前・事後学修	関連科目を復習し、看護技術の練習を行ったうえで実習に臨むこと
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、看護に必要な基礎的な看護実践能力を身につける ための実習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む)
その他	実習の日時、内容、諸注意については、別途実習要項を配布し説明する

看護倫理学

Nursing Ethics

担当教員名 笠井 恭子								
科目区分 専門 如	必修	授業方法	講義	授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 後期	耳	単位数 1	オフ	ィスアワー	随時	(メールにて事	前に日時調整	~(2)
メールアドレス	kasa	ai@fpu.ac.jp)					
授業概要	概念	、ケアの倫理 看護倫理の重	里、 重要概念につ	いて教授する		型学の諸理論、医 D問題を解決する		
到達目標	2. 3. 4.	医療に関わる ケアの倫理、 看護実践上の	る倫理学の諸 看護倫理の	重要概念につい に対する感受性	里の 4 / いて理解	原則・重要概念に		
	授業計画・内容							

- 第1回 医療倫理・看護倫理の変遷
- 第2回 医療に関わる倫理学の諸理論:功利主義、義務論、徳倫理
- 第3回 医療倫理の4原則と原則の対立/医療倫理の4原則を用いた事例検討
- 第4回 医療倫理の重要概念:インフォームドコンセント、コンピテンス、パターナリズム、尊厳
- 第5回 ケアの倫理/倫理的ジレンマ/臨床倫理4分割法の活用
- 第6回 看護倫理の重要概念:アドボカシー、アカウンタビリティ、協働性、ケアリング
- 第7回 個人ワーク/グループワーク(臨床倫理4分割法を用いた事例検討)
- 第8回 発表/ディスカッション/まとめ
- ※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。

キーワード	医療倫理 ケアの倫理 看護倫理 倫理的ジレンマ 臨床倫理 4 分割法
教科書	指定しない
参考書	授業時紹介する
評価方法・評価基準	評価方法:レポート(100%) 提示された事例について、生じているジレンマが理解できているか、さらに、臨床倫理4分割法を 用いて、関わりの方向性が導き出せるかについて、以下の評価基準に沿って評価する。 評価基準:①課題を的確に把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。
関連科目	専門教育科目全般

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	事前学習:事前に配布する資料に目をとおし予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が看護倫理学に関する授業および事例検討の演習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	特になし

母性看護学概論

Introduction to Maternal Nursing

		introduction to material	1141 6 1116	
担当教員名 岩谷	谷 久美子			
科目区分 専門 必	必修 授業方法	講義 授業の実施	方法 対面授業	対象学年 2年
開講期 後期	単位数 1	オフィスアワー	随時 (N408)	
メールアドレス	岩谷: kiwatani@f	fpu. ac. jp		
授業概要	母性看護の基盤となる概念(母性・父性・親性など)と母親および父親の役割取得と発達、女性のライフサイクルに応じた発達課題について教授する。さらに、現代社会の中に産むことと子育てに関する現状と課題を提示し、母性看護学の特徴・役割ついて教授する。また母子保健に関して国内だけでなく、海外の看護活動から、現状や課題を考察できる機会とする。			
到達目標	 2. 人の性と生殖 3. ライフステー 4. 母子保健の動 5. 母子のための 	盤となる概念が理解できる のメカニズムとその意義が ・ジ各期における健康問題と 向や法律、国際化と問題点 の地域包括ケアについて与 ・2に対応している)	理解できる。 支援について学ぶ。 、ジェンダーと人	権等について考察できる。

特別講義のため、日程を変更する可能性がある。初日のオリエンテーションで説明する。

第1回 母性看護の基盤となる概念

第2回 人間の性と生殖のメカニズム

第3回 女性のライフステージ各期の健康と看護問題

(喫煙・子宮がん・更年期障害・うつなど)

第4回 女性のライフステージ各期の健康と看護問題

(性感染症・人工妊娠中絶・不妊・乳がんなど)

第5回 ジェンダーと人権、母性の健康と生活環境

第6回 母子保健に関する歴史・動向・法律・施策

第7回 海外(フィリピン)における母子保健の現状・課題(特別講義)

第8回 母性看護学の特徴、母子のための地域包括ケア、母性看護に関わる職種・場・役割・連携

※対面授業ができない場合は Zoom 等による授業と GC を利用します。

キーワード	母性・父性・セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ライフサイクル・国際 化と問題点・母子のための地域包括ケア
教科書	有森直子:母性看護学 I 概論、医歯薬出版(最新版)
参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 その他、講義資料はその都度配布する。参考書は随時紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法:レポート:60%、小テスト 40%、で評価する。 評価基準:授業最初にルーブリックで示すが、到達目標を5段階で評価する。 ただし対面式で評価できない場合は、レポート等、後日連絡する。
関連科目	看護の基礎科目
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	事前学習:教科書に目を通すこと。 講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有し業務経験のある教員が母性看護学に必要な基本的な知識を持って講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	小テストについては、初日オリエンテーションで説明し日程を決定する。

母性看護学

Maternal Health Nursing

				8	
担当教員名 岩谷	谷 久美子 、平	井 宏美 、牧野	·		
科目区分 専門 🖟	必修 授業方法	講義	授業の実施	方法 対面授 業	対象学年 3年
開講期 前期	単位数 2	オフィ	ィスアワー	講義終了後随時 美(N109) 牧野葵	岩谷(N408) 平井宏 (N304)
メールアドレス	岩谷: kiwatan	i@fpu.ac.jp、 ገ	井:hirohira	@fpu.ac.jp、牧野:	mknaoi@fpu.ac.jp
授業概要	からその特徴を		ネスの概念に	基づき、健康上の強み	ウ・精神的・社会的側面 ・を視点に於いた看護の
到達目標	2) 妊産褥婦とそ 3) 妊娠期からの きる。 4) 周産期の正常	の子の正常・男の子関係の発達	営の経過を理 と家族機能な 発過を理解し、	と具体的援助とのつな解し、具体的な看護の らびに心理的・社会的 看護の実際を理解でき	D実際を理解できる。 川に応じた看護を理解で
授業計画・内容					

日程を変更する可能性もある。初日のオリエンテーションに注意。)

【妊娠期の看護】 担当:岩谷 久美子

第1回 妊娠の成立と、妊娠初期の母体の身体的・心理的特徴および胎児の発育と健康状態の理解

第2回 妊娠経過の健康診査や保健指導、ハイリスク妊娠の理解

第3回 母親役割取得過程、出産・育児への準備を支援するための看護

【分娩期の看護】 担当:岩谷 久美子

第4回 分娩の3要素と分娩経過、分娩経過に伴う産婦の身体的・心理的変化の特徴の理解 、

分娩期の異常についての看護、妊娠・分娩期の試験

【産褥期の看護】 担当:平井 宏美

第5回 産褥期の定義、産褥期の経過、産褥期の特徴と看護目標の視点

第6回 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化

第7回 退行性変化と看護

第8回 進行性変化と看護

第9回 産褥期の母子関係や育児行動、母親役割取得にむけた看護

第10回 帝王切開術による分娩と産褥期の看護、産褥期の試験

【新生児の看護】 担当:牧野 葵

第11回 新生児の定義・分類

第12回 早期新生児の生理的変化と必要な看護(呼吸、循環、体温)

第13回 早期新生児の生理的変化と必要な看護 (糖代謝、消化・吸収、栄養、黄疸、免疫等)

第14回 早産・低出生体重児・ハイリスク児の特徴と看護

第 15 回 新生児の試験、ウェルネス思考、看護過程の事例	第 15 回	新生児の試験、	ウェルネス思考、	看護過程の事例紹介
-------------------------------	--------	---------	----------	-----------

キーワード	妊娠、分娩、産褥、妊産褥婦、新生児、母性、ウエルネス、母子関係、家族、不妊
教科書	1) 有森直子:母性看護学I概論、医歯薬出版(最新版) 2) 有森直子:母性看護学I周産期各論、医歯薬出版(最新版) 3) 村本淳子・崎山貴代:ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出版(最新版)
参考書	1) 新道幸恵 他:母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院 2) 太田操編著:ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版 第4版 3) 系統看護学講座 母性看護学概論・母性看護学1・2、医学書院
評価方法・評価基準	評価方法:講義の理解度を試験(100点)(各担当教員毎に試験)として評価を行い、理解度を確認する。 評価基準:到達目標に照らして総合的な理解度を最終試験で評価する。 評価配分は、岩谷: 30%、平井: 40%、牧野 30%、とする。 ただし、対面式で試験ができない場合は、出題形式や試験の実施方法を変更する。
関連科目	専門基礎科目、看護の基礎科目、母性看護学概論、小児看護学概論
履修要件	2年次までに必修となっている専門科目を履修していること
必要な事前・事後学修	事前学習:教科書に目を通すこと。教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師業務を経験した教員が母性看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知 識及び看護実践に必要な看護技術を講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	対面授業ができない場合は zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等で行う。

母性看護学演習

Maternal Health Nursing Seminar

担当教員名 岩谷	担当教員名 岩谷 久美子 、平井 宏美 、牧野 葵							
科目区分 専門 卓	必修 授業方	法演習		授業の実施	方法	対面授業	対象学年 3	3 年
開講期 前期	単位数	1	オフィ	スアワー		終了後随時 N109) 牧野葵	岩谷(N408) (N304)	平井宏
メールアドレス	岩谷:kiwata	ani@fpu.ac.	jp、平纬	‡:hirohira	a@fpu	ı.ac.jp、牧野:	mknaoi@fpu.	ac. jp
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期の母親とその子(胎児・新生児)の身体的・精神的・社会的側面からその特徴を理解し、看護過程を通してアセスメントする視点を学ぶ。さらに具体的な演習により、母性看護の対象に対する具体的援助の実際について学び、母性看護の役割を理解する。							
到達目標	2) 海外におけ 3) 具体的な事 の看護過程か	ける母子保健 事例を通して	建の現状 、妊産褥 を基礎的能	・課題を考察 婦の生理的 能力を養う。	できる	な知識・技術を る。 ・の適応促進と健		決のため
授業計画・内容								

(特別講義のため、日程を変更する可能性もある。初日のオリエンテーションに注意。)

【オリエンテーション】(講義) 担当:平井

6/5 (木) 第1回 演習計画について (紙上事例の説明、事例のアセスメント、母性看護技術)

【看護過程】(演習) 担当:全教員

※別資料

6/12 (木) 第2·3回 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護過程を展開する

6/19 (木) 第4.5回 アセスメント・看護目標・看護計画を立案する

6/26 (木) 第6.7回

7/3 (木) 第8-9回

※方法:看護過程演習では、小グループによるグループディスカッション、発表討論会をおこなう。

【母性看護技術】(演習) 担当:全教員

※別資料

7/10 (木) 第10・11回 母性看護実践に必要な基本的看護技術演習

7/17 (木) 第12·13 回 妊婦・褥婦・新生児の観察と看護に必要な技術演習

※方法:技術演習では、小グループでローテーションにより、模型等を用いて母性看護に関する技術を 実践する。

【統合】(演習) 担当:全教員

※別資料

7/24(木) 第14·15回 紙上事例に基づきシュミレーションを実施し、デブリーフィングを行う。

※方法:技術演習では、小グループを編成し、ローテーションで技術演習をおこなう。

キーワード	妊娠、分娩、産褥、妊産褥婦、新生児、看護過程、母子関係、家族、母性看護技術
教科書	1) 有森直子:母性看護学 I 概論、医歯薬出版(最新版) 2) 有森直子:母性看護学 II 周産期各論、医歯薬出版(最新版) 3) 村本淳子・﨑山貴代:ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出版(最新版)
参考書	1) 新道幸恵 他:母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院 2) 太田操編著:ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版 第4版 3) 系統看護学講座 母性看護学概論・母性看護学1・2、医学書院
評価方法・評価基準	評価方法:理解度を最終試験 (75 点)、看護過程等 (25 点) として評価を行う。 評価基準:到達目標に照らして総合的な理解度、特に母性看護に関する技術・看護過程の アセスメント力が身についたかどうか評価する。 評価配分の最終試験は、各教員25点とする。 ただし、対面式で試験ができない場合は、出題形式や試験の実施方法を変更する。
関連科目	専門基礎科目、看護の基礎科目、母子看護学概論、母性看護学、小児看護学
履修要件	2年次までに必修となっている専門科目を履修していること
必要な事前・事後学修	事前学習:教科書に目を通すこと。教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師業務を経験した教員が母性看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知 識及び看護実践に必要な実態に働きかける看護技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	対面授業ができない場合は zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等で行う。

小児看護学概論

Introduction to Child Health Nursing

担当教員名 金料			-	
	必修 授業方法 講義	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 2年
開講期 後期	単位数 1	オフィスアワー	随時受付 金粕 (N30	08)
メールアドレス	金粕; kanekasu@fpu. ad	c.jp 上谷;kamitani	@fpu. ac. jp	
授業概要	子どもと家族を取り巻また、子どもを理解する			
到達目標	1. 子どもと家族を取り とができる 2. 胎生期~思春期・計 ができる 本授業は、DP1・2・	f年期までの子どもの ₅		_,, _,,
		授業計画・内容		

第1回 小児医療・小児看護の変遷

児童福祉:児童虐待・こどもの貧困への対策

第2回 児童福祉:障害を持つ子どもへの支援

第3回 子どもを理解するための発達理論、プレパレーション

第4回 子どもの成長発達の特徴と看護:胎生期・新生児期・乳児期

第5回 子どもの成長発達の特徴と看護:幼児期

第6回 子どもの成長発達の特徴と看護: 学童期、思春期・青年期

第7回 地域における子どもと家族への支援

第8回 小児医療における医療安全、倫理

第1-6回は金粕、第7,8回は上谷が担当する

キーワード	子どもと家族、成長·発達、母子保健、児童福祉、子育て支援
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版 2) 病気が見える Vol.15, 小児科、Medic Media
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本,金子龍太郎,吾田富士子,ナツメ社 2) 科学的看護論,薄井坦子,日本看護協会出版会
評価方法・評価基準	評価方法はレポートと小テストから総合的に判断する。詳細は初回講義時に説明する
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護学の基本的な知識及び看護実践に必 要な考え方について講義する

施行規則に定める	養護に関する科目
科目区分又は事項等	学校保健
その他	

小児看護学

Child Health Nursing

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子								
科目区分 専門 必修 授業方法 講義 授業の実施方法 対面授業 対象学年 3年							3年	
開講期 前期	単位数	2	オフィ	スアワー	随時受付	金粕(N30)8) 上谷	(N110)
メールアドレス	金粕; kane	ekasu@fpu. a	c. jp, 上	谷; kamitan	i@fpu. ac. jį	ס		
授業概要	さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を 行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ							
1. 科学的看護論を基盤に、子どもとその家族を対象とした看護過程の展開が理解できる 2. 基礎看護技術の知識を基に、小児看護に必要な看護技術が理解・習得できる 本授業は、DP2・3に対応している								
授業計画・内容								

第1回 導入、子どもとその家族へのコミュニケーション

第2回 子どもの疾患と看護:精神疾患(摂食障害)、神経疾患(てんかん)

第3回 子どもの疾患と看護:慢性疾患(気管支喘息)

第4回 子どもの疾患と看護:慢性疾患(気管支喘息)事例展開(記録1・2)

第5回 子どもの疾患と看護:慢性疾患(I型糖尿病)

第6回 子どもの疾患と看護:慢性疾患(I型糖尿病)事例展開(記録3)

第7回 子どもの疾患と看護:周術期(アデノイド増殖症)

第8回 子どもの疾患と看護:周術期(アデノイド増殖症)事例展開①(記録4)

第9回 子どもの疾患と看護:周術期(アデノイド増殖症)事例展開②(記録4)

第10回 子どもの疾患と看護:周術期(アデノイド増殖症)事例展開③(記録5)

第11回 特別講義(1):子どものあそび

第12回 特別講義(1):子どものあそび

第13回 子ども疾患と看護:急性期(川崎病など)

第14回 子ども疾患と看護:急性期 事例展開(記録3)

第15回 子どもへのプレパレーション

第 1-4 回, 7-15 回は金粕、第 5, 6, 15 回は上谷が担当する

キーワード	子どもと家族、成長・発達のアセスメント、看護展開、小児看護技術
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①、小児の発達と看護、メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②、小児看護技術、メディカ出版 3) 病気が見える Vol.15、小児科、Medic Media
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本,金子龍太郎,吾田富士子,ナツメ社 2) 科学的看護論,薄井坦子,日本看護協会出版会
評価方法・評価基準	評価方法はレポートと小テストで総合的に判断する。レポートには、事例展開の記録や授業毎のミニレポート、特別講義のレポートが含まれる。詳細は初回講義時に説明する
関連科目	基礎看護技術、臨床看護技術、フィジカルアセスメント、母性看護学、精神看護学、家族 看護論、学校保健 I
履修要件	小児看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護に関する基本的な知識及び看護技術、 看護過程展開について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)
その他	

小児看護学演習

Skill Training Seminar of Child Health Nursing

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子									
科目区分 専門 必修 授業方法 演習 授業の実施方法 対面授業 対象学年 3年							3年		
開講期 前期	単	位数 1		オフィ	スアワー	随時受付	金粕 (N30)8) 上谷	(N110)
メールアドレス	金粕;	kanekasu@	fpu. ac.	јр, 上	谷; kamitan	i@fpu.ac.j	р		
授業概要		さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を 行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ							
1. 子どもとその家族を対象とした看護過程の展開が理解できる 2. 小児看護に必要な看護技術が理解・習得できる 本授業は、DP3・4に対応している									
授業計画・内容									

第1回 子どもへのプレパレーション:計画立案

第2回 子どもの疾患と看護:悪性腫瘍(急性リンパ性白血病)

第3回 小児がんの子どもと家族の看護: 事例展開(記録1・2)

第4回 小児がんの子どもと家族の看護: 事例展開(記録3)

第5回 小児がんの子どもと家族の看護: 事例展開(記録4)

第6回 小児がんの子どもと家族の看護: 事例展開(記録4)

第7回 小児がんの子どもと家族の看護: 事例展開(記録5)

第8回 小児看護技術(1):日常生活援助

第9回 小児看護技術(2): フィジカルアセスメント

第10回 小児看護技術(3):輸液法、医療的ケア

第11回 小児看護技術(4):コミュニケーション、腰椎穿刺・骨髄穿刺

第12回 急性期における子どもと家族の看護: 事例展開(記録4)

第13回 急性期における子どもと家族の看護: 事例展開(記録5)

第14回 急性期における子どもと家族の看護: 計画発表①

第15回 急性期における子どもと家族の看護: 計画発表②

第9.11.12-15回は金粕、第1-8.10.回は上谷が担当する

), o,,	110:12-(110, 7) : 0: (0) [1:0:12]
キーワード	子どもと家族、成長・発達のアセスメント、看護展開、小児看護技術
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②, 小児看護技術, メディカ出版 3) 病気が見える Vol. 15, 小児科、Medic Media
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本,金子龍太郎,吾田富士子,ナツメ社 2) 科学的看護論,薄井坦子,日本看護協会出版会
評価方法・評価基準	評価方法はレポートで総合的に判断する。レポートには、事例展開の記録や小児看護技術のレポート、授業毎のミニレポートが含まれる。詳細は初回講義時に説明する
関連科目	基礎看護技術、臨床看護技術、フィジカルアセスメント、母性看護学、精神看護学、家族 看護論、学校保健 I
履修要件	小児看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護に関する基本的な知識及び看護技術、 看護過程展開について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)
その他	

成人 · 老年看護学概論

Introduction to Adult • Gerontological Nursing

担当教員名 熊谷 あゆ美 久米 真代 有田 広美(非)						
科目区分 専門 必	込修 授業方法	講義	授業の実施方法	対面授業	対象学年 2年	
開講期 前期	単位数 1	オフィ	スとリー	業の前後に質問 V415) 久米(N3)		
メールアドレス	熊谷:ayuku ク	八米:kume 有田]:arita 末尾に	⊏@fpu. ac. jp を付り	けてください。	
授業概要	健康課題を理解 に取り組み、家族 ある人々の健康	し、看護に必要が 実や地域社会の中 、看護の基本的が	な知識を教授する っでどのように生 な考え方と実践に	。老年期を過ごす 活しているのかを	を生活、さらに様々な 人々が自身の健康問題 学ぶとともに老年期に 受する。また、成人およ 深求する。	
到達目標	2. 老年期にあたまでを考慮しる. 加齢変化ややと持てる力、伸4. 成人および5. 疾病の経過きる6. 老年看護の	る人々の身体的 た看護を考える 様々な課題に適成 びゆく力を理解 老年期にある人 (急性期からター	・心理的・社会的 ことができる なしながら生活し できる 々の健康問題との ーミナル期)と各 通して老年看護の	.ている高齢者の多 保健・医療・福祉I	は伴う変化を理解し、加 は様性、低下していく力 対策を理解できる が看護について理解で	
授業計画・内容						

第 1回:ライフサイクルにおける成人期と老年期の位置づけ、発達課題 [熊谷]

第2回:成人期にある人の身体的、心理社会的特徴 [熊谷]

第3回:老年期にある人の身体的・心理社会的特徴 [久米]

第 4回: 老年期にある人の身体的・心理社会的特徴 [久米]

第5回:成人・老年を取り巻く社会環境の変化と家族の多様化 [有田]

第6回:成人・老年の保健の動向、成人期に特徴的な健康問題 「熊谷]

第 7回: 老年期に特徴的な健康問題 [久米]

第 8回:保健医療福祉政策(生活習慣病対策、がん対策、虐待防止対策と身体拘束禁止等) [有田・久米]

第 9回:社会の変化と高齢者の社会保証制度の変遷 [久米]

第10回:健康の段階に応じた看護(急性期) [熊谷]

第11回:健康の段階に応じた看護(回復期) [熊谷]

第12回:健康の段階に応じた看護(慢性期) [有田]

第13回:健康の段階に応じた看護(終末期) [久米]

第14回:地域・在宅への継続医療と看護、質の高い看護実践のための人材 [有田]

第 15 回:特別講義:老年看護専門看護師の活動 [久米]

※遠隔授業になった場合は、zoomによるオンライン授業を行う。

キーワード	成人 老年 発達課題 加齡変化 健康問題
教科書	成人看護学 1 成人看護学概論/成人保健 第 7 版 メデカルフレンド社 2024 年版 最新老年看護学第 4 版 日本看護協会出版会 2025 年版

参考書	特になし
評価方法・評価基準	期末試験(100%)を実施する。 評価基準は講義時に説明する。
関連科目	基礎看護学概論
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に適宜提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員および専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	特になし

急性看護学

(Acute Nursing)

担当教員名 熊名	ら あゆ美 矢	:島 直樹						
科目区分 専門 必	必修 授業力	方法 講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 後期	単位数	2	オフィ	スアワー	授業 (N41	の前後に質問 5) 矢島(N20		┡る。熊谷
メールアドレス	熊谷:ayuku	」 矢島:nya	ajima 🧵	末尾に@fpu.a	ac.jp ?	を付けてくださし	,۱ _°	
授業概要	手術を受ける患者や健康状態の急激な変化が予測される患者の看護について、基礎的知識 を習得する。手術侵襲が生体に及ぼす影響、術後合併症予防、急性疾患の病態とトリアー ジ、家族看護について学ぶ。							
到達目標	2. 周術期にる 3. 手術や急 る。 4. 救命救急の	性疾患が及ほ	機能と で ます身体 における	アセスメント 面や心理面へ るトリアージ	· 、術後 〜 の影響	里解できる。 後合併症と看護を 響と意思決定支 響の必要性が理解	援の重要性	•
	授業計画・内容							

周術期にある患者の理解と周術期看護 [熊谷]

第 1回:手術侵襲と生体反応、全身管理

第2回:術前の看護:身体面のアセスメントと術前訓練

第3回:術前の看護:心理面のアセスメントと意思決定支援

第 4回:臓器移植と看護の実際(特別講義)

第 5回:術中の看護:麻酔と手術、手術看護

第6回:術直後・術後の看護:予測される問題と観察、術後合併予防

第 7 回: "

第8回:消化器外科手術と看護:胃がん

第 9回: 術式の特殊性と看護 (グループワーク)

心臓・血管外科手術、呼吸器外科手術、脳神経外科手術、婦人科手術、泌尿器科手術等

第10回: 術式の特殊性と看護 発表

第11回: 術式の特殊性と看護 まとめ

危機的状況にある患者や家族の理解と救急看護 [矢島]

第12回:救命救急と看護の実際(特別講義)

第13回: 救命救急: 重症患者のフィジカルアセスメント

第14回: 救命処置: 一次救命処置、二次救命処置、外傷初期診療と看護

第15回:救急医療体制

※遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグルクラスルームによるオンデマンド授業等を行う。

キーワード	周術期看護 手術侵襲 術後合併症 救急看護 救急医療
教科書	成人看護学 急性期看護学 I 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学 II 救急看護・クリティカルケア 南江堂
参考書	特になし

評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を期末試験 (50%)、課題・小テスト (50%) から、総合的に評価する。 評価基準は講義時に説明する。
関連科目	専門基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	教員が講義時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学の基本的な知識について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む)
その他	特になし

急性看護学演習

(Seminar on Acute Nursing)

担当教員名 熊谷 あゆ美 矢島 直樹							
科目区分 専門 』	必修 授業方	法 演習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3年		
開講期 前期	単位数 1	オ	フィスアワー	授業の前後に質問 (N415) 矢島(N20	を受け付ける。熊谷 08)		
メールアドレス	熊谷: ayuku	矢島:nyajiı	ma 末尾に@fpu.a	ac.jp を付けてくださり	l'.		
授業概要	ぶ。救命救急	手術を受ける患者が合併症を併発することなく、回復過程を歩むためのケアについて学ぶ。救命救急に必要な患者の観察や救命処置について、根拠に基づき実践できる基礎的能力を養う。事例を用いた術前術後ケアの技術演習、救急時対応のシミュレーションを通して学ぶ。					
到達目標	1. 手術を受ける対象の看護過程の展開が理解できる。 2. 術後合併症予防のための術前術後ケアの根拠が理解できる。 3. 救命救急に必要な患者の観察や処置の根拠が理解できる。 (本授業は、DP3、4に対応している)						
授業計画・内容							

周術期にある患者の看護過程の展開と合併症予防のためのケア [熊谷/矢島]

第1回:周術期患者の看護

第2回: "

第3回:看護過程の事例展開:術前 情報収集

第4回: ": 術前 問題の明確化

第5回: """

第6回:術前の呼吸訓練演習

第7回: "発表とまとめ

第8回:看護過程の事例展開:術中 看護計画立案

第9回: ":術直後看護計画立案

第10回: ": 術後 看護計画立案

第11回:術後の早期離床演習

第12回: " 発表とまとめ

危機的状況にある患者に必要なケア [矢島/熊谷]

第13回: 救急患者の看護

第 14 回:救命処置演習

第15回: " 発表とまとめ

※遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグルクラスルームによるオンデマンド授業等を行う。

キーワード	周術期看護 術前術後ケア 看護過程 一次救急処置 二次救急処置
教科書	成人看護学 急性期看護学 I 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学 II 救急看護・クリティカルケア 南江堂
参考書	成人看護学 成人看護技術 南江堂
評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を期末試験(50%)、課題・演習記録(50%)から、総合的に評価する。 評価基準は講義時に説明する。

関連科目	専門基礎科目 看護の基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論 急性看護学
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	教員が演習時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学の基本的な知識について演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし
その他	特になし

セルフケア支援論

Self-care Support for Chronic Diseases

担当教員名 久	米 真代、熊谷あゆ美、藤E	Support for Uniform 田祐子、 松崎かされ		
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 2年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	崎(N411)	をください。 (N415) 藤田 (N110) 松
メールアドレス	久米: kume 熊谷: ayuku 末尾に@fpu. ac. jp を付け		公崎:kasane	
授業概要	慢性疾患の特徴や慢性疾 きる人に看護を提供する 上手くできずに、急性増 の活用や患者とその家族 る。	ための知識・技術を 悪した際の治療およ	教授する。さらに、憶 び看護についても教持	慢性疾患のセルフケアが 受する。また、社会資源
到達目標	1. 慢性の健康障害を持 2. 病いや障がいと共に 3. 慢性疾患が急性増悪 4. 退院後の療養生活を (本授業は、DP2, 3に	生きていくことにつ したときの看護を理 見据えた退院支援を 対応している)	いて考察できる 解できる	る方法を説明できる
		授業計画・内容		
第1回 慢性・長期	期的な健康問題をもちなが	ら生活している人の	看護	久米
第2回 生活習慣(の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(糖尿	病)	藤田
第3回 生活習慣(の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(糖尿	病)	藤田
第4回 生活習慣の	の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(慢性	· 腎不全)	藤田
第5回 生活習慣(の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(慢性	· 腎不全)	藤田
第6回 生活習慣(の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(慢性	心不全)	久米
第7回 生活習慣(の継続的な調整を必要とす	る患者の看護(慢性	心不全)	久米
第8回 生活の再	構築を必要とする患者の看	護(パーキンソン病)	松崎
第9回 生活の再	構築を必要とする患者の看	護(パーキンソン病)	松崎
第 10 回 生活の調	整を必要とする患者の看記	蒦(慢性閉塞性肺疾 腺	患)	久米
第 11 回 生活の調	整を必要とする患者の看記	蒦(慢性閉塞性肺疾 腺	患)	久米
第 12 回 慢性疾患	の急性増悪時の看護(呼呼	及器、循環器系疾患)		熊谷
第 13 回 がん患者	のセルフケアのアセスメン	ントと支援(がん看詞	獲専門看護師による特	別講義) 久米
第 14 回 がん放射	線治療を受ける人の看護	(がん看護専門看護的	师による特別講義)	久米
第 15 回 がん薬物	療法を受ける人の看護(カ	がん看護専門看護師に	こよる特別講義)	久米
※遠隔授業になった	に場合は zoom によるオン	ライン授業を行う		
キーワード	セルフケア 疾病受容 追	退院支援 成人 高齢	冷者	
教科書	がん看護学 第3版, 医学 看護判断のための気づきと NEW はじめての循環器看護	ニアセスメント セノ	レフケア支援,中央法	規
参考書	まるごと図解循環器疾患,			

	※購入は必須ではありません。
評価方法・評価基準	評価方法:筆記試験 100%(各担当教員が授業コマ数に合わせた配分で出題する) 評価基準:講義の理解度を期末試験として評価する ※遠隔授業の場合は上記と同じ評価方法・評価基準とする
関連科目	成人・老年看護学概論 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学、臨床薬理学等
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員および専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

セルフケア支援演習

Seminar Self-care Support for Chronic Diseases

担当教員名 久米	担当教員名 久米 真代、藤田 祐子、松崎 かさね、有田 広美(非)								
科目区分 専門 必修		授業方法	演習		授業の実施	方法	对面授業	対象学年	3年
開講期 前期	単	i位数 1		オフィ	スアワー		で事前に連絡? (N311) 藤田(M	_	
メールアドレス	久米:kume 藤田:yfujita 松崎:kasane 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください								
授業概要	ライ・ てア・	慢性疾患の発症や慢性疾患の急性増悪で治療を受ける患者および家族を理解し、健康的な ライフスタイルの調整や退院後のセルフケア行動の獲得に向けた支援を学ぶ。事例を用い てアセスメント、看護計画立案し、看護技術演習では実践を学ぶ。少人数のグループ討議 を中心に個別学習を進める。							
到達目標	1. 紙上患者のこれまでの生活習慣および生きた過程を踏まえ、身体・心理・社会的側面 から全体像を描くことができる 2. 紙上患者の治療による苦痛、治療が会後の生活に及ぼす影響を述べられる								
授業計画・内容									

- 第1回 【講義】アセスメントの枠組み、看護過程の展開(久米)
- 第2回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開①疾患の理解(有田、藤田、松崎)
- 第3回がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開②アセスメント(有田、藤田、松崎)
- 第4回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開③看護問題の明確化(有田、藤田、松崎)
- 第5回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開④抗がん剤投与当日の看護(有田、藤田、松崎)
- 第6回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑤看護技術演習:抗がん剤投与当日の観察(有田、藤田、松崎)
- 第7回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑥計画立案(有田、藤田、松崎)
- 第8回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑦がん治療をうける患者の心理、社会的問題(有田、藤田、松崎)
- 第9回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開①疾患の理解(久米、松崎、藤田)
- 第 10 回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開②看護問題の明確化(久米、松崎、藤田)
- 第 11 回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開③全体像の理解(久米、松崎、藤田)
- 第 12 回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開④セルフケア支援に活用できる理論の 検討(久米、松崎、藤田)
- 第 13 回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開⑤セルフケア支援に活用できる理論の発表(久米、松崎、藤田)
- 第 14 回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開⑥理論を活用した看護計画の立案(久 米、松崎、藤田)

第15回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開⑦計画発表と討議(久米、松崎、藤田)

※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う

キーワード	セルフケア 急性増悪 退院支援 成人 高齢患者 看護過程展開
教科書	今日の治療薬 2025,南江堂 看護判断のための気づきとアセスメント セルフケア支援,中央法規
参考書	最新老年看護学第4版,日本看護協会出版会,2024年版 がん看護学 第3版,医学書院,2024年版「セルフケア支援論」特別講義の資料
評価方法・評価基準	評価方法:看護過程の展開記録 60%(各 30%)、筆記試験 40% 評価基準:看護過程の展開記録は必要な知識を使い妥当な展開ができているかにより評価 する
関連科目	解剖生理学 I ・ II 、臨床薬理学、臨床病態学、成人・老年看護学概論、セルフケア支援論 老年看護援助論
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域で看護師経験のある教員が本演習に必要な基本的知識および看護技術を講義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助論

Methods of Gerontological Nursing

担当教員名 久米		of Gerontologica	<u> </u>				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 2			
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー		室時。実習指導で不在 メールで連絡をしても (N508)			
メールアドレス	久米: kume, 岡田: okad	•	<u> </u>				
高齢者の栄養と摂食機能の特徴、排泄機能の特徴を理解し、食と排泄を関連付けて看護の実際を理解できる。加齢に伴う運動機能や運動器官の変性や病態を理解し、活動を維持するための看護の実際が理解できる。高齢者の認知機能の特徴と障害(高齢者うつ、せん妄、認知症)を理解し、看護の実際が理解できる。							
到達目標	1. 加齢に伴う栄養、摂食機能、排泄機能の変化を理解できる 2. 運動機能の加齢変化、高齢者に多い疾患が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し、根拠 に基づいた看護を行う基礎知識を修得できる 3. 高齢者の"強み"に着目し、もてる機能を維持しながら生活するための看護を考える						
		授業計画・内容					
第 1 回 多角的·台	包括的な健康アセスメント	トの枠組みと方法		(久米)			
第 2回 認知症の理	理解①認知症の原因疾患と	:診断過程		(久米)			
第 3 回 認知症の理	理解②認知機能障害の特徴	数と認知症の行動・/	心理症状 (:	久米)			
第 4 回 認知症高的	鈴者の看護の基本、アセ <i>ス</i>	スメントと看護		(久米)			
第 5 回 消化器系统	の加齢変化と低栄養			(久米)			
第 6 回 摂食嚥下降	章害のアセスメントと看 詞	雙①摂食嚥下機能の	吅齢変化	(久米)			
第 7 回 摂食嚥下降	章害のアセスメントと看 詞	護②摂食嚥下障害の	アセスメントと看護	(久米)			
第 8 回 加齢に伴う	う泌尿器系の変化と排尿障	章害、排便障害		(岡田)			
第 9 回 排泄障害の	のアセスメントと看護			(岡田)			
第 10 回 運動器(骨・関節・筋・神経)・平	質していいである。	伝倒予防のアセスメン	トと看護 (久米)			
第11回 骨粗鬆症	・骨折後のアセスメント。	と看護		(久米)			
第12回 せん妄の	特徴とせん妄を予防する	看護		(久米)			
第 13 回 睡眠障害の特徴と看護、うつの特徴と看護 (久米)							
第14回 脱水・熱	第14回 脱水・熱中症のアセスメントと看護 (久米)						
第 15 回 感染症と	看護			(久米)			
※遠隔授業となった	と場合、ZOOMによるオンラ	ライン授業もしくは	GC によるオンデマント	・授業となる			
キーワード	低栄養、食と排泄、運動植	機能、活動と休息、	うつ、せん妄、認知症				
教科書	最新老年看護学第4版 2						

参考書	講義の時に適宜紹介する
評価方法・評価基準	評価方法:試験 100% 評価基準:試験の採点結果を基準とする。
関連科目	成人・老年看護学概論、解剖生理学 I ・ II 、臨床栄養学・生化学、臨床薬理学、病態生理学、臨床病態学
履修要件	成人・老年看護学概論、基礎看護学実習は履修していること
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 高齢者専門の急性期病院、急性期病院、介護老人保健施設で看護師業務を経験した教員が、 老年看護学の基礎的な知識・技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助演習

Seminar on Gerontological Nursing Skills

担当教員名 久米真代,岡田恭子								
科目区分 専門 必修	ž	受業方法	演習	授業の実施方法		対面授業	対象学年	3年
開講期 前期	単位	数 1	オフィ	ィスアワー	いつ	終了後と事前に でも対応します (N311), 岡田 (_	ただければ
メールアドレス	久米:k	Kume, 岡日	🗄 : okada 🛚 🔆	ミ末尾に@fpu.a	ıc. jp 7	をつけてくださし	۸,	
授業概要	セスメ: 圧迫創作 なかかれ 用いて、	ントの実際 傷や失禁関 わり方にて 、病態を理	祭や援助技術の 関連皮膚炎の予 Oいて学ぶ。慢 理解したうえて)実際を学ぶ。 防につながる 性疾患の急性 「回復過程の看	脆弱な 援助の 曽悪に 護のま		解し、医療 知症高齢者 や脳血管障 列展開を通し	関連機器の との具体的 害の事例を
到達目標	用いて、病態を理解したうえで回復過程の看護の実際について事例展開を通して学ぶ。 1. フレイル・生活不活発病を予防する看護を考えることができる 2. 高齢者の皮膚の特徴を理解し、皮膚トラブルを予防する看護が実践できる 3. 高齢者の権利や尊厳が侵害されやすい要因を理解し、看護について考えることができる 4. 複数の疾患に罹患し、介護老人保健施設に入所している認知症高齢者の事例をもとは身体・心理・社会的側面および"強み"をとらえ、全体像を描くことができる 5. 既習の知識をもとに高齢者を多角的・包括的にアセスメントし、看護計画を立案することができる 6. ロールプレイを行うことで自分の実践を振り返り、計画を評価・修正することができる 6. ロールプレイを行うことで自分の実践を振り返り、計画を評価・修正することができる 6. ロールプレイを行うことで自分の実践を振り返り、計画を評価・修正することができる						例をもとに る を立案する	

- 第1回 老年症候群・フレイル・生活不活発病と看護 (久米)
- 第2回 高齢者の皮膚の特徴と医療関連機器圧迫創傷やスキンテア、失禁関連皮膚炎を予防する看護 (久米)
- 第3回 老年看護の倫理的課題 (認知症高齢者の意思決定支援を含む) (岡田)
- 第4回 脳血管疾患のアセスメントと看護:疾患の特徴と高齢者ゆえの課題と看護 (久米)
- 第5回 高齢者の人生の最終段階における看護 高齢者のエンドオブライフケア (岡田)
- 第6・7回)高齢者の皮膚トラブルを予防するケアの実際(自立を促す排泄援助、保湿ケア、テープのはが し方、おむつの選択方法と使用、交換) (岡田、久米)
- 第8回 介護保険施設における看護 (岡田)
- 第9回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程①病気の理解 (第9~15回:久米、岡田)
- 第 10 回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程②全体像の理解と高齢者の望む生活に影響する 課題の明確化
- 第 11 回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程③課題の優先順位の決定とアセスメント・看護 計画の立案
- 第12回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程④ロールプレイの計画書を作成
- 第15回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程⑦看護計画の評価・修正、まとめ(久米、岡田)

キーワード	フレイル、生活不活発病、医療関連機器圧迫創傷、失禁関連皮膚炎、認知症高齢者の意思 決定
教科書	最新老年看護学第 4 版 2024 年版:日本看護協会出版会
参考書	なし
評価方法・評価基準	評価基準:演習レポート 20%、看護過程展開の記録 50%、試験 30% ①レポートは演習を通しての学びおよび課題を記述できているかにより評価する。 ②看護過程展開は、必要な知識を使い高齢者の強みを活かした看護の展開が出来ているかにより評価する。 ※遠隔授業となった場合、評価方法を変更することがある。
関連科目	成人・老年看護学概論、老年看護援助論
履修要件	成人・老年看護学概論、老年看護援助論、基礎看護学実習は履修していること。
必要な事前・事後学修	事前・事後学習については、講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 高齢者専門の急性期病院および急性期病院、介護老人保健施設で看護師業務を経験した教 員が高齢者の特徴に合わせて看護技術を実施し、看護過程の展開において実践を振り返る ことができるように演習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

		緩和ケア論			
		Palliative Care			
担当教員名 有田 広美 、梅津 千香子 、金粕 仁美 、長谷川 小眞子					
科目区分 専門 必	必修 授業方法 講義	授業の実施	方法	対象学年 2年	
開講期 後期	単位数 1	オフィスアワー	随時 有田 (N413) (N308) 長谷川 (N		
メールアドレス	有田:arita 梅津:cu				
授業概要	緩和ケアの概念を理解する。残された時を教授する。残された時 らに、生きることを考え び老年期における終末其 疾患を持つ人の緩和ケブ	時間が限られた人と家 る死生観も養う。この 明の特徴と緩和ケア、	族の心理を理解し、苦 の授業では領域横断の 小児における終末期の	痛の緩和を考える。さ 科目とし、成人期およ 特徴と緩和ケア、精神	
到達目標	1. 緩和ケアの考え方、症状コントロールについて理解できる 2. 緩和ケアを必要とする対象の身体および心理の特徴を理解できる 3. 緩和ケアを必要とする対象とその家族の心理を理解できる 4. 意思決定支援と緩和ケアにおける倫理的課題を理解できる 5. ライフサイクル、健康障害、療養の場の違いにおける緩和ケアを理解できる (本授業は、DP2,3に対応している。)				
		授業計画・内容			
第 1回 緩和・タ-	ーミナルケアの考え方、st	全人的苦痛(有田)			
第2回 緩和ケアの	第 2回 緩和ケアの歴史と緩和ケアの現状(有田)				
第 3 回 症状コン	第 3回 症状コントロール、痛みのアセスメント、WHO がん疼痛除痛ラダー(有田)				
第 4回 意思決定を支える援助① (悪い知らせに対する心理的反応、死にゆく人の心理過程) (有田)			里過程)(有田)		
第 5 回 意思決定を	第 5回 意思決定を支える援助②(ACP、人生の最終段階における医療の決定プロセス) (有田)				
第 6回 緩和ケアる	第 6 回 緩和ケアを受ける人の心理とコミュニケーション (有田)				
第7回 ターミナル期にある人の家族の心理 悲嘆 (有田)					

- 第8回 【演習】アドバンス・ケア・プランニング/事例を基に援助を考える(有田)
- 第9回 【演習】事例を基に援助を考える(グループ発表) (有田)
- 第10回 緩和ケアにおけるチーム医療、非がん患者の緩和ケア(有田)
- 債11回 緩和ケアにおける倫理的課題(有田)
- 第12回 小児看護における緩和ケア(金粕)
- 第13回 精神看護における緩和ケア(長谷川)
- 第14回 在宅における緩和ケア(梅津)
- 第15回 特別講義:緩和ケアにおける意思決定支援とチームアプローチ(がん看護専門看護師)(有田)
- ※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う

キーワード	緩和ケア 症状コントロール 全人的苦痛 意思決定支援 緩和ケアにおける倫理的課題
教科書	ナーシンググラフィカ成人看護学⑥緩和ケア第3版、メディカ出版、2022.
参考書	
評価方法・評価基準	評価方法:期末試験(60%)とレポート課題(40%) 評価基準:筆記試験は到達目標に関する理解の度合い、レポートは課題を的確にとらえて まとめているか。 ※対面で筆記試験ができない場合は評価方法を変更することがある

関連科目	成人・老年看護学概論
履修要件	
必要な事前・事後学修	講義時に予習箇所を提示する。次回講義までに提示された教科書の範囲を読んでくること
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員およびがん看護専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講 義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	終末期や見取りを考えたことがなく難しく感じるかもしれませんが、この科目は看護の原 点です。正解を出すのではなく、感じて考えてほしい内容です。

地域包括支援論

Community-based Integrated Support

担当教員名 成	田光江 竹内智子	-pased integrated				
科目区分 専門	必修 授業方法 講義・済	実習 授業の実施に	 方法 対面授業	対象学年 3年		
開講期 前期	単位数 1	オフィスアワー		終了後、必要に応じて N313)、竹内 (N508)		
メールアドレス	成田: narita@fpu.ac.jp		pu. ac. jp			
地域包括支援論では、生活と環境の関係性と、地域で生活する多様な生活者や生活者の生活実態を理解し、地域包括支援と支援の必要性を学ぶ。また、生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援や、生活を支える社会保障制度、自治体施策、制度・施策に基づく地域資源、多機関・多職種の専門性、役割と機能、連携の技術等を学修する。						
到達目標	1. 生活と環境の相互関係がわかる 2. 地域生活者の多様性がわかる 3. 生活を支える社会保障制度や自治体施策、制度・施策に基づく地域資源がわかる 到達目標 4. 生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援方法がわかる 5. 多機関・多職種の専門性、役割と機能、連携の技術がわかる 6. 地域包括支援における看護師の役割がわかる。 本授業は DP の 1 ~ 5 に該当する。					
		授業計画・内容				
1回目 生	活と環境① 生活と	地域・社会との関係	Ŕ			
2回目 生	活と環境② 地域包	括支援とは				
3回目 生	活と環境③ 外部講	師 テーマ:生活を	支える住まいと住ま	い方(仮)		
4回目 多	様な地域資源① 多機関・	多職種の専門性と役	割(入所系)			
5回目 多	様な地域資源② 多機関・3	多職種の専門性と役	割(訪問系)			
6回目 多	様な地域資源③ 地域支援:	ンステム(地域包括	ケアシステム、重層コ	支援体制)		
7回目 連	携の技術① 個別支持	爰とチーム支援				
8回目 連	携の技術② 地域支持	爰と連携支援				
9回目 連	携の技術③ 外部講館	ホーテーマ:生活を	支える看護小規模多様	幾能型居宅介護施設		
			サービスの実際	(仮)		
10回目 DVI) 視聴 多職種	連携 退院前カンフ	ファレンス			
11・12 回目 演習	102 事例を	用いた地域包括支援	退院支援計画書の作	成~発表、まとめ		
		事例紹介、情報の整	隆理、ジェノグラム、	エコマップの作成		
13・14 回目 演習	134 ワーク	ショップ テーマ:	こんな包括支援がで	きたらいいな		
		ワークショップ~角	えまとめ			
15 回目 ま	とめ・総括 地域包	2括支援における看詞	蒦の役割と機能			
【備 考】						
遠隔授業になった場合は Zoom によるオンライン講義・演習を行う						
キーワード	生活、多様性、地域資源、	入退院支援、多機関	・多職種連携、地域	包括支援		
教科書	ナーシンググラフィカ 健 その他(適宜紹介する)	康と社会・生活 MC	ンメディカ出版			
参考書	最新版 医療福祉総合ガイト地域包括ケアシステム、多					

評価方法・評価基準	評価方法:事前学修とレポート内容 80% 演習への取り組み状況、学修態度 20% 評価基準:到達目標の習得状況(事前学修とレポート内容、講義・演習での発言・質問) 自己の考えを整理し、分かりやすく伝えることができているか 礼節をわきまえ自ら学修しているか(容姿、挨拶、返事、主体性、自立性、 積極性等) ※対面授業ができない場合は評価方法を変更することがある
関連科目	看護学に関するすべての科目、保健・医療・福祉の支援制度・サービスに関する科目
履修要件	看護学に関する全ての科目を「履修」していなければ履修できない
必要な事前・事後学修	事前学習:既存の知識・技術の振り返り(社会保障制度、自治体施策、入退院支援、病院・施設等の種類と機能、連携職種の専門性と役割、多職種連携等)、事後学修:レポート作成
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師、保健師、社会福祉士の資格を持ち、病院の入院・外来看護、施設看護、訪問看護、 入退院支援、多機関・多職種連携、コミュニティワーク、メディカル・ソーシャルワーク、 自治体施策の立案・運営等の実務経験者、療育・療育・家族介護者・養育者支援の実務経 験者
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	健康維持に努め、主体的・自立的に学修すること

地域·在宅看護学

Community and Home Health Nursing

		Commun	ity and	Home Health	n Nursing			
担当教員名 普照 早苗、梅津 千香子、成田 光江、竹内 智子								
科目区分 専門 必	必修 授業	美方法 講義		授業の実施	方法 対面		対象学年	2
開講期 後期	単位数	. 2	オフィ	スアワー	講義後およ にメール連		(研究室来記 こと)	坊時は事前
メールアドレス	sfutio(音 をつけてく		u(梅津)	、narita(成	t田)、totake	(竹内)	:後ろに@	fpu. ac. jp
授業概要	地域・在宅看護学では、自宅やそれに準じた環境で生活を営む療養者および家族を対象に、 看護・医療・福祉・保健のあらゆる側面から QOL を高める支援を目指し、多職種と連携・ 協働しながら、看護の役割を果たすための基礎的な専門知識・法制度・システム・援助方 法について学習する。							
到達目標	2. 地域・衣 3. 地域・右 つける。	在宅看護の対	象者へのる療養者を	援助を導き出 および家族の	:視点を身にごける はす看護過程で 権利・尊厳に 。)	を習得する		能力を身に
授業計画・内容								
第1回 地域・在宅看護学とは:在宅の定義、概要と関連する法制度(普照)								

- ~介護保険・医療保険~
- 第2回 在宅療養を支える社会資源および関連機関と多職種連携(成田)
- 第3回 訪問看護利用者とその家族の特徴・特性①概説(梅津)
- 第4回 訪問看護利用者とその家族の特徴・特性②小児の在宅療養者(竹内)
- 第5回 地域・在宅療養者とその家族のQOLと尊厳・意思決定(普照)
- 第6回 地域・在宅におけるリスクマネジメント:予防と救急場面での対応(普照)
- 第7回 在宅ターミナルケア:人生の最終段階における医療・看護ケア(梅津)
- 第8回 継続的視点をもった看護:退院調整・退院支援(普照)
- 第9回 在宅療養者とその家族にかかわる看護倫理(普照)
- 第10回 在宅療養者とその家族への看護:在宅看護過程①情報収集・アセスメント(梅津・普照)
- 第11回 在宅療養者とその家族への看護:在宅看護過程②看護計画・具体策立案(梅津・普照)
- 第12回 在宅療養者とその家族への看護:在宅看護過程③看護展開・看護援助の実施(梅津・普照)
- 第13回 在宅療養者とその家族への看護:在宅看護過程④評価(梅津・普照)
- 第14回 在宅看護活動における ICT の活用、BCP の意義(普照)
- 第15回 地域・在宅看護の今後の展望・発展~まとめと小テスト~(普照・梅津)
- ※遠隔授業となった場合:オンライン授業に切り替える。

キーワード	地域、在宅生活、療養者と家族、介護力、意思決定、QOL、セルフケア、地域包括ケアシステム、 地域共生社会、社会保障、連携、看護過程、ケアマネジメント、リスクマネジメント、倫理
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」メディカ出版
参考書	授業内で提示する。

評価方法・評価基準	①毎回の授業後のレポート課題(50%)、②最終レポート課題と小テスト(50%)の総合評価を成績とする。但し、①、②各項目の6割以上満たしていることを単位取得条件とする。 遠隔授業時も同様。
関連科目	「健康·疾病·障害の理解」「社会の理解」「看護の基礎」の各科目、公衆衛生看護学の各科目
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項の通り。
必要な事前・事後学修	日頃から、地域・在宅看護に関するメディア、ニュース記事、書籍に触れておいてください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ教員(普照、梅津、竹内)及び、看護師・社会福祉士の資格 をもつ教員(成田)が担当する。普照、梅津は訪問看護師の経験あり。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質問等があれば早めに普照(sfutio)まで連絡してください。

地域・在宅看護学演習

Skill Training Seminar of Community and Home Health Nursing

	Skill Training Seminar of Community and Home Health Nursing
担当教員名	普照 早苗 、梅津 千香子 、成田 光江、 竹内 智子
科目区分 専	
開講期 前期	単位数 2
10	sfutio (善昭) cumezu (梅津) narita (成田) totake (竹内) ・後ろに向fnu ac in
メールアド	をつけてください。
740 416 700 33	2年次の地域・在宅看護学で学んだ知識を基に、自宅やそれに準じた環境で生活を営む療
授業概要	要 養者および家族に対して看護の提供ができるよう、地域・在宅看護展開に必要となる知識 や、実践的な看護技術について演習する。
到達目標	1. 地域・在宅療養者および家族を対象とした看護援助方法を学び、理解する。 2. 地域・在宅という場における具体的な看護援助技術を学び、実践・習得する。
	(本科目は、DP1、DP2、DP3、DP4に対応している。)
	授業計画・内容
第 1 回	ガイダンス:地域・在宅看護学で学んだ知識の再確認・復習(普照)
第 2 回	地域包括ケアシステム・地域共生社会:多職種連携・協働(成田)
第3回	小児の在宅療養児とその家族への支援(竹内)
第 4 回	在宅における日常生活援助:季節によって変化する援助内容(普照)
第 5 回	在宅での清潔管理(洗髪・足浴・口腔ケア・自宅での入浴支援)①演習 (全担当教員)
第 6 回	在宅での清潔管理(洗髪・足浴・口腔ケア・自宅での入浴支援)②演習 (全担当教員)
第 7 回	在宅療養者とその家族の看護過程① 事例情報の整理とアセスメント(梅津)
第 8 回	在宅療養者とその家族の看護過程② グループワーク (梅津・普照)
第 9 回	在宅療養者とその家族の看護過程③ グループワーク (梅津・普照)
第10回	在宅看護過程の発表(全担当教員)
第11回	在宅における医療的ケア:医療保険による訪問看護の特徴と実践内容(普照)
第12回	在宅における看護倫理:虐待問題、医療事故問題(普照)

第13回 訪問看護の実際:家庭に出向く際に留意する振る舞いやマナー(梅津)

第14回 訪問看護事業所の運営・管理の実際(普照)

第15回 まとめ・小テスト:これからの地域・在宅看護に必要な視点(普照・梅津)

※遠隔授業となった場合:オンライン授業に切り替える。

キーワード	療養者と家族、地域共生社会、他職種連携、看護過程、看護倫理、家族観、在宅看護技術
教科書	①ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②「地域療養を支える技術」メディカ出版 ②「訪問看護おもてなし接遇マナーハンドブック」ラグーナ出版
参考書	「地域・在宅看護学」で使用したナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」(メディカ出版)も授業時持参すること。その他は随時資料を提示する。
評価方法・評価基準	毎回の授業後のレポート課題 (50%)、最終レポート課題・小テスト (50%) の総合評価を成績とする。但し、上記項目の各 6 割以上満たしていることを単位取得条件とする。遠隔授業時も同様。
関連科目	「看護の基礎」「ライフサイクルと看護」の各科目、公衆衛生看護学の各科目。社会保障・ 社会福祉概説、衛生関係法規、保健福祉行政論、地域・在宅看護学。
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項の通り。
必要な事前・事後学修	地域・在宅看護を扱った書籍・記事・映画等、授業外でも様々なメディアに触れてみる。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ教員(普照、梅津、竹内)及び、看護師・社会福祉士の資格 をもつ教員(成田)が担当する。普照、梅津は訪問看護師経験あり。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質問等があれば早めに普照(sfutio)へ連絡してください。

精神看護学概論

Introduction to Mental Health Nursing

担当教員名 川村 みどり								
科目区分 専門 必	必修 授業方	法 講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 前期	単位数 1		オフィス	スアワー	授業終調整	区で表すたは事情 できる。 <b< th=""><th>前のメール</th><th>連絡で日時</th></b<>	前のメール	連絡で日時
メールアドレス	kwmr2021	アドレス	の末尾に	Γ @fpu. ac.	jp J 🕏	とつけてくださ	い	
授業概要	精神看護学の意義・目的・機能および精神看護学が取り扱う精神健康、精神障害の意味を 理解する。これを基盤として、さまざまな場や状況における精神看護学の展開に必要な基 礎知識を理解する。							
到達目標	1. 精神看護学の意義・目的・機能が理解できる。 2. 精神看護における基本的な理論や技法が理解できる。 3. 精神看護学の発展経過を理解し、今後の精神看護学の発展を考察できる。 (本授業は、DP1、DP2に対応している。)							
授業計画・内容								

- 第1回 精神看護学で学ぶこと―心の健康と現代社会
- 第2回 精神看護の対象の理解と支援 1) 脳の仕組みと精神機能、心の機能と発達
- 第3回 精神看護の対象の理解と支援 2) 危機、精神の健康とマネジメント
- 第4回 精神看護の対象の理解と支援 3) 援助関係の構築、セルフケアへの援助
- 第5回 精神保健医療福祉の変遷
- 第6回 患者の権利擁護
- 第7回 精神医療保健福祉の法や施策
- 第8回 多職種連携と看護、家族への看護
- ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業を行う

キーワード	精神看護、精神障害、精神の健康、精神保健医療福祉制度、リカバリー
教科書	・萱間真美ら編集,精神看護学 I こころの健康と地域包括ケア(改訂第3版): 現代に生きる人々のこころの健康を支える,南江堂(2022)・萱間真美ら編集,精神看護学 II 地域・臨床で活かすケア(改訂第3版):対象者の力を引き出し支える,南江堂(2022)
参考書	マーク・レーガン著 ビレッジから学ぶリカバリーへの道 メアリー・エレン・コープランド著 元気回復行動プラン WRAP
評価方法・評価基準	評価方法:筆記試験およびレポート 期末試験(70%)とレポート(30%)を実施し、総合的に判定する。 精神看護学に関する主要な概念の理解の度合いを、期末試験とレポートにより評価する。 ※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。
関連科目	精神保健、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	

必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看 護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 精神保健
その他	

				精神看詞	隻学			
			M	ental Health	Nursing			
担当教員名	川村 みと	り、長谷	川小道	译				
科目区分 専門	必修	授業方法	講義	授業の	り実施方法	対面授業	対象学年	2年
開講期後期	単	i位数 2		オフィスアワ	ー で E PM6	寸:授業終了後ま ∃時調整、N409 :00~ N303	長谷	川:水曜日
メールアドレス	、 川村 ださ	: kwmr2021 เง	長名	}川: hasegawa	アドレ	vスの末尾に「@fp	ou. ac. jp]	をつけてく
授業概要	精神看護の展開の基礎知識となる、精神疾患や看護実践の方法、精神科における各種検査							
到達目標	1. 精神機能と精神症状が理解できる。 2. 代表的な精神疾患の病態、症状、治療方法などの概要が理解できる。							
				授業計画・ロ	内容			
第 1 回 精神	を病む人へ	への理解と看	護、精	神症状と状態像	象のとらえ:	方		
第 2 回 精神機能と精神症状、主な精神疾患・障害の特徴と看護								
第 3 回 統合領	第 3 回 統合失調症の特徴と看護 1)							
第 4 回 統合領	4回 統合失調症の特徴と看護 2)							
第 5 回 気分降	第 5 回 気分障害の特徴と看護 1)							
第 6 回 気分降	第 6 回 気分障害の特徴と看護 2)							
第 7 回 神経症								
第 8 回 精神(作用物質例	使用による**	青神・行	動の障害の特徴	数と看護(アルコール依存症	<u>≣</u>)	
 第 9 回 生理的	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群の特徴と看護(摂食障害)							

- 第10回 神経発達障害と知的障害の特徴と看護、パーソナリティ障害の特徴と看護
- 第11回 検査と看護
- 第12回 薬物療法と看護
- 第13回 心理・社会的療法と看護
- 第14回 災害時の精神保健医療活動、身体疾患を有する人を精神の健康、安全管理
- 第15回 社会復帰・社会参加への支援、生きる力に着目した援助、社会資源の活用と調整
- ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業を行う

キーワード	精神看護、精神科治療、精神機能、精神症状、精神疾患、精神障害、精神保健医療福祉
教科書	新規の購入は不要 (精神看護学概論で使用した教科書を用いる)。
参考書	
評価方法・評価基準	評価方法:筆記試験および確認テスト・レポート等期末試験(80%)、課題レポート・グループワーク資料・確認テスト(20%)を実施し、総合的に判定する。 精神看護の展開の基礎知識となる主要な概念の理解の度合いを、期末試験やレポート等により評価する。

	※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。
関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	精神保健、精神看護学概論を履修していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看 護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	講義内容ごとに確認テストを行うので、自己の学習習得状況を把握すること。

精神看護学演習

Seminar of Mental Health Nursing

担当教員名 長名	今川 小眞子 、川村 みど	· IJ		
科目区分 専門 必	必修 授業方法 演習	授業の実施方法	対面授業	対象学年 3年
開講期 前期	単位数 1	オフィスアワー((谷川(N303): オ N409): 授業終了後 で日時調整	k PM6:00~ 、川村 または事前のメール連
メールアドレス	長谷川: hasegawa@fpu.a	ac.jp 川村:kwmr202	1@fpu. ac. jp	
授業概要	対象者のセルフケアおよびストレングスの回復に向けた看護について、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学修する。			
到達目標	(2) 精神医療における	して自己活用と治療的関 治療的環境での看護実践 のセルフケアの再構築に こ対応している。)	が理解できる。	
授業計画・内容				

第 1回 精神看護における看護技術

(ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、患者-看護師関係、アセスメント、チームのダイナミクス)

- 第 2回 精神医療における治療的環境と看護1(入院治療の意味、治療的環境)
- 第 3回 精神医療における治療的環境と看護2(安全を守る、緊急事態に対処する)
- 第 4回 地域における精神看護(地域生活を支える様々な社会資源)
- 第 5 回 精神看護における看護過程の展開
- 第 6 回 看護過程演習 1 (統合失調症患者の事例)
- 第 7回 看護過程演習 2 (統合失調症患者の事例)
- 第 8 回 看護過程演習 3 (統合失調症患者の事例)
- 第 9回 看護過程演習 4 (統合失調症患者の事例)
- 第10回 看護過程演習5 (気分障害患者の事例)
- 第11回 看護過程演習6 (気分障害患者の事例)
- 第12回 看護過程演習7 (気分障害患者の事例)
- 第13回 看護過程演習8 (実施・評価)
- 第14回 精神看護における精神障害者の地域生活移行および地域生活継続支援の実際(外部講師)
- 第15回 精神看護専門看護師の活動の実際(外部講師)
- ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業を行う

キーワード	対人関係技術、治療的関係性、精神症状アセスメント、看護過程、ストレングス、リカバリー、リエゾン精神看護、地域精神保健
教科書	なし(精神看護学概論、精神看護学で使用した教科書を用いる)。
参考書	野中猛著, 図説精神障害リハビリテーション, 中央法規, 2006. 野中猛著, 図説リカバリー, 中央法規, 2011. 田中美恵子編, 精神看護学―学生-患者のストーリーで綴る実習展開(第3版), 医歯薬出版, 2024.
評価方法・評価基準	授業への取り組み態度 (発言・質問等)、看護過程演習への意欲と態度、演習課題 (40%)、 定期試験 (60%) を合計し評価する。

	※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。
関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	精神保健、精神看護学概論、精神看護学を履修していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看 護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	講義部分は内容ごとに確認テストを行うので、自己の学習習得状況を把握すること。

公衆衛生看護学概論

		Int	roductio	n to	Public Heal	th Nu	ırsing		
担当教員名 小島	島 亜未	ŧ							
科目区分 専門 必	必修	授業方法	講義・演	图图	授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 前期	単	位数 2	7.	ナフィ	スアワー	講義網	終了後 小島(N3	316)	
メールアドレス	akoj	ima@fpu.ac.	jp						
授業概要	公衆衛生看護学の概念を概説し、地域の健康課題に対応する公衆衛生看護活動の理念、個 授業概要 人・家族・グループ、組織・集団・地域を対象とする公衆衛生看護活動の場、展開方法の 特徴を踏まえて公衆衛生看護活動の役割と専門性について教授する。								
特徴を踏まえて公衆衛生有護活動の役割と専門性について教授する。									
授業計画・内容									
第1回 公衆衛生看護学の概念と理念									

- 第2回 公衆衛生の理念と公衆衛生看護の基盤となる概念
- 第3回 公衆衛生看護の歴史と保健師活動の変遷
- 第4回 社会環境の変化と健康課題
- 第5回 健康の社会的決定要因と健康課題解決の資源
- 第6回 公衆衛生看護活動の対象(個人・家族・グループ)の捉え方
- 第7回 公衆衛生看護活動の対象(組織・集団・地域)の捉え方
- 第8回 公衆衛生看護活動の場(保健所における公衆衛生看護活動)
- 第9回 公衆衛生看護活動の場(市町村における公衆衛生看護活動)
- 第10回 公衆衛生看護活動の展開(健康と生活、活動の基盤)
- 第11回 公衆衛生看護活動の展開(公衆衛生看護活動の方法)
- 第 12 回 公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 (PDCA サイクル)
- 第13回 地域診断演習
- 第14回 計画策定と施策化
- 第15回 公衆衛生看護活動の課題と保健師の役割・専門性
- ※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	公衆衛生看護、公衆衛生、ヘルスプロモーション、地域の健康課題、保健師活動
教科書	標準保健師講座第1巻 公衆衛生看護学概論(第6版)[医学書院]
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]
評価方法・評価基準	評価方法は、期末筆記試験(85%)、課題レポート(15%)を実施し、総合的に評価する。 評価基準は、公衆衛生看護学の概念と公衆衛生看護活動の理念、社会的責務、人々の健康 に影響する社会環境や生活環境と現代社会が抱える広範囲かつ複雑な健康課題、公衆衛生 看護活動の対象の捉え方と活動の場・展開方法の特徴に対する理解の度合いを筆記試験に より評価する。公衆衛生看護活動の課題と保健師の役割・専門性を主体的に考える能力を レポートにより評価する。 遠隔の場合の評価方法:GCで筆記試験、レポートを提出してもらい評価する。

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、成人・老年看護学概論、精神看護学概論、保健医療福祉行政論
履修要件	
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 公衆衛生看護活動を経験した教員が公衆衛生看護学の概念・理念、対象・方法に関する基 本的な知識及び考え方について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	

保健指導論

Public Health Nursing Skills: Health counseling & education

担当教員名 小島 亜未							
科目区分 専門 』	必修	授業方法	講義・演習	授業の実施	方法 対面授業	対象学	年 2年
開講期 後期	単	位数 1	オフィ	スアワー	講義終了後 M	₩316 研究室	
メールアドレス	akoj	ima@fpu.ac.	jp				
授業概要	公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象、保健指導の歴史的変遷を概説し、地域で生活する個人・家族を支援するために必要な知識と理論、技術・方法を紹介する。健康相談、健康診査の場における個別保健指導の展開方法と基本的な姿勢、支援の実際について Role playing を通して理解してもらう。						
1. 公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象を理解できる。 2. 個人・家族の保健指導を実施するために必要な理論と技術・方法を理解できる。 3. 健康相談と健康診査の目的・対象・方法、保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際を理解できる。 4. 保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際について理解を深めることができる。 (本授業は、DP2, 3 に対応している。)							
授業計画・内容							

第1回	公衆衛生看護における保健指導の目的と対象
<i>7</i> 77 C21	ム水用土自成にのいる水は旧寺ツロ川に入る

第2回 保健指導で活用できる理論と技術、方法

第3回 保健行動・健康行動を生み出す「力」に関する理論

第4回 個別保健指導の主な技術、健康相談の目的・対象・方法・契機

第5回 健康相談の展開方法と基本姿勢、支援の実際

第6回 健康診査の目的と対象・方法、健康診査における保健指導

第7回 個人・家族への保健指導の実際: Role playing

第8回 個人・家族への保健指導の実際: Role playing

※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	公衆衛生看護活動の技術、保健指導、保健行動理論、行動変容
教科書	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 (第5版) [医学書院]
参考書	国民衛生の動向 2025/2026 [厚生統計協会]
評価方法・評価基準	評価方法は、筆記試験を実施して評価する。 評価基準は公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象、個人・家族の保健指導を実施するために必要な理論と技術・方法、健康相談と健康診査の目的・対象・方法、保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際に対する理解の度合いを記述問題・選択肢問題に対する回答内容により評価し、60点以上を合格とする。 遠隔の場合の評価方法:GCで筆記試験、レポートを提出してもらい評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論 I 、基礎看護学科目全般、成人・老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学

履修要件	公衆衛生看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が保健指導論の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看 護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術 について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法
その他	

公衆衛生看護活動論 I

Public Health Nursing I

担当教員名 小島 亜未 坂部 敬子								
科目区分 専門 4	必修 授	業方法 講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 後期	単位数	数 1	オフィ	スアワー	授業	終了後 小島(M	N316) 坂音	ß(N109)
メールアドレス	小島:ak	kojima@fpu.a	c.jp 坂	部:ksakabe@	fpu. a	ю. јр		
授業概要	基盤とな 歴史と概 ループ・	よる理論を概説 既念、活用でき	心、健康 る理論・ 動を支援	教育の展開過 方法論、グル-	程と第 一プの	≢康教育の定義と €際について教授 ○発展過程を概説 ∸ムの構築とネッ	受する。地域だ とし、住民と	組織活動の 協働してグ
到達目標	2. 健康 3. 地域 きる。 4. 住民 トワーク	教育の企画・ 組織活動の歴 と協働してグ	立案、実施 史と概念、 ループ・地	E、評価の展開 活用できるE 地域組織の活動	開過程 理論・ 動を支	となる理論を理 を理解できる。 方法論、グルー 援し、地域ケア 役割を理解できる	プの発展過	構築とネッ
将業計画 ■ 内変								

授業計画・内容

- 第1回 公衆衛生看護活動における健康教育の位置づけと健康教育の方法 (小島)
- 第2回 健康教育の技術と教育媒体 (坂部)
- 第3回 健康教育の展開過程 (坂部)
- 第4回 健康教育の実際 (坂部)
- 第5回 健康教育の基盤となる理論: PRECEDE-PROCEED モデルによる活動の展開 (小島)
- 第6回 地域組織活動の歴史と概念、地域組織活動に活用できる理論・方法論 (小島)
- 第7回 住民の自立支援と地域組織活動の実際グループの発展過程とグループ支援における保健師の役割 (小島)
- 第8回 地域ケアシステムの構築とネットワーク化 (小島)
- ※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	公衆衛生看護活動、健康教育、地域組織活動、地域ケアシステム、ネットワーク化
教科書	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術[医学書院]
参考書	国民衛生の動向 2025/2026 [厚生統計協会]
評価方法・評価基準	期末試験で評価する。 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、看護の基礎に関する科目、成人・老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学
履修要件	公衆衛生看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 公衆衛生看護活動を経験した教員が公衆衛生看護活動の目的・対象・方法に関する基本的 な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・看護過 程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法
その他	

公衆衛生看護活動論Ⅱ

Public Health Nursing II

担当教員名 小島 亜未 、斎藤 博子(非)						
科目区分 専門 遊	選択	授業方法	講義	授業の実施方	法 対面授業	対象学年 3年
開講期 前期	単	位数 2	オフィ	スアワー ‡	受業終了後 小島(N3	316) 斎藤(N305)
メールアドレス	小島	:akojima@f	pu. ac. jp 斎藤	装: saitouhi@f	ou. ac. jp	
授業概要	題 - 誌	果題を解決す		護活動を展開す	るために必要な知識	ジ各期における健康問 哉・方法と市町村、保健
1. 地域で生活する人々のライフステージ各期における健康課題と健康課題を解決するために展開されている公衆衛生看護活動の方法と実際について理解できる。 2. 市町村における公衆衛生看護活動の展開方法と実際について理解できる。 3. 保健所における公衆衛生看護活動の展開方法と実際について理解できる。 (本授業は、DP3, 4に対応している。)						
授業計画・内容						

- 第 1回 母子保健の理念、母子保健医療福祉施策の動向と課題(小島)
- 第2回 母子および親子の健康課題と支援の実際(小島)
- 第 3 回 乳幼児期の成長発達と健康課題への支援の実際(小島)
- 第 4回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援の実際(小島)
- 第5回 成人保健の理念、成人保健施策の動向と課題(小島)
- 第6回 成人期の生活の特徴・健康課題と公衆衛生看護活動の実際(小島)
- 第 7回 高齢者保健の理念、高齢者保健祉施策の動向と課題(小島)
- 第8回 高齢期の生活の特徴・健康課題と公衆衛生看護活動の実際(小島)
- 第9回 高齢者の介護予防活動、地域包括ケアの実際と課題(小島)
- 第10回 保健所における公衆衛生看護活動の展開(斎藤)
- 第11回 障害者保健の理念、障害者施策の動向と公衆衛生看護活動の実際(斎藤)
- 第12回 精神保健の理念、精神保健施策の動向と課題(斎藤)
- 第13回 精神障害者の生活と保健指導、公衆衛生看護活動の実際(斎藤)
- 第14回 難病保健の理念、難病保健施策の動向と公衆衛生看護活動の実際(斎藤)
- 第 15 回 感染症保健の動向と公衆衛生看護活動の実際(斎藤)
- ※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	公衆衛生看護活動、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病保健、障害者保健、
イー・ノード	感染症保健
	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論(第6版) [医学書院]
教科書	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術(第5版)[医学書院]
	標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動(第5版)[医学書院]
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]、関連科目で使用した教科書・参考書
	評価方法は、期末筆記試験で評価する。
	評価基準は、母子保健の理念・保健医療福祉施策の動向と課題、母子および親子、乳幼児
評価方法・評価基準	期の成長発達、支援のニーズが高い親子への支援の実際に対する理解の度合い (25 点)、成
	人保健の理念・施策の動向と課題、成人期の健康課題、高齢者保健の理念・施策の動向と
	課題、高齢期の健康課題、介護予防活動、地域包括ケアと公衆衛生看護活動の実際に対す
	る理解の度合い(35点)、障害者保健・精神保健・難病保健の理念・施策の動向と課題、感

	染症保健の動向と課題に対する保健所における公衆衛生看護活動の実
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動 I 、保健医療福祉行政論 公衆衛生学、疫学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I を履修していること
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護活動の目的・対象・方法に関する基本的な知識 及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開 の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

THAT IN HOLD IN INCIDENT

政策形成過程演習							
	Skill Training Seminar of Policy formulation process						
担当教員名	小島 亜未、坂部 敬子、井狩	· 知幸 					
科目区分 専門	選択 授業方法 演習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3年			
開講期 前期	単位数 1	オフィスアワー	授業終了後 小島(Ni 狩(N)	316) 坂部(N109) 井			
メールアドレス				‡狩:			
授業概要	保健医療福祉行政のしく 定・実施・評価のサイク 政策を立案する政策形成	ルについて概説し、	地域生活や社会生活の	問題や課題を解決する			
到達目標	1. 国の政策動向と自治体 2. 地域の健康課題を基に とができる。 3. 施策化・事業化におけ 4. 地域の健康課題から、 業計画を立案することが	した政策過程と評価 る保健師の役割につ 健康課題解決の施策	が、施策化・事業化の意 いて説明することがで の検討、事業化の必要	義について説明するこできる。 性を検討し、施策・事			
		授業計画・内容					
第1回・第2回	保健医療福祉における施領	策化と事業化 【講	義】				
	1)公共政策の理念と政策	体系(政策-施策-事	業)				
	2) 国の政策動向と自治体	の保健福祉政策の関	連				
	3)政策過程と評価						
4) 施策化・事業化の実際と保健師の役割							
	地域の健康課題を解決するた * 下記事例について、個人お ・事例1 : 子育て支援(虐	よびグループワーク		の作成) 【演習】			
	•事例2 : 生活習慣病予防	ī					

事例3:介護予防

事例4:災害時の健康危機予防

第6・7回 グループ発表

第8回 まとめ: 政策形成過程に必要なスキルと保健師の役割

キーワード	公衆衛生看護活動、健康課題、政策形成
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	課題レポート(80%)、授業態度及びグループワークの発表内容と参加態度(20%)で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業(Z00M)態度で評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論 I、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論、 公衆衛生学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I を履修していること

必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及 び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・政策形成過程展 開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術 I (地域診断)

Public Health Nursing Skills I

担当教員名 小島 亜未 、坂部 敬子 、井狩 知幸						
科目区分 専門 選	選択 授業方法 演習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3年		
開講期 後期集中	単位数 1	オフィスアワー	授業終了後 小島(N 狩(N)	316) 坂部(N109) 井		
メールアドレス	小島:akojima@fpu.ac.	jp 坂部:ksakabe@t	fpu. ac. jp 井狩:			
授業概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断に必要な情報を収集し、地域の特性と健康指標を アセスメントした結果に基づいて健康課題を明らかにする能力を、実習する市町の地域診 断を通して教授する。					
実習する市町の地域診断に必要な情報を収集し、マップの作成および作表・作図とデータのアセスメントをおこない、地域特性を把握する。成人期・高齢期に関するデータをアセスメントし、健康課題を考えることができる。本授業は、DP3, DP4, DP5 に対応している。						
授業計画・内容						

第1・2回 地域診断演習オリエンテーション

地域特性の把握(マップ、市町の概要の作成)

第3~5回 地域特性・健康課題の把握とアセスメントの方法(デモンストレーション)

第6~15回 地域特性・健康課題の把握とアセスメント

※実施する項目

- ・人口・世帯数の推移
- ・年齢3区分別人口割合の推移
- ・出生数・率、死亡数・率の推移
- ・死因別死亡率の推移(全国・福井県・市町)
- 特定健康診査の実施状況
- ・がん検診の実施状況
- ・要介護 (要支援) 認定者の状況

キーワード	公衆衛生看護活動、地域診断、地域特性、健康課題
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2025/2026 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	課題レポート(90%)、授業態度及びグループワークの発表内容と参加態度(10%)で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業(Z00M)態度で評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、政策形成過程演習、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I・II、公衆衛生看護管理論、疫学、 政策形成過程演習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及 び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・看護過程展開の 技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術 Ⅱ(個人・家族)

Public Health Nursing Skills II

担当教員名 坂部 敬子 、小島 亜未 、井狩 知幸							
科目区分 専門 選択 授業方法 演習 授業の実施方法 対面授業 対象学年 3年							
開講期 後期集中	単位数 1	オフィスアワー	授業終了後 坂部(N 狩(N)	N109) 小島(N316) 井			
メールアドレス	坂部: ksakabe@fpu. ac.	jp 小島:akojima@	fpu.ac.jp 井狩:				
授業概要	地域で生活する個人・家 する。個人・家族への支 度は演習を通して教授。	[援方法としての家庭					
到達目標	問時に確認すること、言・事例の訪問場面から行 2. 幼児健康診査・幼児健診におけるアセる。	が問前に入手できるが が問時に実施する支持 けに情報をアセスメデ スメント、支援に必 いら得た情報をアセス	情報から対象をアセスを爰を考えることができることができるとができるという。 シトし、今後の支援を受ける。 お要な知識・技術と方法のよう。	メントし、訪問目的、訪 る。			
		授業計画 • 内容					

第1回 家庭訪問の目的と対象、方法(坂部)

第2・3回 家庭訪問による支援の実際(坂部)

課題①:事例Aの家庭訪問前に得られた情報をアセスメントし、家庭訪問の目的と必要な支援を考える(坂部、小島、井狩)

第4・5回 課題②:家庭訪問場面の情報をアセスメントし、必要な支援を考える(坂部、小島、井狩)

課題③:家庭訪問場面での母親への対応を考える(坂部、小島、井狩)

第6回 幼児健康診査時の問診と発育・発達のアセスメント、保健指導の実際(坂部)

第7.8回 課題④:事例Bの幼児健康診査で得られた情報をセスメントし、今後の支援計画を考える(坂部、小島、井狩)

課題⑤:保健指導場面での母親への対応を考える(坂部、小島、井狩)

※課題①~⑤は、個人ワークとグループワークを組み合わせて行う。

キーワード	公衆衛生看護活動、個人・家族支援、家庭訪問、幼児健康診査、保健指導
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2025/2026 [厚生統計協会]

参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	課題レポート(90%)、授業態度及びグループワーク参加態度(10%)で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業(Z00M)態度で評価する。
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I·Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学、 政策形成過程演習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義前・講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及 び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術・認識に働きかける技術・看護過程展開の 技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術Ⅲ(集団・組織)

Public Health Nursing Skills III

担当教員名 井狩 知幸、坂部 敬子、小島 亜未										
科目区分 専門 選択 授業方法 演習 授業の実施方法 対面授業 対象学年 3年										
開講期 後期集中	単位	立数 1		オフィ	スアワー		終了後 (N316)	井狩(N	N)	坂部(N109)
メールアドレス	井狩	坂部 ksaka	abe@fpu	. ас. јр	小島 akojin	na@fpu	. ас. јр			
地域で生活するグループ・集団を支援するために必要な知識・技術と方法、態度について 授業概要 教授する。集団への支援方法としての健康教育の展開過程は演習を通して教授する。										
到達目標	必要な 2. アセ とがで	支援を考え スメント! きる。	えること こ基づき	ができる、健康	±をアセスメ∶ る。 教育の目的・ 対応している	目標を				
授業計画・内容										

第1~2回 健康教育演習の進め方(井狩)

課題①:健康教育の場の理解(井狩、坂部、小島)

課題②:健康教育の対象のアセスメント、健康課題・必要な支援の把握(井狩、坂部、小島)

課題③:健康課題の優先順位の明確化(井狩、坂部、小島)

第3~6回 グループ課題:健康課題の発表と優先順位1位の健康課題の決定(井狩、坂部、小島)

第7・8回 課題(4)5):健康教育の目的・目標・教育内容・教育方法の設定と教材の作成(井狩、坂部、小島)

※課題①~⑤:個人ワーク

グループ課題:グループワーク

キーワード	公衆衛生看護活動、集団・組織支援、健康教育の展開過程
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2025/2026 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	課題レポート(90%)、グループワークの発表内容と参加態度及び授業態度(10%)で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、グループワーク(Z00M)で評価する。
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I·Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学、 政策形成過程演習を修得していること

必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義前・講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及 び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・看護過程展開の 技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護管理論

Public Health Nursing Administration

担当教員名 小島 亜未									
科目区分 専門 计	選択	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	3年
開講期 前期	単	位数 1		オフィ	スアワー	授業	終了後 小島(N	316)	
メールアドレス	akoji	ima@fpu.ac.	jp						
授業概要	能と	しての情報	 雪理、地	域ケアの		組織逞	健師に求められ 営と業務管理、 る。		
到達目標	2. 公 予算 ⁴ 3. 災 ⁵	衆衛生看護管 管理、人事管	管理機能 管理と人 危機管理	能として(、材育成(型におけ・	こついて理解 る保健師の役	地域な なできる	ァアの質の保証、 る。	組織運営と	∶業務管理、
授業計画・内容									

- 第1回 公衆衛生看護管理の目的と機能
- 第2回 公衆衛生看護における情報管理
- 第3回 地域ケアの質の保証
- 第4回 組織運営と管理
- 第5回 事業・業務管理(計画・実践・評価)
- 第6回 人事管理と人材育成
- 第7回 予算の管理
- 第8回 災害時の健康危機管理
- ※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	公衆衛生看護管理機能、健康危機管理、公衆衛生看護活動
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論(第 6 版) [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動(第 5 版)[医学書院]
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]
評価方法・評価基準	評価方法は、筆記試験を実施して評価する。 評価基準は、公衆衛生看護管理の目的と構成要素、公衆衛生看護管理機能としての情報管理、地域ケアの質の保証、組織運営と業務管理、予算管理、人事管理と人材育成、災害時の健康危機管理における保健師の役割に対する理解の度合いを記述問題・選択肢問題に対する回答内容により評価し、60点以上を合格とする。 遠隔の場合の評価方法:GCで筆記試験を実施する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I 、公衆衛生看護活動論 I 、政策 形成過程演習、保健医療福祉行政論、公衆衛生学
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I を履修していること

必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護管理の目的・対象・方法に関する基本的な知識 及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開 の技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

産業保健論

Occupational Health

担当教員名 小島	島 亜未				
科目区分 専門 4	必修 授業方法	講義	授業の実施方法	去 対面授業	対象学年 3年
開講期 前期	単位数 1	オフィ	スアワー 講	義終了後 小島(I	N316)
メールアドレス	akojima@fpu.ac.	jp			
授業概要	方について教授 スなど) する。	(労働衛生管理、 ・目的と産業看記	労働環境におり	ナる健康障害の予防 シ、産業保健の制度。	動原則から実際の進め 5、職場のメンタルヘル とシステムを踏まえて、
到達目標	の支援ができる。 2. 職場巡視、環境 作業管理を行う。 3. 産業看護の理? 4. 産業看護職の駅	。 意測定データな。 上での問題点を 念・目的、産業看	どから産業看護 理解し職場に提 請護職の役割・機 活動の実際につ	の3管理である健康 言できる。 能について理解する	目標を立て、改善活動へ 東管理・作業環境管理・ る。
超業計画 • 内突					

授業計画・内容

- 第1回 産業保健の歴史と現状
- 第2回 労働基準法と労働安全衛生法
- 第3回 労働衛生管理の方法と体制
- 第4回 健康管理、過重労働・メンタルヘルス対策
- 第5回 産業看護の理念・目的と産業看護職の役割・機能
- 第6回 産業看護の歴史と現状
- 第7回 産業保健の制度とシステム
- 第8回 産業看護職の職務と産業看護活動の実際
- ※遠隔授業となった場合の対応: ZOOMによるオンライン授業

キーワード	産業保健、労働安全衛生法、労働衛生管理、健康管理、産業看護活動
教科書	・標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] ・標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院]
参考書	・国民衛生の動向」2024/2025 厚生労働統計協会 ・職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営
評価方法・評価基準	期末試験 (筆記) 80% 授業態度等 20% *対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、成人・老年看護学概論、精神看護学、保健指導論
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論 I を履修していること

必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が産業保健・看護活動の目的・対象・方法に関する基本的な知 識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展 開の技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

学校保健 I

School Health I

担当教員名 松川 里美								
科目区分専門・	必修	授業方法	講義	授業の実施ス	方法	対面授業	対象学年	2年
開講期 後期	単	位数 1	オフィ	スアワー	授業(の後に質問等を	受け付けます	す。(N411)
メールアドレス	pt-ma	tsusato 7	アドレスの末尾	с Г @fpu. ac	. jp _	をつけてくださ	さい。	
授業概要						混点から、人間の 保健と地域保健		
到達目標	子どもとその家族を取り巻く環境と生活を理解し、子どもの成長と発達の健康維持増進のための手立てを理解する。また児童生徒の生活の基盤となる学校における健康問題の課題解決とその方法を理解する。 子どもたちの健康問題について支える保健指導の内容が理解でき、学校と家庭・地域の保健福祉機関との連携についても述べることができる。(本授業は DP2、DP3 に対応している。)							

授業計画 · 内容

- 第1回 学校保健のしくみを理解し、関連する法律や制度について学ぶ。
- 第2回 児童生徒の健康増進のための基盤となる、学校保健活動の現状を知り理解を深める。
- 第3回 健康診断の意義や法的根拠を知り、児童生徒の健康課題について明確にする。
- 第4回 学校安全・危機管理について学び、危機管理体制・救急処置について考える。
- 第5回 集団感染と予防接種について学び、健康観察の意義について考える。
- 第6回 児童生徒の特性を踏まえての健康相談活動の実施方法と留意点について理解する。
- 第7回 学校での保健教育における保健学習と保健指導の進め方について理解する。
- 第8回 現代的な健康課題解決にむけた健康教育および家庭・地域保健との連携について考える。
- ※遠隔授業となった場合は、zoomによるオンライン授業で対応する

キーワード	学校保健 健康管理 健康教育 健康相談活動
教科書	松浦賢長ら編集、保健の実践科学シリーズ 学校看護学、講談社 (2017)
参考書	河田史宝ら著、新版・養護教諭執務のてびき第 10 版、東山書房 (2018) 教員養成系大学保健協議会著、学校保健ハンドブック<第7次改訂>、ぎょうせい (2019)
評価方法・評価基準	授業参加態度(10%)と小レポート(20%)、期末レポート(50%)、各単元テスト(20%)で評価する。 授業参加態度は講義にきちんと参加できたか、参加は主体的であったかどうかを評価する。 小レポート、期末レポートでは示された課題について、自分の考えを述べて理論的に結論を導き出しているかを評価する。
関連科目	小児看護学
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。

実務経験のある教員	実務経験あり
による授業内容	養護教諭を経験した教員が、学校保健全般についての対応と指導について講義・演習する。
施行規則に定める	養護に関する科目
科目区分又は事項等	学校保健
その他	

学校保健Ⅱ

School Health Nursing II

担当教員名 松川 里美					
科目区分 専門 造	選択 授業方法 講義 授業の実施方法 対面授業 対象学年 3年				
開講期 前期	単位数 2	オフィ	スアワー 授	業の後に質問等を	受け付けます。(N411)
メールアドレス	pt-matsusato	アドレスの末尾	с Г @fpu. ac. jp	」をつけてくだる	さい。
授業概要	実際について!について、授業	は、保健教育の進&	か方や、健康相談 会を通して理解を	活動(ヘルスカウ)	ついて言及する。職務の ンセリング)のあり方等 ・る養護教諭の職務の特
① 心身の発育・発達期として重要な時期にある小・中学生から高校生までの心身の健康状態や健康課題について理解する。 ② 学校における保健管理と保健教育について学び、学校組織の中での保健管理のあり方と保健教育の進め方について理解する。 ③ 学校保健を推進していく養護教諭の役割や職務について理解し、養護教諭を取り巻く現状や課題をつかむ。(本授業はDP3に対応している。)					
授業計画・内容					

第 1回 学校教育と学校保健:教育の目的や教育課程と学習指導要領について知り、学校経営と学校保健の関連を学ぶ。

第 2回 養護教諭の職務:養護教諭の歴史を紐解き、社会の変遷に伴う職務へのニーズや法改正、教育改革の動向にみられる養護教諭の

職務について理解を深める。

- 第 3回 児童生徒の健康課題:児童生徒の発育発達を理解し、発達段階に応じた健康課題について理解する。
- 第 4回 健康診断:健康診断の計画の立て方や実施の流れについて理解を深める。
- 第 5回 健康観察と保健管理:健康観察の目的と方法、法的根拠について学ぶ。
- 第 6回 学校環境衛生: 学校環境衛生検査の項目と基準を理解し、検査の実際と管理・改善について学ぶ。
- 第 7回 学校安全:学校における学校安全活動の果たす意義について、理解を深める。
- 第 8回 救急処置: 学校で多いけがや事故について理解し、正しく素早く応急手当ができるようになる。
- 第 9回 健康相談活動:ヘルスカウンセリングのすすめ方と養護教諭の行う健康相談活動の特性を理解する。
- 第10回 健康相談活動の実際:具体的な事例から健康相談活動の実際を学ぶ。
- 第11回 健康教育の進め方:現代的健康課題を認識し、学校における健康教育のあり方を学ぶ。
- 第 12 回 健康教育の実際:保健学習と保健指導についての授業構想と指導案の作成や効果的な教材の活用について学ぶ。
- 第 13 回 保健室経営:学校保健管理センター、心の居場所、保健健康教育推進の場としての保健室経営について学ぶ。
- 第 14 回 学校保健計画と保健組織活動:学校保健計画立案と学校保健委員会、家庭・地域との連携を学ぶ。
- 第15回 養護教諭に必要な力:養護教諭の職務・役割を実践するうえで基盤となる資質能力について理解する。

遠隔授業となった場合は、zoomのよるオンライン授業で対応する

キーワード 学校保健 養護教諭 健康管理 健康教育 健康相談活動

教科書	①河田史宝ら著、新版・養護教諭執務のてびき第 10 版、東山書房 (2018) ②大谷尚子ら編集、改訂 養護実習ハンドブック(養護教諭必携シリーズ)、東山書房 (2015)
参考書	松浦賢長ら編集、保健の実践科学シリーズ 学校看護学、講談社(2017) 日本学校保健会著、教職員のための子供の健康相談および保健指導の手引き 令和3年度改訂、日本学校保健会(2022) 日本学校保健会著、学校保健の動向 令和4年度版、日本学校保健会(2022)
評価方法・評価基準	授業参加態度(1割)と単元レポート(2割)、期末レポート(5割)、各単元テスト(2割)から評価する。授業参加姿勢とは講義への参加の主体性や適切な受講態度を評価する。期末レポートは、示された課題について、講義内容だけに留まらず教科書以外の文献からも情報を求めることができたか、自分の考えを述べて理論的に結論を導き出しているか。レポート内容は学校における保健活動の特徴をつかみ、養護教諭の役割や職務を理解し、今日的な健康課題解決に迫ることができたかについて評価する
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 養護教諭を経験した教員が、学校保健全般についての対応と指導について講義・演習する。 学校組織についても講義・演習を通して深める。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	

母性看護学実習

Nursing Practice: Maternal Health Nursing

担当教員名 岩名	担当教員名 岩谷 久美子 、平井 宏美 、牧野 葵				
科目区分 専門 必	必修 授業方法	実習	授業の実施方法	対面授業	対象学年 3年
開講期 後期	単位数 2	オフィ	'スアワー ' ' '	岩谷(N408) (04)	平井(N109) 牧野
メールアドレス	岩谷 : kiwatani@	ffpu. ac. jp ,平	井:hirohira@fpu	u.ac.jp, 牧野:	mknaoi@fpu.ac.jp
授業概要	握し、知識を統領	合した看護アセ を身につける。	スメント・看護計画 また、実習体験を通	画立案と看護実践	経過や対象の背景を把 ・評価を行い、基本的 ける母性の特性と母性
到達目標	の観点から看護(2) 妊産褥婦とそう、看護計画を 3) 妊産褥婦とそ 4) 生命の尊厳 5) 母性看護の写主体性と協調性	の必要性を理解 その子どもの健 立案できる。 その子どもに必 や生命倫理、人 ミ践を通して看	できる。 康的な生活を維持の要な看護を適した。 権の尊重について 護者の役割を理解し	足進し、親役割取 方法で提供し、診 認識を深めること	
授業計画・内容					

授業計画・内容

【実習内容】

- 1. 受け持ち看護実習
 - 1) 妊産褥婦とその子どもを全体としてとらえて、ウエルネスの観点から看護の必要性を考える。
 - 2) 妊産褥婦とその子どもの健康的な生活や適応・親役割取得を支援するための看護計画を立案する。
 - 3) 妊産褥婦とその子どもに必要な看護を対象に適した方法で実践し、評価する。
 - 4) 看護実習体験を通して、母性看護のあり方やその役割を理解する。
- 2. 機能別実習
 - 1) 産婦の看護の必要性を理解し、実践、評価する。
 - 2) 産科外来看護の役割を理解し、実践、評価する。

【実習方法】

1. 場所:福井県済生会病院南館 周産期センターS3 病棟、産科外来

福井県立病院 6階北病棟、産科外来

福井愛育病院 母性病棟 産科外来

- 2. 期間:実習前オリエンテーションおよびまとめを含む臨床実習2週間
- 3. 実習形態:受け持ち看護実習と機能別実習を組み合わせる。
 - 1) 受け持ち看護実習:妊婦又は褥婦1名を受け持ち、看護過程を展開する。
 - 2)機能別実習:産婦の看護および妊婦健診・助産外来等の産科外来看護を見学または実践する。 各種集団的に行われる保健指導(母親教室・母乳準備教室等)を見学する。
- ※対面授業ができない場合は Zoom による遠隔授業ならび実習の一部を学内演習に変更する場合がある。

キーワード 看護過程の展開、母親役割取得、家族関係の再構築、ウエルネス

教科 書	1) 有森直子:母性看護学 I 概論、医歯薬出版(最新版) 2) 有森直子:母性看護学 II 周産期各論、医歯薬出版(最新版) 3) 村本淳子・﨑山貴代:ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出版(最新版)
参考書	1) 有森直子:母性看護学 I 概論、医歯薬出版(最新版) 2) 有森直子:母性看護学 II 周産期各論、医歯薬出版(最新版) 3) 村本淳子・崎山貴代:ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出版(最新版) 4) 平澤 美惠子 , 村上 睦子:新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス 2020 5) 系統看護学講座 母性看護学概論・母性看護学1・2、医学書院
評価方法・評価基準	評価方法は、母性看護実践の内容と実習記録、個人面接等から目標の達成状況、基礎的知識・技術・態度等を総合的に評価する。 評価基準は、実習評価表(実習要項参照)に基づき評価する。
関連科目	母性看護学概論、母性看護学、母性看護学演習
履修要件	母性看護学概論、母性看護学、母性看護学演習を履修していなければならない。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有する教員の指導の下、母性看護学実習に必要な看護実践能力を 身につけるための実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	実習のための健康観察ならびに行動制限等のルールを必ず遵守してください。

小児看護学実習

Nursing Practice : Child Health Nursing

担当教員名 金料	白 仁美 、上谷 祐子			
科目区分 専門 必	必修 授業方法 実習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	実習期間中随時受付 (N110)	金粕(N308),上谷
メールアドレス	金粕; kanekasu@fpu.	ac.jp,上谷; kamitan	i@fpu. ac. jp	
授業概要	子どもの成長発達や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得する			
到達目標		んるよう子どものもてる ることができる		係に及ぼす影響を理解 養を実践し、評価する看
授業計画・内容				

1. 実習スケジュール

実習期間は10日間

- ·小児病棟/医療型障害児入所施設(5日間)
- · 保育園 (1 日間)
- ・児童発達支援センター/医療型障害児入所施設 (1日間)
- 2. 各実習施設での実習のねらい

[小児病棟/医療型障害児入所施設]

- 1) 健康障害をもち入院/入所している子どもの成長発達を理解し、成長発達を意図した関わりができる
- 2)健康障害をもつ子どもの全体像・日常生活力・立体像を把握した上で、子どもとその家族に必要な看護が

展開できる

3)子どもと家族をとりまく保健・医療・福祉・教育における看護師の役割や、多職種連携について理解できる

[保育園]

- 1) 子どもの成長発達や生活の特徴、成長発達に応じた生活援助の実際を学ぶ
- 2) 子どもの家族に対する支援の実際を学ぶ
- 3) 看護の視点を持ち、保育の中での健康管理や安全管理について理解する
- 4) 施設内における多職種連携や、他施設との連携について理解する

[児童発達支援センター/医療型障害児入所施設]

- 1) 子どもが持つ健康障害の特徴について学ぶ
- 2) 健康障害をもつ子どもの成長発達について学ぶ
- 3) 子どもの成長発達や健康障害に応じた生活援助の実際を学ぶ
- 4) 子どもの家族に対する支援の目的と実際を学ぶ

キーワード 子どもと家族、成長・発達、小児看護技術、看護展開、看護実践能力

教科 書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②, 小児看護技術, メディカ出版 3) 病気が見える Vol. 15, 小児科、Medic Media
参考書	
評価方法・評価基準	実習の進行状況、実習記録やレポートの提出状況を加味した上で、実習目標の達成度を 4 段階で評価する
関連科目	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習
履修要件	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が実習開始時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、小児看護に必要な看護実践能力を身につけるため の実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)
その他	専門領域看護実習の詳細をまとめた「実習要項」を別に配布する 小児感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎)の抗体検査結果を把握しておくこと

急性看護学実習

Acute Nursing Practice

担当教員名 熊谷 あゆ美 矢島 直樹					
科目区分 専門 必	必修 授業方法	実習	授業の実施力	7法 対面授業	対象学年 3年
開講期 後期集中	単位数 2	オフィ	スアワー	授業の前後に質問 (N415) 矢島(N20	を受け付ける。熊谷 08)
メールアドレス	熊谷: ayuku	天島:nyajima :	末尾に@fpu.ac	. jp を付けてくださ!	い。
授業概要	急性期(医療を積極的に受けなければ、健康のレベルが向上しない段階)にある対象とそ 概要 の家族に必要な看護実践能力を養う。				
1. 周術期にある対象の全体像を把握できる。 2. 周術期の経過に応じた看護を実践できる。 3. 急性期における医療チームの連携と看護師の役割を理解できる。 4. 看護を常に Critical に見つめ、理論的に分析する力を養うことができる。 5. 看護実践を通して看護提供者としての自己を成長させることができる。 (本授業は、DP4、5 に対応している)					
授業計画・内容					

実習方法

- 1. 手術を受ける患者を受け持ち、術前、術中、術後の看護問題を明確にする。実習指導者と教員の指導のもと、看護計画を立案・実践して学ぶ。
- 2. 手術室看護師による看護実践を通して、術中看護の計画・実施・評価の実際を学ぶ。
- 3. 救急外来を受診した患者の初期治療の実際を見学し、救急看護について学ぶ。
- 4. 個人やグループで、実習を振り返り、学びと自己の課題を明確にする。

実習病院

福井県立病院

実習場所

周術期看護実習:消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、婦人科、泌尿器科等に手術目的で入院した病棟、

手術室、HCU、ICU等

救急看護実習:救急外来

※詳細は実習要項を参照する。

※病院実習ができない場合は学内演習を行う。また遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグル

クラスルームによるオンデマンド授業等を行う。

キーワード	周術期患者 看護展開 手術看護 救急患者
教科書	成人看護学 急性期看護学 I 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学 II 救急看護・クリティカルケア 南江堂
参考書	成人看護学 成人看護技術 南江堂
評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を実習記録(50%)、看護実践・カンファレンス参加状況(50%) から、総合的に評価する。 評価基準は講義時に説明する。
関連科目	専門基礎科目 看護の基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論 急性看護学 急性看護学演習
履修要件	成人・老年看護学概論を「履修」し、急性看護学および急性看護学演習を「修得」していること

必要な事前・事後学修	教員が実習時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学に必要な看護実践能力を養うための実 習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)
その他	特になし

セルフケア支援実習

Nursing Practicum: Self-care Support for Chronic Diseases

担当教員名 久米	担当教員名 久米 真代、松崎 かさね			
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3年
開講期 後期集中	単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡要 (N411)	F 久米(N311)松崎
メールアドレス	久米: kume 松崎: ka	asane 末尾に@fpu.a	ac.jp を付けてくださし	۸,
授業概要	急性期病院で治療中の成人から老年期にある対象者とその家族への関わりを通して、治療を必要とする対象者の全体像を理解し、退院に向けてセルフケア能力や健康問題に適応する能力を支援する看護実践能力を養う。			
到達目標	2. 情報収集から 開できる	舌を見据え、対象者の		の一連の看護過程を展ケア支援とは何かを考

授業計画 · 内容

【実習期間】2週間(10日間)

【実習方法・内容】

<病棟実習>

- ・1~2名の患者を受け持ち、看護過程を展開する
- ・受け持ち患者の看護に必要な情報を理解したうえで適切な情報収集を行う。これまでの生活や自己管理に対する認識を把握するためにコミュニケーション力を活用する。
- 毎日の行動計画を立案し、看護師と相談・報告しながら助言をもらい、対象の把握を進める。
- ・治療や入院生活が生命や日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析し、問題を特定し、 退院を視野に入れた看護を実践する。
- ・実習グループでカンファレンスを行い、実践したことや自分の考えを言語化し、客観的に評価する。 他者の発言からも自己の考えを深める。

<学内実習>

看護計画立案(1週目)、病棟報告会のレポート、看護計画の実施評価(2週目)、

学内まとめのプレゼンテーション (最終日)

【実習施設】福井県立病院病棟は実習要項を参照。

※遠隔授業になった場合は zoomによるオンライン授業で対応する

キーワード	セルフケア 疾病受容 退院支援 成人 高齢者
教科書	なし
参考書	最新老年看護学第4版,日本看護協会出版会,2024年版 がん看護学 第3版,医学書院,2023年版
評価方法・評価基準	評価方法:実習目標の達成がどの程度自力でできたのか(90%)、カンファレンスへの参加度および発言内容(10%)で評価する 評価基準:実習要項の実習目標を評価基準としどの程度達成できたかで評価する。評価基

	準は6段階とする。1:助言を受けても達成できない、②:助言を受けても達成できないこ
	とが多かった、3:助言を受けて達成できた部分もあるが不十分な点が残った、4:助言を
	受けて達成できた、5:少しの助言を受けて達成できた、6:自立して達成できた(さらに
	発展的な看護を行える)
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床薬理学、臨床病態学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学概論、
	セルフケア支援論、セルフケア支援演習
履修要件	2年次までの専門基礎科目、専門科目における必修科目を全て修得していなければならない
腹形安件	3年次前期の専門科目における必修科目を修得していなければならない
必要な事前・事後学修	事前学習については、実習直前に提示する
実務経験のある教員	実務経験あり
による授業内容	看護師経験のある教員が本実習に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う
施行規則に定める	
科目区分又は事項等	
その他	

緩和ケア実習

Practicum: Palliative Care

担当教員名 有田 広美 藤田 祐子					
科目区分 専門 必修 授業方法 実習 授業の実施方法 対象学年 3					
開講期 後期集中	単位数 2	オフィ	スアワー	メールで事前連絡要 (N110)	更有田(N413)藤田
メールアドレス	有田:arita 藤	田:yfujita	末尾に@fpu.a	ac.jp を付けてくださし	,\
授業概要		および看護師の	役割について		里解し、QOL の向上を目 アチームや多職種連携
到達目標	2. 対象の状況を 3. 看護師の関わ	をアセスメント つりやチーム医 通し、看護提供	し、緩和ケア 療から緩和ケ 者としての自	で尊重した関わりがて としての看護の方向性 アとは何か、看護師の 日己自身を成長させるこ	生を述べられる D役割を考察できる
授業計画・内容					

【実習期間】2週間

【実習内容】

- 1. 対象者の健康障害と全人的苦痛の理解
- 2. 身体状態や療養に対する対象者および家族の思いの理解
- 3. 対象者のアセスメントから計画立案までの看護過程の実践
- 4. 緩和ケアを必要とする人への看護および看護師の役割
- 5. 緩和ケアにおけるチームアプローチ、多職種連携の必要性

【実習方法】

<病棟実習> 一人の患者を受け持ち、看護過程を展開する

<学内実習> 緩和ケアの主要な概念について文献、論文を用いて学習し、学習成果をレポートおよびパワーポイントで作成し、プレゼンテーションする

【実習施設】福井県立病院緩和ケア病棟または福井県済生会病院緩和ケア病棟

※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業で対応する

キーワード	緩和ケア 症状コントロール 全人的苦痛 多職種連携 チームアプローチ
教科書	宮下光令、ナーシンググラフィカ成人看護学⑥緩和ケア第3版、メディカ出版、2022.
参考書	
評価方法・評価基準	実習目標の達成度を実習記録用紙と学内実習のレポートから評価する 評価基準は実習要項参照。
関連科目	成人・老年看護学概論、緩和ケア論、臨床病態学、解剖生理学、薬理学
履修要件	成人看護学概論を履修し、緩和ケア論を修得していること
必要な事前・事後学修	必要な事前学修:緩和ケアおよび受け持ち患者の病態について実習直前に提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員の指導の下、緩和ケアに必要な看護実践能力を身につけるための実

	習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助実習

Practicum in Gerontological Nursing

担当教員名 久米真代,岡田恭子					
科目区分 専門 必修	授業方	法 実習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 3
開講期 後期集中	単位数	! オ	フィスアワー	実習期間中の実習終	了後
メールアドレス	久米: kume	岡田:okada	※末尾に@fpu.a	ıc. jp をつけてくださ	い。
授業概要	の質向上を目 生活している 認知症看護に	指した生活援 高齢者と家族 ついて理解を	助技術を修得する の生活の実際を学 深める。さらに、	。また、通所サービス ぶ。認知症高齢者との	D尊厳を支え、療養生活 はを利用しながら在宅で のかかわりを振り返り、 もつ希望と課題を知り、
到達目標	2. 引 3. た 4. 結 5. ス供 6. 課 制 は 計 の し 実 と 制 き 高 実 て 習 解 き 高 ま で き 齢 者 習 い を 決 ま と 種 き と 通 発	障害のある高齢 援助技術を修 家族の会点から 護の視点から 珍・聴診の技術 と共有するこ の日々のか護高い し、要介護高い ービスの実際	合者を担当し、健康 得することがでれる 会望を知画を受けを用いてるのり、 がを用いさるのりの生活を とがや、生活を とがや、生活を を を がめた。 高齢者の尊 できる	る をかなえるための施設 実施、評価・修正を ち高齢者のフィジカル してのかかわりで得ら していくため多職種が 要なことを述べるこ	をとらえ、"強み"を はのケアプランを理解し 行うことができる シアセスメントを行い、 れた反応、通所サービ が連携・協働しながら提
授業計画・内容					

実習場所:介護老人保健施設 ケアホームさいせい、ひかりケアホーム、あじさい

介護老人福祉施設 アニス松岡

実習期間:2週間

実習方法:80歳以上の認知機能の低下した高齢者を1名受け持ち、実習を行う。

高齢者と家族の今後の希望、ケアプランの目標を理解したうえで、高齢者の全体像をとらえ、看護過程にそって計画を立案、実施、評価・修正を行う。カンファレンスで実習指導者、グループメンバー、教員と積極的に討議を行い、多角的な視点から高齢者の理解を深め、より個別性のある看護を実践する。また、多職種の中で看護師の果たす専門的役割と連携を理解する。

実習期間中、通所サービスの実習を1日行い通所している高齢者の生活の実際と家族との関わりを学ぶ機会をもつ。

※遠隔授業となった場合、実習施設の受け入れの可否によって授業方法は変更となる

キーワード	認知症 強み 生活 希望 フィジカルアセスメント 多職種連携における看護の専門性
教科書	最新老年看護学第 4 版 2024 年版:日本看護協会出版会
参考書	老年看護学実習ハンドブック:中央法規

評価方法・評価基準	評価方法:実習目標の達成がどの程度自力でできたのか(90点)とカンファレンスへの参加度および発言内容(10点)で評価する 評価基準:0~5段階で各目標の達成度を評価する。0:かなり助言を行っても取り組むことができない、1:かなり助言を受けると言われたことを実践することはできる、2:助言がないと考えることが難しく実践できない、3:助言があれば考えて実践できる、4:助言があれば担当高齢者に合わせて実践できる、5:助言がなくても担当高齢者に合わせて実践できる
関連科目	成人・老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護援助演習、解剖生理学 I ・ II 、臨床薬 理学、病態生理学、臨床病態学 I ・ II
履修要件	2 年次までの専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していなければならない。 3 年次前期の専門科目における必修科目を修得していなければならない。
必要な事前・事後学修	実習前のオリエンテーションおよび最終面談で担当教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員のもとで、老年看護に必要な看護実践能力を身につけるための 実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

精神看護学実習

Nursing Practice: Mental Health Nursing

担当教員名 川村 みどり 、長谷川 小眞子					
科目区分 専門 必	必修 授業方法	実習	授業の実施方法	対面授業	対象学年 3年
開講期 後期	単位数 2	オフィ	スアワー 実習	習期間中の実習終 [*]	了後
メールアドレス	川村:kwmr2021	長谷川:has	segawa アド	レスの末尾に「 @	fpu. ac. jp 」をつけて
7. 707 I DX	ください				
	実習体験を通して	て、精神の健康の	の維持・増進、回	復するために必要	な知識・技術・態度を
授業概要	授業概要 統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養う。			5.	
	1. 精神科病院に	おける療養環境	もの特徴が理解で	きる。	
	2. 治療環境とし	ての自己活用が	ヾできる。		
到達目標	3. 対象者の精神	状態やニードを	把握し、必要な	看護が展開できる	0
	4. 精神に障害を持つ人の社会復帰、地域生活支援の現状と課題が理解できる。				
	(本授業は、DP 4	1、DP5に対応し	している。)		
授業計画・内容					

方法:精神科病棟での実習(8日間)、訪問看護または社会復帰施設での実習(1日間)、学内まとめ1日を行う。

実習内容

- 1. 精神科病棟実習
 - 1) 精神医療における入院治療の意味と適切な療養環境の調整・提供について理解する。
 - 2) 精神の健康問題を持つ対象者を一人選定し、その対象者について看護過程を展開し実践する。
- 3) 精神看護における治療的関係性の意味と重要性を、自己と受持対象者との関係構築の経過や発展過程などから考察し理解する。
- 4)対象者に実践した看護実践の方法や効果、対象理解などについて実習メンバーでカンファレンスを行い、精神看護についての学びを深める。
- 2. 訪問看護・社会復帰施設実習
 - 1) 訪問看護および社会復帰施設について、目的や支援内容等の説明を受ける。
 - 2) 訪問看護および社会復帰施設における利用者の特徴や活動内容を理解する。
 - 3) 訪問看護および社会復帰施設における専門職の支援内容を理解する。
 - 4) 利用者にとって訪問看護や社会復帰施設がどのような意味を持っているのか考察する。
 - 5)精神に障害を持つ人の社会復帰、地域生活支援の課題を考察する。
- 3. 精神看護学実習の学びの統合(学内最終日)
 - 1) 実習体験を基に看護過程の振り返りを作成し、実習メンバーで検討し実習の学びを統括する。
 - 2) 実習での学びを客観的に評価し、今後の自己の課題を明確にする。
- ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業を行う

キーワード	看護過程、自己洞察、精神保健医療、セルフケア、地域生活支援、治療的関係性
教科書	なし
参考書	田中美恵子編著, 精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版 (2024)

評価方法・評価基準	実習内容、実習記録、実習目標の達成度(自己評価・教員評価)から、総合的に評価する。 自身の実習を看護過程として展開させることができたか、受け持ち患者や臨地実習指導者、 グループメンバーとの交流により考察を深めることができたか、実習に関する体験や記録 等を基に、精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を評価する。
関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護発展セミナー
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項にある、実習科目の履修要件の通り。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が実習開始前に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、精神看護学に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学(臨床実習及び救急処置を含む)
その他	

地域 · 在宅看護学実習

Nursing Practice: Community and Home Health Nursing

科目区分 専門 必修授業方法 実習授業の実施方法 対面対象学年 3開講期 後期集中単位数 2オフィスアワー必要時 (研究室来訪時は事前にメール連絡をすること)メールアドレスsfutio (普照)、cumezu (梅津)後ろに@fpu. ac. jp をつけてください。県内の訪問看護事業所において訪問看護師に同行し、在宅療養者および家族の QOL を保障する看護について学ぶ。この実習によって、病院から退院し在宅療養を開始する人々に、授業概要必要なまだが提供できる基本があります。
開請期 後期集中 単位数 2 オフィスアワー をすること) メールアドレス sfutio (普照)、cumezu (梅津) 後ろに@fpu. ac. jp をつけてください。 県内の訪問看護事業所において訪問看護師に同行し、在宅療養者および家族の QOL を保障する看護について学ぶ。この実習によって、病院から退院し在宅療養を開始する人々に、
県内の訪問看護事業所において訪問看護師に同行し、在宅療養者および家族の QOL を保障する看護について学ぶ。この実習によって、病院から退院し在宅療養を開始する人々に、
超業概要 する看護について学ぶ。この実習によって、病院から退院し在宅療養を開始する人々に、
必要な支援が提供できる基礎的能力を身につける。さらに、在宅療養者および家族の尊厳 を保障する看護実践の基盤となる能力を培う。
1. 受持ち療養者および家族がどのような生活や人生を望んでいるのか理解し、必要な看護を展開する。 2. 様々な疾患や障害を抱えながらも住み慣れた自宅で生活している療養者および家族についての理解を深め、基礎的な看護技術を訪問看護師と共に提供する。 3. 在宅療養者を支える様々な専門職種や連携・協働の実際について学ぶ。 4. 療養者および家族の生活の場に第三者が介入することの意味を考え、本人および家族を尊重し配慮した行動がとれる。 (本科目は、DP4 と DP5 に対応している。)

授業計画・内容

- 1. オリエンテーション
- 2. 訪問看護に同行し、看護師とともに在宅看護技術を提供する。
- 3. 受持ち療養者の療養計画を立案し、カンファレンスでの発表、実践、評価をする。
 - ・対象者(療養者および家族)の希望を理解する。
 - ・対象者(療養者および家族)の在宅療養する能力をアセスメントする。
 - ・対象者の利用できる社会保障制度・社会資源を明らかにする。
 - ・対象者(療養者および家族)の療養計画を立案する。
 - ・立案した療養計画をケースカンファレンスにおいて評価・修正し、実践する。
- ・療養生活の様子、多職種とのカンファレンスや調整場面、ケアマネジャーの計画立案や調整、関連職種 や訪問看護ステーションの管理者・スタッフの実践や考えを見聞することにより、在宅療養についての知見や 考察を深める。
- ※担当教員や看護指導者および学生同士との意見交換を積極的に行い、上記の課題に取り組む。
- ※遠隔授業となった場合:オンライン授業に切り替える。

キーワード	生活、療養者と家族、自己決定、QOL、セルフケア、連携、協働、ケアマネジメント、社会保障、社会資源、 地域共生社会
教科書	・ナーシング・グラフィカ「地域・在宅看護論①、②」メディカ出版 ・「訪問看護おもてなし接遇マナーハンドブック」ラグーナ出版 ※いずれも2年後期と3年前期に使用したもの
参考書	「写真でわかる訪問看護」インターメディカ、国民衛生の動向(最新版)。 その他、適宜紹介する。
評価方法・評価基準	実習目的・目標の達成度、学修姿勢などから総合評価:実習要項参照。 遠隔授業時も同様。

関連科目	「看護の基礎」「看護の対象・場の理解と実践方法」の各科目、公衆衛生看護学の各科目、 社会保障・社会福祉概説、衛生関係法規、保健福祉行政論
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項にある実習科目の履修要件の通り。
必要な事前・事後学修	既習の授業資料やテキストを用いて復習して臨むこと。事前学習課題は、実習前 OR で指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ訪問看護師経験のある教員(普照、梅津)が担当する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質問等があれば早めに普照 (sfutio) まで連絡してください。

地域包括支援実習

Nursing Practice: Community-based Integrated Support

担当教員名 成田	担当教員名 成田光江 竹内智子				
科目区分 専門 必	必修 授業方法	実習	授業の実施方法	対面授業	対象学年 3年
開講期 後期集中	単位数 2	オフィス	スアワー 実習 る	'前・中・終了後 成田 (N313)、	、必要に応じて対応す 竹内 (N508)
メールアドレス	成田:narita@fp	u. ac. jp 竹内] : totake@fpu. a	с. јр	
地域包括支援実習では、病院・施設等での実習を通し、地域で生活する医療的ケア児、障害児・者、高齢者、勤労者、生活困窮者、介護・養育家族等の生活実態や、多様な生活者が抱える多様な課題を知り、課題の解決・改善に必要な支援の場、支援者、支援技術、支援・大大工会、地域の資源を理解する。そして、生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援の実際や、生活を支える社会保障制度、自治体施策の内容と実際、多機関・多職種の役割と機能、多機関・多職種連携・協働の実際を学び、地域包括支援における看護師の役割を考える。					
1. 地域で生活する多様な個人・家族・世帯の生活実態がわかる。 2. 生活の継続を支える地域資源がわかる。 3. 生活課題の解決・改善に向けた入退院支援の実際がわかる。 4. 生活を支える各種制度や自治体施策がわかる。 5. 多機関・多職種の役割と機能、連携・協働の実際がわかる。 6. 地域包括支援における看護師の役割がわかる。 本授業はDPの1~5に該当する。					
授業計画・内容					

【1週目】

病院内の地域連携室や入退院支援室での同行実習を通し、地域で生活する多様な生活者や、生活者が抱える多様な課題と入退院支援の実際等を理解する。

対 象:医療的ケア児、障害児・者、高齢者、勤労者、生活困窮者等とその家族・世帯

実習先:福井県立病院、福井厚生病院、福井赤十字病院、医療法人健康会嶋田病院、医療法人穂仁会大滝

病院(5病院)

実習生:1病院1~2名

方 法:火・水・木の3日間同行実習を行う。退院支援計画を作成する(1例)。

月曜日: AM 学内実習、PM 実習病院挨拶

火~木曜:同行実習、退院支援計画の作成

金曜日: AM 学内実習(1週目のまとめ・カンファレンス、病院実習レポート作成、2週目の事前学修)

PM 実習施設挨拶

【2週目】

入所・通所事業所等での同行実習を通し、地域で生活する多様な生活者と地域生活の実際、生活を支える地域 の資源、多機関・多職種の役割と機能、連携・協働の実際等を理解する。

対 象: 医療的ケア児、障害児・者、高齢者、勤労者、生活困窮者等とその家族・世帯

実習先:入所・通所施設、訪問診療所等(36カ所)

実習生:1施設1~2名

方 法:月・火の2日間同行実習を行う。退院支援計画を完成する(1例)。

月~火曜日:同行実習、退院支援計画の完成

水~木曜日:学内実習(2週目のまとめ・カンファレンス、施設実習レポート作成、記録の整理、施設実習、

報告会準備)

金曜日: AM 全体報告会またはカンファレンス、PM レポートの追加・修正、実習記録の提出(最終)

報告会:実習病院・施設の指導者を招き、地域包括支援実習での学びを報告する。

報告会資料は、実習病院・施設に提出する。

【備考】

遠隔授業になった場合は Zoom によるオンライン実習を行う。

キーワード	個別ケア・チームケア・地域ケア、入退院支援、多機関・多職種連携・協働、地域包括支 援
教科書	なし(適宜紹介する)
参考書	最新版 医療福祉総合ガイドブック (NPO 法人 日本医療ソーシャルワーク協会) 地域包括ケアシステム、多職種連携、社会保障制度に関する本 (適宜紹介する)
評価方法・評価基準	評価方法:実習記録・レポート内容、報告会、カンファレンス等での発言内容、学修態度 評価基準:到達目標の習得状況 実習内容を個々の到達目標に関する既存の知識・技術と関連づけることがで きる 自己の考えを整理し、分かりやすく伝えることができる 礼節をわきまえ自ら学修しているか(容姿、挨拶、返事、主体性、自立性、 積極性等)
	※対面実習ができない場合は評価方法を変更することがある
関連科目	看護学に関するすべての科目、保健・医療・福祉制度に関する科目
履修要件	看護関連科目に関する全ての科目を「修得」していなければ履修できない
必要な事前・事後学修	事前学習:社会保障制度、自治体施策、入退院支援、病院・施設等サービスの種類と機能、連携職種の役割と専門性、多職種連携の技術等、事後学修:レポート作成と報告会(実習内容と既存の知識・技術との関連)
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師、保健師、社会福祉士の資格を持ち、病院の入院・外来看護、施設看護、訪問看護、 入退院支援、多機関・多職種連携、コミュニティワーク、メディカル・ソーシャルワーク、 自治体施策の立案・運営等の実務経験者、家族介護者・養育者支援の実務経験者
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	健康維持に努め、主体的・自立的に学修すること

公衆衛生看護活動展開実習

Public Health Nursing Activity Deployment Practice

担当教員名 小島 亜未 、坂部 敬子 、井狩 知幸					
科目区分 専門 選択 授業方法 実習 授業の実施方法 対面 対象学年 4年					
開講期 前期集中	単位数 3	オフィスアワー	小島(N316) 坂部(N	109) 井狩(N)	
メールアドレス	小島:akojima@fpu.ad	c.jp 坂部:ksakabe@	fpu. ac. jp 井狩:		
授業概要	集団・地域全体を対象		動を展開するために	解を深め、個人・家族・ 必要な知識・技術・態度 う。	
到達目標	2. 地域で生活する人々できる。 3. 健康教育の企画・実つける。 4. 地域の健康課題を解する過程を理解し、保 5. 保健師実習生として	施・評価の過程を通し 発決するために効果的な 健師の役割を考察でき 主体的に実習すること 動の基盤となる能力を	て展開されている公衆 て、健康教育に必要な 公衆衛生看護活動を: きる。 : を通して、地域の健康	できる。 常生看護護活動を理解 は基本技術と方法を身に 企画・立案、実施、評価 でできる。	
授業計画・内容					

【実習方法】実習計画に従って実習する。

- 1. 毎日、事前学習と自己の実習目標を明確にして実習に臨み、実習目標に対する学びを記録する。
- 2. 家庭訪問に同行する場合は、事前アセスメント用紙を記入し、訪問後に個人・家族支援記録を記入する。
- 3. 健康教育の対象と場のアセスメントに基づき、目的・目標を設定し、計画書・シナリオを提出し、模擬で指導保健師の指導・助言を受けて修正したうえで、健康教育を実施し、評価を行う。
- 4. 臨地実習の最終日は、健康教育の評価と学び、自己の実習目標について事実に基づく分析を通して理解したこと・考えたこと、保健師の役割を発表・討議する。
- 5. 最終日の学内のまとめでは、市町実習において理解できた公衆衛生看護活動と保健師の役割について発表・討議することを通して、地域で生活する人々の健康課題とそれらに対応して展開されている公衆衛生看護活動、保健師の支援方法と支援内容、保健師の役割について理解を深める。

【実習場所】福井県内の市町:福井市、永平寺町、坂井市、あわら市、大野市、勝山市、鯖江市、越前市 ※遠隔実習となった場合の対応: ZOOM によるオンライン指導

キーワード	地域の健康課題、公衆衛生看護活動、市町保健センター・地域包括センターの役割、保健
	師活動
	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院]
教科書	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院]
教科書	標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院]
	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
	評価方法は、健康教育の企画・実施・評価の過程と内容を含む実習態度・実習記録(65%)、
評価方法・評価基準	実習中課題 (35%) を総合的に評価する。
	評価基準は、健康教育の企画・実施・評価の過程と内容を含む実習態度・実習記録の内容、

	実習課題(事前学習、臨地実習のまとめ)の内容により評価する。60点以上を合格とする。
	遠隔実習の場合の評価方法:実習課題は GC 等に提出してもらい評価する。
	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保健指
関連科目	導論、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、疫学、社会保障・社会福
	祉概説、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
屋枚亜州	疫学、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門
履修要件	領域看護学実習の単位修得していること。
必要な事前・事後学修	実習前・実習中に指示する。
	実務経験あり
実務経験のある教員 による授業内容	保健師の資格を有する教員の指導の下、公衆衛生看護学に必要な看護実践能力を身につけ
にある技术内督	るための実習を行う。
施行規則に定める	
科目区分又は事項等	
その他	公衆衛生看護管理実習を履修していない者の公衆衛生看護活動展開実習の単位認定はでき
	ない。

公衆衛生看護管理実習

Public Health Nursing Management Practice

担当教員名 小島 亜未、井狩 知幸、坂部 敬子、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選抜	尺 授業方法 実習	授業の実施	方法 対面	対象学年 4年
開講期 前期集中	単位数 2	オフィスアワー	小島(N316) 井狩(N 斎藤(N305)	N) 坂部(N109)
メールアドレス	小島:akojima@fpu.ac.j	p 井狩: 坂音	部:ksakabe@fpu. ac. j	p
授業概要	地域診断を通して地域特 行われている公衆衛生看 技術的拠点としての保健 内や管内市町の関係機関 看護活動の基盤となる能	護活動について理解 所の役割・機能の実 との連携・調整、他	する。地域保健法に基際と保健師の専門性に	基づく広域的、専門的、 こついて理解し、保健所
3 到達目標 6 4 5 6	1. 地域診断に必要な情報 するとができる。 2. 市町の健康考 2. 市町の援を考 3. 保健を考 3. 保健のの組織は 4. 健康のの組織は 4. 健健ののととののは 5. 保健衛生をののといる。 5. 保健衛生をののといる。 6. 保健衛生をのがした。 5. 保健衛生をのがした。 6. 保健衛性をのがした。 6. 保健衛性をのがした。	まするために実践され 保健所が管轄する市 。 や健康危機発生時の は体的に実習すること	ている公衆衛生看護活 町の地域特性と健康語 対応方法と支援内容を	舌動の全体像を捉えて、 果題を踏まえ、保健所の を理解できる。
		松坐計画 古家		

授業計画 · 内容

【実習方法】

[地域診断実習]

- 1. 地域診断に必要な情報を収集・アセスメントして、実習する市町の地域特性と健康課題を把握する。
- 2. 健康課題を解決するために展開されている公衆衛生看護活動(母子・成人・介護予防事業)に関する情報 を収集し、事業の全体像を理解し、必要な公衆衛生看護活動を考察する。

[保健所実習]

- 1. 実習計画に従って実習する。
- 2. 毎日、事前学習と自己の実習目標を明確にして実習に臨み、実習目標に対する学びを記録する。
- 3. 家庭訪問に同行する場合は、事前アセスメント用紙を記入し、訪問後に個人・家族支援記録を記入する。
- 4. 保健所保健師の支援方法と技術、保健師が果たす役割について理解を深める。

【実習場所】

福井市保健所

福井県福井健康福祉センター、坂井健康福祉センター、奥越健康福祉センター、丹南健康福祉センター

※遠隔実習となった場合の対応: ZOOM によるオンライン指導

キーワード	地域診断、地域の健康課題、公衆衛生看護活動、保健所の役割・機能、保健師活動
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院]
	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院]

	標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	評価方法は、実習課題(50%)と実習態度・実習記録(50%)を総合的に評価する。 評価基準は、実習課題(地域診断、健康課題の把握、公衆衛生看護活動の理解、保健所の 役割機能・保健師の専門性の理解)の内容、実習態度・実習記録の内容により評価する。 60点以上を合格とする。 遠隔実習の場合の評価方法:実習課題は GC 等に提出してもらい評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論 I · Ⅱ、公衆衛生看護技術 I · Ⅲ、保健指導論、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、疫学、社会保障・社会福祉概説、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	疫学、公衆衛生看護活動論 II、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護技術 I・II・II、専門 領域看護学実習の単位を修得していること
必要な事前・事後学修	実習前・実習中に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師の資格を有する教員の指導の下、公衆衛生看護学に必要な看護実践能力を身につけ るための実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	公衆衛生看護活動展開実習を履修していない者の公衆衛生看護管理実習の単位認定はでき ない。

看護研究方法論							
	Nursing Research Methodology						
担当教員名	担当教員名 笠井 恭子 、大島 千佳 、普照 早苗 、東 知宏						
科目区分 耳	専門 必修	授業方法 講義	授業の	実施方法	対面授業	対象学年	3年
開講期前期	期 単	単位数 1	オフィスアワー		‡(N414) 大島 (N302): 随時(メ		預(N319) に日時調
メールアド		: kasai 大島: os					
授業概要	方法 要 2. i 法の	看護研究の必要性、 について教授する 主に実験研究、調査 基礎知識を深める 人を対象とする看詞	₹研究、質的研究	について	既説し、実際の研	究論文を用い	
到達目	1. 看護実践と看護研究のつながりについて理解を深め、科学的思考や論理的思考を身につける 到達目標 2. 医療や看護の原著論文のクリティークをとおして研究のプロセスについて理解できる 3. 人を対象とする研究倫理について理解できる (本授業は、DP5 と DP6 に対応している。)						
授業計画・内容							
第1回 看	看護研究の目(的と方法概要、リ †	ナーチクエスチョ	ンの立て	方		
第2回 万	文献検索の方法	法と実際、文献レヒ	ニューの記述(文	献カード)		
第3回 码	研究テーマ・	研究目的・研究のホ	枠組みの明確化、	研究計画	書の作成		
第4回 第	実験研究の特征	徴と倫理的配慮					
第5回 第	実験研究の進め方①:データ収集方法と実際						
第6回 第	実験研究の進め方②:データの分析方法と実際						
第7回 第	国 実験研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方						
第8回 蕌	第8回 調査研究の特徴と倫理的配慮						
第9回 ፤	調査研究の進	め方①:データ収集	美方法:質問紙調	査法			
第10回 🔝	調査研究の進め方②:データの分析方法:記述統計/推測統計						

第11回 調査研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方

第15回 質的研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方

※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。

質的研究

実験研究

調査研究

第13回 質的研究の進め方①: データ収集方法と実際

笠井

東

看護研究

第14回 質的研究の進め方②:データの分析方法と実際

大島

普照

第12回 質的研究の特徴と倫理的配慮

第 1回、第3回

第 8~11回

第12~15回

キーワード

第 2回、第4~7回

教科書	系統看護学講座別巻 看護研究第2版:坂下玲子他,医学書院			
参考書	「APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール第2版」 前田樹海、江藤裕之著. 上記含め、授業時に都度紹介する。			
評価方法・評価基準	評価方法:レポート(100%)第1、3回:研究計画書が科学的・論理的思考に基づき作成されているか(25%) 第2、4~7回:実験研究の基礎知識・研究プロセスの理解度(25%) 第8~11回:調査研究の基礎知識・研究プロセスの理解度(25%) 第12~15回:質的研究の基礎知識・研究プロセスの理解度(25%) 第12~15回:質的研究の基礎知識・研究プロセスの理解度(25%)			
関連科目	一般教育科目の「情報」に関する科目			
履修要件	上記関連科目を履修していることが望ましい			
必要な事前・事後学修	授業時に提示する			
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が看護研究を行う際に必要な基礎知識および研究プロセスについ て授業を展開する			
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
その他	この授業をとおして、医療・看護に関連する研究論文に触れていきましょう。実習をとおして感じた疑問を大切にして研究疑問へと発展させ、4年生で取り組む卒業研究へとつなげていきましょう。			

卒業研究 (看護学科)

Graduation Study

担当教員名 看護学科専任教員(教授、准教授、助教)							
科目区分 専門 🦸	必修	修 授業方法 その他 授業の実施方法 対面授業 対象学年 4年				4年	
開講期 通年	単	位数 3	オフ	ィスアワー	各教員と要相談		
メールアドレス	各教員	員のメールフ	アドレスを参	照			
授業概要	授業や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、 文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。研究は①課題と関連のある文献レビュー、②研究テーマの明確化、③研究方法の決定、④研究計画書の作成、 ⑤データ収集、⑥データ分析、⑦論文作成、⑧研究発表のプロセスを踏む。						
卒業研究では、科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。従って、学生は教員の指導のもと、自主的・計画的に研究を遂行し、研究論文を完成させ、研究発表ができる。 (本授業は、DP5、DP6に対応している)							

4年次に卒業研究を完成させるために3年次後期後半から準備期間を設け、基盤看護学、成育看護学、成熟看護学、広域看護学のいずれかの分野の専任教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。

1. 実施方法

卒業研究要項(別途配布)に基づいて実施する。

2. 指導体制

指導教員名は下記のとおりである。なお、学生が記載した希望調査票(関心のあるテーマ、領域)を参考に して、学生数の調整後、指導教員を決定する。

1) 基盤看護学分野

健康科学:米田誠、平井一芳、水谷哲也、村上茂

基礎看護学:笠井恭子、大島千佳、東知宏、上木礼子

2) 成育看護学分野

母性看護学:岩谷久美子、平井宏美、牧野葵

小児看護学:金粕仁美、上谷祐子

3) 成熟看護学分野

成人看護学:熊谷あゆ美、矢島直樹、藤田祐子

老年看護学: 久米真代、岡田恭子、松崎かさね

4) 広域看護学分野

地域・在宅看護学:普照早苗、成田光江、梅津千香子、竹内智子

公衆衛生看護学:小島亜未、坂部敬子、井狩知幸

精神看護学:川村みどり、長谷川小眞子

※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。

キーワード	卒業研究、研究課題
教科書	各担当教員が指示する。
参考書	各担当教員が指示する。

評価方法・評価基準	自ら取り組む姿勢、研究能力の基礎などの指標に沿って評価する。 評価基準は遠隔授業の場合も含めて、卒業研究要項(別途配布)を参照する。
関連科目	看護研究方法論、専門基礎・専門科目、保健統計学、社会福祉調査A・B
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、各指導教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師、保健師、助産師の資格を有する教員又は医学教育の業務経験のある教員による研 究指導を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

看護マネジメント学

Nursing Management

担当教員名 上オ	ト 礼子	普照「	苗						
科目区分 専門 必	必修	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年 4年	
開講期前期集中	単	位数 1		オフィ	スアワー	に日		時 : メール等にて事 i19 研究室) 随時 : メ 整	
メールアドレス	上木	reikou17-	2@g. fpu	. ac. jp	普照 sf	utio2@	g. fpu. ac. jp		
授業概要	看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証や看護における政策決定過程を学ぶ。 時代に対応した質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を、看護管理の視点から考える。								
1. 看護管理の基礎となる理論を理解する。 2. 質の高い看護を提供するためのシステム(構造と機能)を理解する。 3. 看護サービスの経済的・質的評価について理解し、質向上に果たす看護職の役割を考える。 4. 看護職者のキャリア形成について学び、看護職者としてキャリアを展望する。 5. 多職種と協働するためのリーダーシップ機能について理解する。 (本授業は、DP5、DP6 に対応している)									
授業計画・内容									

本授業は全8回、4日間の集中講義で実施します。教科書を中心に講義形式ですすめます。

- (1) 看護とマネジメント、病院(診療所)の組織・体制・関連法制度、医療安全
- (2) 看護組織とは、看護サービスのマネジメント(看護サービス提供のしくみづくり、人材のマネジメント)
- (3) 看護職のキャリアマネジメント、マネジメントに必要な知識と技術
- (4) 看護方式の変遷とその特徴、PNS:パートナーシップナーシングシステム が生まれた背景とその効

果 橘幸子先生(外部講師)

- (5) 訪問看護事業所の組織・体制・関連法精度
- (6) 訪問看護管理者の役割と責任、訪問看護マネジメントと業務内容の実際
- (7) 地域・在宅看護学領域における多職種連携と協働の実際
- (8) 訪問看護における教育システムとキャリア発達
- ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。

キーワード	看護組織 看護管理 看護サービス キャリア形成 医療安全 訪問看護 地域包括ケア
	システム 地域・在宅看護学
教科書	上泉和子他:系統看護学講座 統合分野 看護管理(看護の統合と実践①) 医学書院
教件者	教員が作成した教材を使用
参考書	講義では必要時その都度提示
	課題レポートと授業への積極的な参加をあわせて評価
評価方法・評価基準	課題レポート 70%、小テスト 10%、受講状況 20%
	遠隔授業となった場合も同様
関連科目	看護マネジメント実習

履修要件	
必要な事前・事後学修	必要時には事前に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 医療現場で実践される看護職者の管理的機能やそのマネジメントについての実際から、時 代に対応した質の高い看護サービス提供するための方策を、看護管理の実務経験や研究成 果から授業をすすめる。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質の高い看護を提供するために、看護職者として組織マネジメントおよび看護サービスのマネジメントを理解し、一看護職者としての役割を明確にしながら多職種と協働できること期待しています。授業での学びを看護マネジメント実習で生かしてください

看護マネジメント実習

Nursing Practicum in Leadership and Management

担当教員名 上木 礼子、普照 早苗 梅津 千香子、成田 光江、竹内 智子、 大島 千佳

大島 千佳	· / / / /					
科目区分 専門 』	必修 授業方法 実習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年 4年		
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	上木(N416) 普照(N3 (N313) 竹内(N508) 大島(N306) カッコグ メール等にて事前に	7は研究室番号 随時:		
メールアドレス	上木 reikou17-2@g.fpu.	.ac.jp 普照 sfu	tio2@g.fpu.ac.jp			
授業概要	"ヘルスケアを提供する場において、看護サービス提供のマネジメントをするため、授業で学んだ基礎的知識について実習を通して理解し、理論と実践を結びつけて考察する。また看護の有効的なリーダーシップとマネジメントの実際を学習する。"					
到達目標	 1. 病院および看護部 2. 病棟における看護サ 3. 訪問看護ステーショ 4. 地域における看護サきる 5. チームの一員としての組織体制と基本理念と (本授業は、DP5、DP6に 	ナービスの提供、看護 コンの組織と役割につ ナービスの提供、多職 での視点から看護サー このつながり、さらに	マネジメントの実際にいて理解できる。 種連携、マネジメント ビス提供のマネジメン	・の実際について理解で ットを考察し、それぞれ		

授業計画・内容

"実習施設:

[病院施設] 福井赤十字病院、福井県立病院

[訪問看護] 県内の訪問看護ステーション

実習期間:[前半]6月上旬~中旬、[後半]7月上旬~中旬 集中実習

実習方法:

[病院]1 病棟に1~2 名の学生を配置し、担当看護師の指導のもと実習を展開する

[訪看]1事業所に 1~2名の学生を配置し、担当看護師の指導のもと実習を展開する

実習内容

[1週目]

- 1) 病院組織および看護組織についての概要、および組織の目標等の説明を受け全体像を把握する。
- 2) 医療安全対策に向けたカンファレンス等に参加し、組織における安全管理システムの実際を学ぶ
- 3) 管理職(看護師長)とともに行動し、それぞれの役割と業務を理解する。

[2週目]

- 4)地域で活動する看護組織と関連機関や他職種との協働システムについて把握する。
- 5) 事業所の組織目標を理解し、看護サービスの提供とそのマネジメントの実際を学ぶ

[最終日]

6) 実習終了後に、それぞれの実習で体験したことをもとに報告会を行い、知識の共有化をはかる。

- ※実際は半数ずつ交互に病院と訪看に分かれて実習します。
- ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。"

キーワード	組織理念 看護組織 看護サービス チーム医療 医療安全管理 訪問看護 地域包括ケ
, , ,	アシステム 地域・在宅看護学
教科書	必要時には独自の資料を配布
参考書	「看護マネジメント学」の授業資料を必ず復習してください。
評価方法・評価基準	評価方法:実習記録・自己評価表(50%)実習への取り組み態度(50%)から総合的に評価する。遠隔実習となった場合は評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する評価基準:病院における看護マネジメントの実際についての理解能力を記録物と病棟実習への取り組み態度から評価する。看護サービス提供のマネジメントを考察する能力を記録物とカンファレンスへの参加態度から評価する。
関連科目	看護マネジメント学
履修要件	看護マネジメント学を履修していること
必要な事前・事後学修	必要時には提示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 病院での実務経験から、看護マネジメントについて、授業で学んだ基礎的知識や理論を実 際と結びつけ理解が深められるように実習を通して導く。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	実習経験を題材にしながら、看護サービス提供の基盤となる看護組織の視点から看護の質 の向上とは何か、その管理を考察する。

看護倫理発展セミナー

Advance d Seminar: Nursing ethics

担当教員名 笠井	‡恭子							
科目区分 専門 遊	選択	授業方法	講義	授業の実施	方法	遠隔授業	対象学年	4年
開講期 前期集中	単	位数 1	オフ	フィスアワー	随時	(メールにて事	前日時調整)	
メールアドレス	kasa	i@fpu.ac.jp)					
授業概要	2年後期必修科目「看護倫理学」のアドバンス編として位置づける。実習で関わった事例の中から倫理的問題を抱えていた場面を抽出し、「倫理的問題を解決するためのモデル」を活用し分析する。その内容を発表、ディスカッションし、倫理的な思考および学びを深める。							
到達目標	する 1. 2.	ためのモデル 看護実践上の 看護実践上の	ル」を活用し の倫理的問題 の倫理的問題 らと DP6 に対	て分析し、以T に対する感受性 に対する問題角 応している。)	Fの目標 生を高 <i>は</i>	かる 。	て、「倫理的「	問題を解決
			授	業計画・内容				

第1回 倫理的問題が生じる場面

第2回 倫理行動の4要素

第3回 医療倫理の4原則

第4回 臨床倫理4分割法の活用

第5・6回 実習で関わった事例の中から倫理的問題を抱えていた場面を抽出し

「倫理的問題を解決するためのモデル」を活用し分析する

第7・8回 プレゼンテーション/ディスカッション

※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。

キーワード	医療倫理 臨床倫理 4 分割法 事例検討
教科書	指定しない
参考書	授業の中で紹介する
評価方法・評価基準	評価方法:発表資料・プレゼンテーション(100%)について、以下の評価基準に沿って評価する。 評価基準:①倫理的問題について、適切なモデルを用いて分析できているか ②倫理的問題を解決する方法、プロセスを理解できているか ③発表資料は構成が適切でわかりやすく、プレゼンテーション力は優れていたか
関連科目	専門教育科目全般
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	事前学習:事前配付資料に目をとおし予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護し経験を有する教員が看護倫理学(アドバンス編)に関する授業および事例検討を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	特になし

生殖看護発展セミナー

Progress Seminar in Reproductive Nursing

担当教員名 岩谷 久美子,平井 宏美,牧野 葵										
科目区分 専門・選	択	授業方法	演習		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	4年	
開講期 前期集中	単	单位数 1		オフィ	スアワー	講義 (N109	終了後、随E 9) 牧野(N304		08)	平井
メールアドレス	岩谷	: kiwatan	i@fpu. ac	. jp म	^z 井:hirohiı	ra@fpu	.ac.jp 牧	野:mknaoi@	fpu. ac.	јр
授業概要	るテ 題や らに を明	ーマ(例え 問題につい 探求し、女 らかにし、	ば、月経 \て医療・ 性の生涯 女性の傾	・不妊・ 福祉、社 にわたっ 康課題。	ジェンダー 社会情勢など ってリプロダ と母性看護の	等)を 多方面 クティ)役割に	基本的要素の 決め、国内・ iから情報を収 ブヘルス & ラ こついて学習す ばを取り入れる	国外を問わる は集する。集め イツを脅かし 「る。グルー」	げ、最近 かた情報 している	で話 をさ 問題
到達目標	役割	外のリプロ や母子保優 授業は、DI	性について	理解を	深める。	視点な	いら最近の課題	題を探求し、	母性看	護の
授業計画・内容										

第1回:オリエンテーション、関心のあるテーマについてディスカッション

第2回:個人またはグループで関心のあるテーマの選定、文献検索、ディスカッション

第3回:テーマに関する学習・文献検討

第4回 : テーマに関する学習・文献検討

第5回:プレゼンテーションおよびグループ討議・発表の準備等

第6回:中間発表会とディスカッション

第7回:中間発表会の議論を中心とした検討と最終報告会資料の作成

第8回:学習成果の発表(プレゼンテーション)と質疑応答、まとめ

※対面授業ができない場合は ZOOM 等の利用によるオンライン授業形式に変更する。

キーワード	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、女性の健康、女性とその家族等の健康課題
教科書	母性看護学概論・母性看護学・母性看護学演習・母性看護学実習で使用した教科書
参考書	随時、提示する。
評価方法・評価基準	評価方法:レポート 80%、発表 20% 評価基準:母性の課題の把握、レポートの理解度・適切性、プレゼンテーション力を綜合的に評価する。 ※遠隔授業の場合も同様の評価基準とする。
関連科目	母性看護学概論・母性看護学・母性看護学演習・母性看護学実習
履修要件	母性看護学概論・母性看護学・母性看護学演習・母性看護学実習を履修または修得していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有し、臨床経験のある教員が担当し、社会情勢を踏まえて理解が 深まるようアドバイスする。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	受講者の上限は2人以上の場合、開講とする。

小児看護発展セミナー

Advanced Seminar : Child Health Nursing

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子					
科目区分 専門 選	選択 授業方法	演習	授業の実施方	法 対面授業	対象学年 4年
開講期 前期集中	単位数 1	オフィ	スアワー	插時受付 金粕 (N3	08), 上谷 (N110)
メールアドレス	金粕; kanekasu	@fpu. ac. jp, 上:	谷; kamitani@f	pu. ac. jp	
授業概要	護の専門性を探保健・福祉・教 ゼンテーション	求する。具体的に 育等の連携の視り し、グループメン	こは、子どもとる 点で文献検索・ ンバーによるデ	その家族に関連する 検討を行う。また、	テーマを選択し、小児看 テーマを選択し、医療・ 文献検討の内容をプレ 通して学びを深める。ま いて学ぶ。
1. 小児看護学関連のテーマを選択し、文献検索・検討を行い、プレゼンテーションを実施することができる 2. ディスカッションを通して、選択したテーマについて内容を深め、小児看護の専門性を探求することができる 本授業は、DP5・6に対応している					
授業計画・内容					

- 第1回 導入、テーマ設定
- 第2回 文献検討、プレゼンテーション資料の作成、個別面談(日本の看護の現状)
- 第3回 1回目のプレゼンテーション
- 第4回 グループディスカッション
- 第5回 文献検討、プレゼンテーション資料の作成、個別面談(海外の看護の現状)
- 第6回 2回目のプレゼンテーション
- 第7回 グループディスカッション
- 第8回 プレゼンテーション・グループディスカッションのまとめ

キーワード	子どもと家族、成長・発達、小児医療、母子保健、児童福祉、学校教育
教科書	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、学校保健 I 等で使用した教科書
参考書	参考書等は随時提示する
評価方法・評価基準	評価方法は文献検討とプレゼンテーション、レポートにより総合的に判断する。詳細は初回講義時に説明する
関連科目	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、学校保健 I
履修要件	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、小児看護学実習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、小児看護学に必要な看護実践能力を発展するため

	の演習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

精神看護発展セミナー

Advanced Seminar: Mental Health Nursing

担当教員名 川村	担当教員名 川村 みどり 、長谷川 小眞子							
科目区分 専門 遵	選択 授美	業方法 演	2	授業の実施	方法	対面授業	対象学年	4年
開講期 前期集中	単位数	; 1	オフィ	スアワー	で日	:講義終了後ま 時調整(N409) 室(N303)		メール連絡 講義終了後
メールアドレス	川村:kwm さい	nr2021 長	谷川:hase	egawa アト	・レス	の末尾に「@fpu.	ac. jp」を	つけてくだ
授業概要	のあり方 おいて注 地域生活 マに関連 交換等か	や精神看護 目されてい 支援、家族 する文献検 ら得られた	の専門性と る事柄 (精 支援など) ヵ 討を行う。 各自の学び	は何かを探求 神障害者の疾 から、学生自 そして、実際 をプレゼンテ	する。 病との 身が問 の現場	、精神障害者の生。具体的には、今の付き合い方、精明題意識を持った場に出向き、対象ョンし、グループ	日、精神看 神障害者の テーマを選 者や看護職	護学領域に 退院支援や 択し、テー 者との意見
カッションを通して学びを深める 1. 今日の精神医療・精神看護における現状および課題を理解した上で、本セミナーにて深めたいテーマを設定できる。 到達目標 2. 精神看護の現場において、自己のテーマ学習を通して、精神障害者(家族を含む) の生活支援のあり方や精神看護の専門性を考察できる。 (本授業は、DP5、DP6に対応している。)								
授業計画・内容								

第1回:オリエンテーション, 文献検討

第2回:文献検討のまとめ、自己の学習目的・方法の明確化

第3回:フィールドワーク

第4回:フィールドワーク

第5回:フィールドワーク

第6回:フィールドワーク

第7回:プレゼンテーションおよびグループディスカッション

第8回:まとめ

※開講時期:4年前期後半

※実習フィールド(社会復帰施設など)

※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業を行う

キーワード	家族支援、精神障害者、退院支援、地域生活支援
教科書	精神保健、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習等で使用した 教科書

参考書	
評価方法・評価基準	文献検討、フィールドワーク実践、プレゼンテーション、グループディスカッションから 総合的に評価する。 精神医療・精神看護の現状への理解の程度と、課題解決に向けた精神看護の専門性への考 察の内容を、演習全般を通して評価する。
関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習
履修要件	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習の単位を修得していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、精神看護学に必要な看護実践能力を身につけるための演習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

家族看護発展セミナー

Advanced Seminar : Family Nursing

担当教員名 普照	l名 普照早苗 梅津千香子								
科目区分 選択必修	§	授業方法 講義・実習・ その他 授業の実施方法 対面		対面	対象学年	4			
開講期 前期集中	単	位数 1	オ	フィス	スアワー	-	。研究室に訪室 連絡してくださり		事前にメー
メールアドレス	普照	: sfutio 7	梅津:cume	zu	※末尾に@f	pu. ac	. jp をつけてく	ださい	
授業概要	既習の地域・在宅看護学、同演習、同実習を踏まえて、家族看護を中心に看護師の機能 や役割について学ぶ。具体的には、各自テーマを設定し文献等で学習する。さらに、実践 現場の看護職等とのディスカッションを通して、包括的な家族看護支援の在り方を深める。		さらに、実践						
到達目標	を理 2. ス 考察	解した上で	、セミナー 現場の看護! とができる	で深め 職等か 。	たい自らのいらの情報収	テーマ	ぱと関連する「家 マを設定できる。 ≒って、自ら設定		

【期間】(予定):7月または8月の月~金(集中セミナー)

【スケジュール】

1日目(初回): 学内 OR、家族看護の実践者によるミニレクチャー

各自のテーマ決定

2~4日目:①文献検索、情報収集

②教員との個別ゼミ

③各自のテーマに添って情報収集、文献検索、プレゼンテー

ション資料の作成

5日目(最終日):各自のテーマにそったプレゼンテーション、まとめ

家族看護の実践者・教員による講評

※受講生の上限人数:4人まで

※受講者とは事前に日程調整します。

キーワード	家族看護、地域・在宅看護学、地域包括ケアシステム、多職種連携、ケアマネジメント
教科書	特になし。随時、資料配布します。
参考書	特になし。必要時、これまでの看護学領域の教科書を参照してください。
評価方法・評価基準	集中講義のため全日出席を条件とする。授業の参加状況(50%)、最終プレゼンテーション+最終レポート課題(50%)とする。
関連科目	地域・在宅看護学の関連授業
履修要件	先行して開講される地域・在宅看護学の講義、演習、実習科目を修得していること。連続する1週間の集中セミナーを全出席できること。欠席した場合は単位を認めない。
必要な事前・事後学修	家族看護に関する書籍、ニュース、報道記事など、知識を得ておいてください。

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 普照・梅津、共に看護師・保健師の国家資格を有し、病棟看護師、訪問看護師経験あり。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質問等があれば早めに普照 (sfutio) まで連絡してください。

認知症看護発展セミナー

Advanced Semina: Dementia Nursing

担当教員名 久米	米真代,岡田恭子,松崎	 かさね		
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	授業の実施 対面授業	方法 対面授業	対象学年 4
開講期前期集中	単位数 1	オフィスアワー	つでも対応いたしま 久米 (N311). 岡田	(N508). 松崎 (N411)
メールアドレス	久米:kume,岡田:ok	ada,松崎:kasane	※末尾に@fpu. ac. jp	をつけてください
授業概要	行いながら、その人の(た、福井県という地域)	健康と生活を援助する 持性を理解したうえで	ための看護実践を創造 、幅広いニードを有す	リスクマネジメントを きすることができる。ま る認知症高齢者と家族 記行制度の課題と解決策
到達目標	理的側面に配慮しなが 2. 福井県という地域特 影響を理解することが	ら看護を考えることが 特性が認知症高齢者の できる 笑の希望をかなえるう から述べることができ 快する方法を、地域特性	できる 生活や、家族が介護を えで、地域包括ケアシ る	をもとに、安全面・倫 ・していくときに及ぼす ・ステムの中で課題とな とができる
授業計画・内容				

第1回 導入、認知症看護認定看護師による事例紹介と話題提供

第2-3回 事例展開(看護を考える)

第4回 福井県の地域特性が認知症高齢者の生活や、家族が介護をしていくときに及ぼす影響を考える

第5-6回 事例の高齢者と家族の希望をかなえるため、地域包括ケアシステムの中で課題となることとその解 決策を考える

第7-8回 プレゼンテーションと認知症看護認定看護師を交えた討議

※全5日間の集中講座とする。

※遠隔授業となった場合、Zoomによるオンライン授業となる

キーワード	認知症、日常倫理、倫理的葛藤
教科書	最新老年看護学第4版 日本看護協会出版会(2023年版)
参考書	適宜、紹介する
評価方法・評価基準	評価方法:発表資料・プレゼンテーション80点、討議への参加度20点 評価基準:①事例に合わせた看護を展開できているか ②福井県の地域特性を調べられているか

	③課題が明確に示されているか
	④課題を解決するための具体的な解決策が提示されているか
	⑤発表資料の構成は分かりやすく、相手に伝わりやすいプレゼンテーション
	が行えていたか
関連科目	専門教育科目全般
履修要件	発展セミナーに先行して開講される講義・演習・実習科目を原則として修得していなけれ ばならない
必要な事前・事後学修	オリエンテーション時に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、事例をもとに認知症看護の倫理的課題を解決する視点を身に つけられるように演習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

看護教育学

Nursing Education

				0			
担当教員名 川村 みどり							
科目区分 専門 计	選択	授業方法	演習	授業の実施	方法 対面授業	対象学年	4年
開講期 後期	単	i位数 1	オフ	ィスアワー	講義終了後また 調整 (N409)	は事前のメール	連絡で日時
メールアドレス	kwmr2	2021 ア	ドレスの末尾	⊂ Г@fpu. ac. j	p 」をつけてくだ	さい	
授業概要	理解	◎看護と教育の共通性を学んだうえで、看護学教育の特徴を理解し看護を学ぶ自分自身の理解を深める◎自己教育力を高めるために、実践からの学びを促進するツールとしてリフレクションを学ぶ					
1. 看護教育を学ぶ意味が理解できる 2. 専門職としての看護と、看護を学ぶことで養う社会人基礎力を、理解できる 3. 看護を学ぶ意味を、多職種連携教育、自我同一性地位を通して理解できる 4. 看護におけるリフレクションの意義を考察し、自己の実習経験を Reflective Thinking によって理解できる (本授業は、DP5、DP6 に対応している。)							
授業計画・内容							

第1回 看護学教育とは何か

- ①看護と教育の同形性:教育を成り立たせるものと看護実践にける対象者との関係形成
- ②専門職としての看護と看護学教育と看護教育、看護教育学
- ③社会人基礎力と実習で養いたい社会人基礎力
- 第2·3回 多職種連携実践(IPW)と多職種連携教育(IPE)
 - ①IPE の定義と意義
 - ②保健医療福祉職による IPW とその課題
 - ③事例を用いた多職種連携と課題を理解する
- 第4回 看護学生のアイデンティティとプロフェッションフッド
 - ①自己の同一性地位を判定する
 - ②職業的アイデンティティと看護実践との関係を理解する
 - ③プロフェッションフッドの5要素と自身のプロフェッションフッドを理解する

第5回 看護の実践現場の特徴

- (1)専門職教育におけるリフレクションの意義を考察する
- ②リフレクションに必要なスキルを理解する
- 第6・7回 グループメンバーとのリフレクション; 看護学実習での自己の実践の振り返り
 - ①自身の実践をとおして、リフレクションに必要なスキルを考察する
- ②「自己との対話」と「他者との対話」を繰り返して実践の批判的分析を行い、自身の学びを明らかにする
 - ③グループ内で学びを共有する
- 第8回 看護職におけるキャリアマネジメントの必要性
 - ①リフレクションの経験と自己教育力、自己決定型学習の関連性を考察する

②個人のキャリアマネジメントを看護職としての成長の視点から考察する

※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業となる

キーワード	
教科書	指定しない
参考書	グレッグ美鈴ら編:看護教育学改訂第2版、南江堂(2018) 目黒 悟:教えることの基本となるもの—「看護」と「教育」の同形性、メジカルフレンド 社(2016) 勝原裕美子:看護師のキャリア論、ライフサポート社(2007)
評価方法・評価基準	グループワークと発表 (50%)、課題レポート (50%): 課題について自主的な取り組みや、メンバーとのワークによる学びなどから評価する。また、それらを通して、教育看護に関する主要な概念の理解の度合いを評価する。 ※遠隔授業になった場合の評価基準に変更はない。
関連科目	
履修要件	専門領域別看護学実習を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が、看護職に必要な教育学的視点や理論について講義・演習を 行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	グループワークには、必ず出席すること

災害看護学

Disaster Nursing

担当教員名 上木 礼子									
科目区分 専門 遊	選択	授業方法	講義・演	習	授業の実施	方法	対面授業	対象学年	4年
開講期 後期集中	単	位数 1	オ	トフィ	スアワー	-	(N416 研究室) 日時調整	随時:メー	ル等にて事
メールアドレス	上木	reikou17-2	@g.fpu.a	ас. јр					
授業概要	災害看護活動に必要な知識と基本的な心構えについて学ぶ。災害が人々の健康や生活に与える影響や災害時要配慮者のケアに関する文献や記事等を取り上げ、グループワーク、演習を通して、災害時の看護の役割について考える。								
災害とは、災害が人間生活におよぼす影響について理解する。 災害医療システムおよび災害サイクルについて学習し、生活者のニーズの変化にそった看 到達目標 護、支援体制やネットワークについて理解を深める。 災害看護の基本的な心構えや役割を考えることができる。 (本授業は、DP5、DP6 に対応している)									
授業計画・内容									

本授業は全8回、4日間の集中講義で実施します。災害時における看護活動の基本的な心構えを学びます。

- (1) 災害の概念、災害の分類とその特性・傷病の特徴、特殊災害(被ばく医療など)の特徴、日本における 防災体制・災害に関連する法律
 - (2) 災害サイクルと各期の特徴的な健康問題と看護の役割
 - (3) 災害時のトリアージ、被災者の回復プロセス・こころのケア 、援助者のケア
 - (4) 災害から学ぶ 災害時の情報とアセスメント
 - (5)災害時要配慮者・避難行動要支援者へのケア、個としての被災者の生活、集団生活(避難所、仮設住宅)、

地域での看護

- (6) 避難所での看護の視点、関連組織との連携
- (7) 国際支援システム、国際支援での看護活動
- (8) 災害時シミュレーション(グループワーク)
- ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。

キーワード	災害拠点病院、トリアージ、災害時要配慮者、災害サイクル、災害看護
教科書	酒井明子, 菊池志津子編集:看護学テキスト 災害看護 一看護の専門知識を統合して実践 につなげるー, 南江堂
参考書	酒井明子, 永田恵子, 三澤寿美:ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3) 災害看護, メディカ出版 その他、必要時提示する。
評価方法・評価基準	評価方法:受講態度、課題レポートから総合的に評価する。 評価基準:授業・グループワークへの参加度(40%) 課題レポート(60%) ※遠隔実習となった場合は評価方法を変更することがある
関連科目	看護学全般
履修要件	
必要な事前・事後学修	その都度、提示する。

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師としての経験を活かして、災害時のサイクルに応じた知識と役割等について講義お よび演習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。

看護情報学

Nursing Informatics

担当教員名 笠井	‡ 恭子	- 大島 -	千佳	東知宏	2				
科目区分 専門 選	選択	授業方法	講義		授業の実施	方法	対面授業	対象学年	4年
開講期 後期集中	単	位数 1		オフィ	スアワー		(N414) 大島 (メールにて事i		東(N302): 整)
メールアドレス	笠井	:kasai 大!	島∶oshiı	ma 東∶a	azuma ※末J	尾に@f	pu. ac. jp		
授業概要	情報科学と看護の統合について学び、看護業務の質と効率を向上させるための情報技術の活用法を習得する。情報システムの基本的な知識、臨床への応用、データ管理、倫理的意意など、看護情報学に関する幅広いスキルと視点を養う。								
1. 看護情報学の基礎知識を習得できる 2. 医療情報システムや技術の活用法を説明できる 到達目標 3. データ管理、セキュリティ、倫理的配慮について説明できる 4. 情報技術を活用した臨床・教育・研究の効率化を実現する能力を修得できる (本授業は、DP5 と DP6 に対応している。)									
授業計画・内容									

第1回 看護情報学の基礎 (笠井)

看護情報学の基本概念、歴史、役割

第2回 医療情報システムの構造と機能(東)

電子カルテや意思決定支援システムの基礎

第3回 データ管理とセキュリティ(東)

データのプライバシー保護、リスク管理、セキュリティ対策

第4回 情報技術の臨床現場での応用(特別講義)

テレヘルス、モニタリングシステム、AI ツールの活用法

第5回 ワークフロー管理と自動化(特別講義)

看護業務の効率化を目的とした技術やツールの応用例

第6回 ビッグデータと看護研究(大島)

データ分析の基本と看護研究への応用

課題① ビックデータを用いた看護研究について調べその概要を発表する

第7回 看護教育とシミュレーション (大島)

教育分野におけるシミュレーション技術や e ラーニングの活用法

課題② 看護におけるシミュレーション教育の実践例について調べ発表する

第8回 看護情報学の未来と課題(笠井)

技術の進化、グローバルヘルスへの応用、倫理的課題

課題③ 医療現場における情報倫理的課題とその対策について調べ発表する

※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業で対応する。

キーワード	医療情報システム データ管理 ビッグデータ 情報倫理的課題
教科書	太田勝正他編:エッセンシャル看護情報学 2025 年度版、医歯薬出版株式会社、2025
参考書	授業の中で紹介する

	評価方法:期末試験(50%)と上記課題①②③の発表資料とプレゼンテーション(50%)
	により評価する
	評価基準:期末試験について
	・到達目標 1. 2. 3. について理解できているかを評価する
評価方法・評価基準	上記課題①②③の発表資料とプレゼンテーションの評価基準について
	・最新の情報をもとにまとめられているか
	・発表資料は構成が適切でわかりやすく、プレゼンテーション力は優れて
	いたか
	※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。
関連科目	専門教育科目全般
履修要件	特になし
1812511	1912-60
必要な事前・事後学修	上記課題①②③について、主体的に取り組む
実務経験のある教員	実務経験あり
による授業内容	看護師経験を有する教員が看護情報学に関する講義を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	特になし